

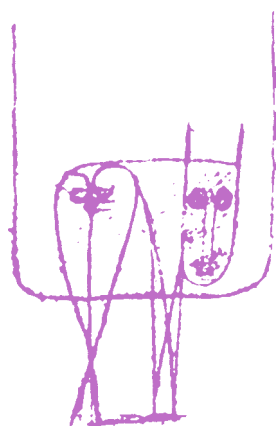
---

神奈川県立近代美術館  
年2016報

---

ANNUAL REPORT

---





---

---

神奈川県立近代美術館

---

年2016報

---

ANNUAL REPORT

---

---

# 目次

## [凡例]

- ・本年報に記載する人名は、敬称略とする。
- ・各学芸員の役職は「職員一覧」(p.68)を参照のこと。

あいさつ	3
展覧会活動	
2016年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉別館	16
教育普及活動	
教育普及活動	20
単独イベント	20
展覧会関連イベント	22
学校・地域向けプログラム	28
視察受入状況	31
美術図書室	31
美術館紹介・広報 掲載実績	33
刊行物	35
作品収集管理活動	
購入・寄贈状況	37
寄託状況	37
新収蔵作品一覧	37
館外貸出作品一覧	50
修復報告	52
修復作品一覧	56
調査研究活動	
調査・研究報告	57
香月泰男による新収蔵作品の3点と北川原コレクションの2点について[橋 秀文]	57
調査研究の発表・執筆等	61
外部資金の活用	61
「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備	62
講師派遣・外部委員等就任	64
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	65
PFI事業の概要	65
収入・支出の状況	65
関係法規	66
組織	67
職員一覧	68

## あいさつ

『神奈川県立近代美術館2016年度年報』を刊行いたします。

2015年度に旧鎌倉館のクロージングを終え、2016年度は、その後片付けの一年でありました。具体的には、鎌倉館の内外に設置されていた彫刻すべてを、一部を除いて葉山館の屋外に設置いたしました。また、旧鎌倉館では喫茶室の壁を飾っていた田中岑の大作《女の一生》(1957年)を解体撤去し、その後修復をほどこし、葉山館講堂前のホワイエに移設する作業もありました。

いうならば旧鎌倉館のシンボルである作品たちの移動の年であったのです。

そうした中で、イサム・ノグチの戦後の代表作のひとつ《こけし》(1951年)も、鎌倉から葉山に無事に迎えることができました。それは、とりわけ印象深く、画期的なことでした。関係者を招いた歓迎のイベントでは、《こけし》が設置された中庭で葉山町立葉山中学校吹奏楽部に演奏を披露して頂き、イベントに花を添えてくれました。また、清水九兵衛、山口牧生、アントニー・ゴームリーなどの作品も、引っ越しの結果葉山の庭園に加わり、葉山館はすっかり彫刻庭園美術館として一新されました。引っ越し後には彫刻にかかわる教育普及事業を連続して開催したのにくわえ、「わくわくゆったりマップ2016『彫刻はどこにいるの?』」を作成・一般配布し、彫刻の鑑賞ワークショップのツールとしても活用いたしました。

葉山館では、「近代洋画・もうひとつの正統 原田直次郎展」と題して、明治前半を代表する油彩画家・原田直次郎の本格的な回顧展を開催し、名前ばかりが喧伝されてきた画家の実像に迫りました。原田の留学先であったドイツからも協力を得ることができ、ようやく明治洋画の最重要の画家に国際的なコンテクストを含めて光を当てることができました。「クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—」展は、伝説的な人形アニメーション作家の全体像をうかがわせるにたる内容豊かな回顧展となりました。美術館からの招聘に応じてロンドンから30数年ぶりに二人が来日し、彼らにとっては初めてのライブ・ドローイングを会場で試み、多くのファンを喜ばせました。「陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展」は、アーティスト・カップルによる二人展です。東京を離れ、伊豆高原に理想的な暮らしと創作を追求してきた二人の足取りを辿りました。葉山館での2016年度最後の企画展「1950年代の日本美術—戦後の出発点」では、まさしく当館の誕生した時代を検証し、原点を確認いたしました。それは、鎌倉別館での「片岡球子展 面構シリーズを中心として」と「松本竣介 創造の原点」展、そして葉山館であらたに企画された館蔵品を活用した3本のコレクション展についても当てはまる、当館の美術館活動の根幹を再確認する作業でもありました。

三館体制から二館体制への本格的な移行期に、わたしたちは現在身を置いています。本年報にお目を通して頂き、忌憚のないご意見を頂ければまことに幸いです。

2018年3月

神奈川県立近代美術館長

水沢 勉

# 展覧会活動

## 2016年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料	観覧者数(人)			合計	他館との開催協力など
					有料	無料	うち 中学生 以下		
葉山館 企画展	近代洋画・もうひとつの正統 原田直次郎展	4/8 ～ 5/15	33日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,200円 1,050円 600円 100円	5,622	2,513	180	8,135	巡回： 埼玉県立近代美術館 岡山県立美術館 島根県立石見美術館
	クエイ兄弟 —ファントム・ミュージアム—	7/23 ～ 10/10	70日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,300円 1,150円 650円 100円	11,325	3,151	951	14,476	巡回： 三菱地所アルティウム 渋谷区立松濤美術館 岡崎市美術博物館(予定)
	陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展	10/22 ～ 1/15	70日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,200円 1,050円 600円 100円	5,792	3,254	325	9,046	
	1950年代の日本美術 —戦後の出発点	1/28 ～ 3/26	51日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 1,200円 1,050円 600円 100円	3,424	1,605	174	5,029	
小計			224日		26,163	10,523	1,630	36,686	
葉山館 コレクション展	コレクション展1： 明治の美術	4/8 ～ 5/15	33日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	6,314	2,513	180	8,827	
	コレクション展2： 光、この場所で 特集：坂倉新平	10/22 ～ 1/15	70日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	6,321	3,254	325	9,575	
	コレクション展3： 反映の宇宙 特集：上田 薫	1/28 ～ 3/26	51日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生 250円 150円 100円	4,016	1,605	174	5,621	
小計			154日		16,651	7,372	679	24,023	
鎌倉別館	片岡球子展 面構シリーズを中心として	7/30 ～ 9/25	51日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 600円 450円 300円 100円	2,833	1,220	405	4,053	
	松本竣介 創造の原点	10/8 ～ 12/25	69日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生 600円 450円 300円 100円	4,802	2,210	533	7,012	
小計			120日		7,635	3,430	938	11,065	
合 計(9展覧会)					50,449	21,325	3,247	71,774	

720

近代洋画・もうひとつの正統 原田直次郎展

Naojiro Harada Retrospective

ミュンヘンの美術アカデミーに最初の日本人画学生として学んだ原田直次郎(1863-1899)は、留学先のドイツで森鷗外と交友し、小説「うたかたの記」に登場する画学生・巨勢のモデルとなったことでも知られる洋画家である。西洋絵画のアカデミックな技術と理論を携えて1887(明治20)年に帰国し、洋画排斥運動のさなかで画業・評論・教育活動に奮闘するも36歳で病に斃れた原田直次郎の生涯を、ドイツ時代の《靴屋の親爺》や帰国後の大作《騎龍観音》(ともに重要文化財)をはじめとする絵画、挿絵や書簡類に師や友、弟子たちの仕事を交え、ドイツで新規制作した紹介映像などを含めて紹介。没後10年目に鷗外らが組織した遺作展から約100年ぶりの回顧展として概観した。

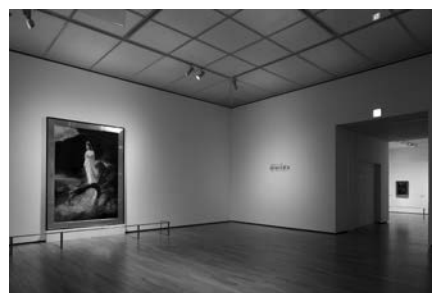
主 催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、  
美術館連絡協議会  
協 賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、  
日本テレビ放送網  
後 援：東京ドイツ文化センター  
協 力：日本航空、日本通運  
助 成：公益財団法人吉野石膏美術振興財団、  
公益財団法人ポーラ美術振興財団  
会 期：2016年4月8日(金)～5月15日(日)  
休 館 日：月曜日  
開 催 日 数：33日  
出 品 総 点 数：175点(巡回展 226点)  
総 観 覧 者 数：8,135人  
担 当 学 芸 員：三本松倫代、高嶋雄一郎  
巡 回 先：埼玉県立近代美術館、岡山県立美術館、  
島根県立石見美術館

関連企画

- 1) 記念講演会「直次郎と鷗外—ミュンヘンの青春」 4月9日(土)  
講師：芳賀 徹(静岡県立美術館長)
- 2) スライドレクチャー 5月1日(日)講師：安松みゆき(別府大学教授)
- 3) 国際シンポジウム「美術の19世紀—ドイツと日本」5月8日(日)  
パネリスト：稲賀繁美(国際日本文化研究センター教授)  
ヴォルフガング・シャモニ(ハイデルベルク大学 日本学研究所教授)  
田中 淳(東京文化財研究所客員研究員)  
ビルギト・ヨース(美術史家・アーキヴィスト、ドクメンタ・アーカイヴ所長  
[次期]、ベルリン)
- 4) ゲストトーク 5月14日(土)講師：河合哲夫(美術史家)
- 5) 子どものためのギャラリーツアー 5月3日(火・祝)、4日(水・祝)、7日(土)
- 6) 子どもの日スペシャル・ギャラリーツアー「『めいじ』ってなあに？」 5月5日(木・祝)
- 7) 館長トーク 4月24日(日)話し手：水沢 勉
- 8) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月10日(日)、5月3日(火・祝)
- 9) 先生のための特別鑑賞の時間 4月30日(土)



ポスター



会場風景

撮影：木奥恵三



会場風景

撮影：木奥恵三

## カタログ

サイズ：25.6×19cm、190,xxxivページ、販売価格：2,700円(税込)

編著者：吉岡知子(埼玉県立近代美術館)、大越久子(埼玉県立近代美術館)、水沢 勉、三本松倫代、高嶋雄一郎、鍵岡正謹(岡山県立美術館)、橋村直樹(岡山県立美術館)、左近充直美(島根県立石見美術館)、川西由里(島根県立石見美術館)、宮本久宣(和歌山県立近代美術館)

発行者：安田英晃

発行所：株式会社 青幻舎

デザイン：松田行正+日向麻梨子(マツダオフィス)

翻訳：山本仁志

編集：森 かおる(青幻舎)

印刷・製本：図書印刷株式会社

## 目次

画業に対峙する。——原田直次郎展開催にあたって(水沢 勉)

原田直次郎 その三十六年をたどる(吉岡知子)

## 図版

第1章 誕生(1863-1883)

Column1 原田家——父一進と兄豊吉と

第2章 留学(1884-1887)

Column2 ミュンヘン美術アカデミー ——原田直次郎が通った頃のこと

Column3 原田直次郎とユリウス・エクステル

Column4 「うたかたの記」とカフェ・ミネルヴァ

第3章 奮闘(1887-1899)

Column5 森 鷗外との競演——雑誌表紙・挿画の仕事

Column6 友人、長沼守敬と長原孝太郎の話

第4章 継承(1888-1910)

Column7 鍾美館と塾生たち

Column8 『原田先生記念帖』まで

## 論考・資料

原田直次郎が語る(編：宮本久宣)

鍾美館 設置願と廃校屈(編：大越久子)

ミュンヘン時代の原田直次郎とギリシア人画家ニコラオス・ギジス(橋村直樹)

《騎龍観音》巡り(鍵岡正謹)

原田直次郎のパスペクティブ——未完の翻訳から見えるもの(三本松倫代)

鍾美館で学んだ塾生達の軌跡——水野正英と久保田米斎を中心に(左近充直美)

原田直次郎 年譜(編：鍵岡正謹・橋村直樹)

主要参考文献(編：三本松倫代)

作品リスト・作品解説

List of Works

English summary

Confronting the Paintings: For the Retrospective of Naojiro Harada

(Tutomu Mizusawa)

Foreword

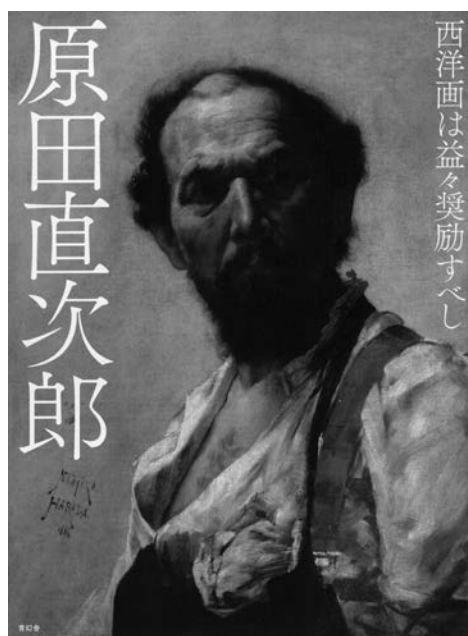
## 関連記事

### ▼展評・解説など

- ・水沢 勉「近代洋画史劈頭飾る傑作 原田直次郎展①」『読売新聞』2016年4月19日、32面
- ・三本松倫代「清新なリアリズム表現 重文に 原田直次郎展②」『読売新聞』2016年4月20日、34面
- ・児島 薫「原田直次郎、及びその周辺の人物に関する研究について」『美術運動史研究会ニュース』2016年4月20日(No.154)、pp.1-5
- ・高嶋雄一郎「賛否両論 油彩画の観音像 原田直次郎展③」『読売新聞』2016年4月21日、32面
- ・柏崎幸三「かながわ美の手帖 原田直次郎展 近代洋画・もうひとつの正統 洗練された早世の天才 日欧の風土の差に苦闘」『産経新聞』2016年4月24日、26面
- ・山根基世「今月の美術 再発掘。鷗外も支えた日本近代洋画の先駆者『近代洋画・もうひとつの正統 原田直次郎展』」『家庭画報』2016年5月1日(第59巻第5号)、p.284
- ・下野 綾「正統を貫いた洋画家 原田直次郎展 15日まで、近代美術館葉山」『神奈川新聞』2016年5月2日、6面
- ・「art news review 編集部が展覧会見て歩き 原田直次郎 西洋画に燃やしたもうひとつの青春」『芸術新潮』2016年5月25日(第67巻第5号)、p.158
- ・山下裕二「山下裕二のこれが欲しい、原田直次郎「素戔嗚尊八岐大蛇退治画稿」」『アートコレクターズ』2016年6月25日(No.87)、pp.52-53
- ・木下直之「田々展考——2016年の原田直次郎と黒田清輝」『国立新美術館研究紀要』2016年11月25日(No.3)、pp.198-213

▼展覧会紹介：3紙(3回)／1誌(1回)

▼情報掲載：6紙(21回)／11誌(18回)



カタログ



721

コレクション展1：明治の美術 ワーグマン、五姓田義松そして黒田清輝／神奈川県立歴史博物館所蔵作品とともに  
Museum Collection 1: Art of the Meiji Era - Charles Wirgman, Yoshimatsu Goseda and Seiki Kuroda - with works from  
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

明治時代に活躍した洋画家の原田直次郎に関連して、原田と同時代に生きた画家たちの作品を展示した。高橋由一らに大きな影響を与えたイギリス人画家チャールズ・ワーグマンをはじめ、本多錦吉郎の《中禅寺湖夜景》、中村不折の《根岸御行松附近夜景》、さらに2015年に神奈川県立歴史博物館で大回顧展が開催されて大きな話題を呼んだ五姓田義松の油彩画などで明治の美術を展望した。さらに前年度の新収蔵品から6点を選んで展示した。

主催：神奈川県立近代美術館  
特別協力：神奈川県立歴史博物館  
会期：2016年4月8日(金)～5月15日(日)  
休館日：月曜日  
開催日数：33日  
出品総点数：61点  
総観覧者数：8,827人  
担当学芸員：橋 秀文、土居由美

関連企画

- 1) 子どものためのギャラリーツアー 5月3日(火・祝)、4日(水・祝)、7日(土)  
子どもの日スペシャル・ギャラリーツアー「『めいじ』ってなあに？」 5月5日(木・祝)
- 2) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月23日(土)、5月7日(土)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 4月23日(土)

関連記事

▼情報掲載：4誌(5回)

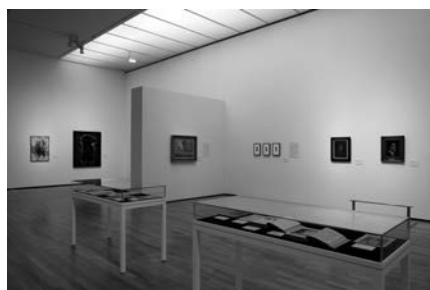


ポスター



会場風景

撮影：木奥恵三



会場風景

撮影：木奥恵三

722

クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—

The Quay Brothers: PHANTOM MUSAEUMS

スティーヴンとティモシーの双子のクエイ兄弟(1947-)は、1960年代にポーランドのポスターやアニメーションに触発され、ドローイングや書籍装丁から出発して、1979年からコラージュ、ストップ・モーション、実写、特殊効果などを組み合わせたアニメーション、長編映画、ミュージック・ビデオ、ダンス映像、ドキュメンタリー、テレビ・コマーシャルなどを精力的に作り続けている。また、彼らはオペラ、演劇などの舞台装置やパブリック・プロジェクション、ギャラリーや美術館のためのインスタレーションも手掛けてきた。こうしたクエイ兄弟の学生時代から現在に至る創作の軌跡を全面的に紹介するアジア初の個展。

主 催：神奈川県立近代美術館  
 協 賛：株式会社 資生堂  
 協 力：かなチャンTV  
 企画協力：株式会社イデッパ  
 会 期：2016年7月23日(土)～10月10日(月・祝)  
 休 館 日：月曜日(9月19日と10月10日は開館)  
 開 催 日 数：70日  
 出品総点数：220点(映像作品、写真パネルを含む)  
 総観覧者数：14,476人  
 担当学芸員：榎山昌夫、三本松倫代  
 巡 回 先：三菱地所アルティウム、渋谷区立松濤美術館、  
 岡崎市美術博物館

関連企画

- 1) クエイ兄弟公開制作 7月23日(土)
- 2) 特別上映会 8月6日(土)、7日(日)、11日(木・祝)、13日(土)、14日(日)、  
20日(土)、21日(日)、27日(土)、9月3日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)、  
25日(日)
- 3) カリグラフィーでかいてみよう! 8月28日(日)
- 4) 担当学芸員によるギャラリートーク 9月4日(日)、10月1日(土)
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 8月6日(土)



ポスター



会場風景

撮影：山本 糾



会場風景

撮影：山本 糾

## カタログ

サイズ : 36.5×20.0cm、173ページ、販売価格 : 3,240円(税込)  
著者 : クエイ兄弟  
発行者 : 足立欣也  
発行所 : 株式会社 求龍堂  
装幀 : 島田 薫  
編集 : 榎山昌夫、清水恭子(求龍堂)、柴田勢津子(株式会社イデッフ)  
印刷・製本 : 大日本印刷株式会社

## 目次

メッセージ(クエイ兄弟)

虚実皮膜の間——クエイ兄弟の魔術的世界への誘い(水沢 勉)

クエイ兄弟の世界(解説 : 榎山昌夫)

I ノーリスタウンからロンドンへ Norristown to London

ポーランド・ポスター Poland Posters

黒の素描 Black Drawings

学生時代の映画 Student Films

II 映画 Films

III ミュージック・ビデオ&コマーシャル Music Videos & Commercials

IV 舞台芸術&サイトスペシフィック・プロジェクト

Performing Arts & Sight-Specific Projects

V インスタレーション&展覧会 Installations & Exhibitions

資料

クエイ兄弟略年譜

主要参考文献

作品リスト

あとがきに代えて(榎山昌夫)

## 関連記事

### ▼展評・解説など

- ・ 永田晶子「美術 クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—この世ならぬ違和感」『毎日新聞』2016年8月24日夕刊、6面
- ・ 石川健次「Art Scene クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—」『サンデー毎日』2016年8月28日、p.122
- ・ 榎山昌夫「ぎゃらりいモール 神奈川県立近代美術館 葉山「クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム」から」『読売新聞』2016年9月6日夕刊、7面
- ・ (沙)「悪夢にも似た魔術的世界 「クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—」『トーキングヘッズ叢書』2016年8月7日(No.67)、p.19
- ・ 山村浩二、聞き手 : 小椋勝男「アート散歩 クエイ兄弟 ファントム・ミュージアム 神奈川県立近代美術館葉山(神奈川県葉山町)闇の立ち位置から慈しみ」『読売新聞』2016年9月11日曜版、5面
- ・ KAORU「こちらArt探偵社 vol. 101 今月はクエイ兄弟の不思議な世界怖い! ホラーの人形劇ですか? いいえ。クエイ兄弟による人形アニメーションです」『BAILA』2016年9月12日(第16巻第10号)、p.331
- ・ 赤塚若樹「クールな顔美の調べ 「クエイ兄弟 ファントム・ミュージアム」展」『美術手帖』2016年11月1日(No.1044)、pp.184-185

▼展覧会紹介 : 2紙(3回) / 2誌(2回)

▼情報掲載 : 5紙(32回) / 21誌(32回)



カタログ

723

陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展

In Praise of Sunlight:Koichi TANIKAWA and Chizuru MIYASAKO

画家・美術評論家として活躍する谷川晃一(1938-)と、妻で画家・エッセイストの宮迫千鶴(1947-2008)による二人展。夫婦ともに美術と著述の両分野において第一線で活動するが、その二人が理想とするライフ・スタイルに行き着いたのは、1988年に伊豆高原に移住してからだという。本展では、二人が東京から伊豆高原に移住し、海と山に囲まれた場所での暮らしの中から生み出された作品に焦点を当てて紹介した。アクリル画、水彩画、コラージュや布作品、身近にある様々な材料を組み合わせで作られたボックス・アート、そして最大の見どころは谷川による最新作。特に「雑木林シリーズ」と題された新作シリーズは、伊豆高原のアトリエの窓から見える緑豊かな雑木林の風景を、単純化されながらも豊かなフォルムと、発光するかのように輝くアクリル絵具で描いている。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2016年10月22日(土)～2017年1月15日(日)

※一部展示替

前期：10月22日(土)～11月27日(日)

後期：11月29日(火)～2017年1月15日(日)

休館日：月曜日(1月9日は開館)、12月29日(木)～1月3日(火)

開催日数：70日

出品総点数：133点

総観覧者数：9,046人

担当学芸員：土居由美、高嶋雄一郎

関連企画

- 1) 谷川晃一によるアーティストトーク  
「雑めく心」11月13日(日)、「陽光礼讃」12月3日(土)
- 2) ワークショップ「身近にある雑貨で作るボックス・アート」2017年1月7日(土)
- 3) 対談 谷川晃一×原田 光(美術評論家) 2017年1月14日(土)
- 4) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 11月20日(日)、12月18日(日)
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 12月4日(日)
- 6) 葉山町コラボ企画ギャラリー・トーク 12月11日(日)



ポスター



会場風景



会場風景

#### カタログ

サイズ：26.0×18.8cm、119ページ、販売価格：1,750円(税込)  
執筆：原田 光、加藤万里、水沢 勉、土居由美  
編集：神奈川県立近代美術館(土居由美、高嶋雄一郎)  
デザイン：桑畑吉伸  
発行：神奈川県立近代美術館

#### 目次

陰翳は光り、陽光は翳る。  
——谷川晃一と宮迫千鶴の展覧会開催にあたって(水沢 勉)  
谷川晃一 図版  
宮迫千鶴 図版  
作家からのメッセージ(谷川晃一)  
ふたりの呼応(原田 光)  
大きな命に触れた絵(加藤万里)  
作家へのインタビュー(聞き手：土居由美)  
展覧会歴・略年譜  
著書目録  
作品リスト

#### 関連記事

##### ▼展評・解説など

- ・谷川晃一×柏木 博「日常から再発見する谷川晃一の“雑めく”技法 エッセイ集『雑めく心』刊行／展覧会『陽光礼讃』開催を機に」『週刊読書人』2016年11月11日(第3164号)、1-2面
- ・藤島俊也「神奈川の文化時評 美術 エネルギーを美に転換「新宮 晋の宇宙船」「陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展」」『神奈川新聞』2016年12月2日、5面
- ・下野 綾「豊かな自然の中で創作 「陽光礼讃」1月15日まで、県立近美葉山」『神奈川新聞』2016年12月13日、5面
- ・西岡一正「海と森の暮らし、鮮やかに 神奈川で「陽光礼讃」展」『朝日新聞』2016年12月27日、4面
- ・渋沢和彦「伊豆高原のパワーに導かれ 陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展」『産経新聞』2017年1月8日日曜版、12面
- ・宮田徹也「美術 回顧 「陽光礼讃」 神奈川県立近代美術館葉山 神奈川県立近代美術館のこれから」『新かきわ』2017年2月5日、4面

##### ▼展覧会紹介：1紙(1回)／4誌(4回)

##### ▼情報掲載：6紙(31回)／18誌(35回)

##### ▼ウェブ

- ・NHK Eテレ日曜美術館ブログ「出かけよう、日美旅「日曜美術館」その舞台をめぐる 第31回 伊豆高原へ谷川晃一を感じる旅」2016年12月4日

##### ▼テレビ番組

- ・NHK Eテレ日曜美術館「絵は歌うように生まれてくる～画家・谷川晃一 森の生活～」2016年12月4日午前9時～9時45分放送(再放送：12月11日午後8時～8時45分)出演：谷川晃一、水沢 勉、加納光於、田島征三



カタログ

724

コレクション展2：光、この場所で 特集展示：坂倉新平

Museum Collection 2 : Light in This Space

Special Feature: Shinpei Sakakura

当館の絵画・彫刻コレクションから、光をテーマに、李 禹煥、高松次郎、松本陽子、小川待子、宮脇愛子、田淵安一、木村忠太、青山義雄、川端 実、猪熊弦一郎など1960年代以降の作品を展示した。同時に、1993年に鎌倉館で舟越 桂とともに2人展を開催し、坂倉新平(1934-2004)の作品27点を特集展示した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2016年10月22日(土)～2017年1月15日(日)

※一部展示替

前期：10月22日(土)～12月4日(日)

後期：12月6日(火)～2017年1月15日(日)

休館日：月曜日(1月9日は開館)、12月29日(木)～1月3日(火)

開催日数：70日

出品総点数：51点

総観覧者数：9,575人

担当学芸員：李 美那、橋 秀文

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 11月6日(日)、12月10日(土)
- 2) 先生のための特別鑑賞の時間 12月4日(日)
- 3) 葉山町コラボ企画ギャラリー・トーク 11月19日(土)

関連記事

▼展評・解説など

・ 柏崎幸三「かながわ美の手帖 近代美術館 葉山 特集展示「坂倉新平」余分なものは描かない リズム感のある作品に」『産経新聞』2016年11月27日、29面

▼展覧会紹介：2誌(2回)

▼情報掲載：6誌(9回)



チラシ



会場風景



会場風景

725

1950年代の日本美術—戦後の出発点

Japanese Art of the 1950s: Starting Point after the War

1950年代は、社会や政治における急激な変化の時代であると同時に、美術の新しい局面が次々に拓かれた時代でもある。銅版画(初年兵哀歌)シリーズで知られる浜田知明や、不条理な社会事件を絵画で追及した山下菊二、ジャンルを超えて自由な表現を求めた「実験工房」、関西を拠点に先鋭的な活動を行った「具体美術協会」の活動もこの時期に始まった。当館が日本初の公立の近代美術館として鎌倉に開館したのは1951年であり、その草創期の活動は、本展で焦点をあてる1950年代の美術の流れと呼応しながら進められてきた。本展では、多様化していく表現形式や、復興とともに変化を遂げる社会と美術との関わりを、アンフォルメル、ルポルターージュ絵画など、この時期の絵画表現の展開とともに、コレクションを中心に再検証を行った。

主催：神奈川県立近代美術館  
 協力：かなチャンTV  
 会期：2017年1月28日(土)～3月26日(日)  
 休館日：月曜日(3月20日は開館)  
 開催日数：51日  
 出品総点数：99点  
 総観覧者数：5,029人  
 担当学芸員：西澤晴美、橋 秀文、川人未来

- 関連企画
- 1) オープニングイベント 1月28日(土)
    - ①記念講演会「私の50年代、そして友人たちのこと」  
講師：池田龍雄(アーティスト)
    - ②巻上公一(音楽家)によるパフォーマンス
  - 2) 壁画《女の一生》葉山移設記念イベント 2月4日(土)
    - ①記録映像の上映
    - ②修復担当学芸員によるトーク
  - 3) ワークショップ①「モバイルをつくる」 2月5日(日)
    - ②「フォトグラムをつくる」 2月12日(日)
    - ③「土のねんどで描く」 2月25日(日)
  - 4) ワークショップ「音とかたち 電子音楽を聴いて図形楽譜をかりてみよう」  
3月25日(土) 講師：檜垣智也(作曲家・アコースモニウム奏者)
  - 5) 担当学芸員によるギャラリートーク 2月11日(土・祝)、3月4日(土)
  - 6) 先生のための特別鑑賞の時間 3月4日(土)



ポスター



会場風景

撮影：木奥恵三



会場風景

撮影：木奥恵三

カタログ

サイズ：25.9×19.4cm、95ページ、販売価格：1,750円(税込)

執筆：水沢 勉、橋 秀文、西澤晴美、川人未来

表紙デザイン：梯 耕治

本文デザイン：五反田由貴

制作：株式会社 野毛印刷社

編集・発行：神奈川県立近代美術館

目次

あいさつ

謝辞

1950年代を再考する。(水沢 勉)

1950年代の美術史と美術館(西澤晴美)

図版(解説：橋 秀文、西澤晴美、川人未来)

〈初年兵哀歌〉シリーズを中心とした浜田知明の1950年代の版画について(橋 秀文)

人物関係図

関連年表(編：川人未来、西澤晴美)

主要参考文献(編：西澤晴美、橋 秀文)

作品リスト

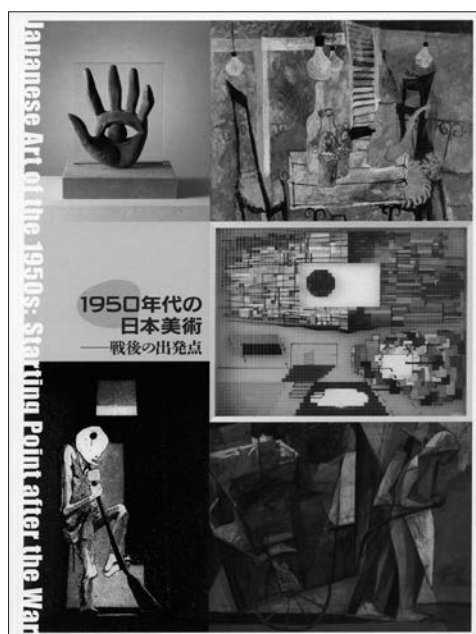
関連記事

▼展評・解説など

- ・ 宮川匡司「戦後美術の胎動に力点 「1950年代の日本美術」展」『日本経済新聞』2017年2月8日、36面
- ・ 宮田徹也「美術 1950年代の日本美術—戦後の出発点 神奈川県立近代美術館 研究に基づいた展覧会へ」『新かながわ』2017年2月12日、2面
- ・ 西岡一正「評「1950年代の日本美術—戦後の出発点」展 新たな枠組みで時代検証」『朝日新聞』夕刊、2017年2月21日、4面
- ・ 石川健次「Art Scene／1950年代の日本美術—戦後の出発点」『サンデー毎日』2017年2月26日、p.118
- ・ 藤田一人「「1950年代の日本美術」展 時代の指標としての芸術」『公明新聞』2017年3月8日、5面
- ・ 足立 元「美術館は「自己批判」しない」『美術手帖』、2017年4月1日(No.1051)、pp.198-200

▼展覧会紹介：1紙(1回)／5誌(5回)

▼情報掲載：7紙(39回)／14誌(27回)



カタログ



726

コレクション展3： 反映の宇宙 特集：上田 薫

Museum Collection 3 : A Universe of Reflections

Special Feature : Kaoru Ueda

当館の版画コレクションから長谷川 潔、浜口陽三、丹阿弥丹波子、草間彌生、秀島由己男、柄澤 齋らによる44点を厳選し、モチーフのガラスや水、鏡などに描出される多様な反映のイメージをさぐった。また、特集として、鎌倉市在住作家である上田 薫をとりあげ、近年収蔵された油彩8点を中心に、最新作を含む16点を紹介した。スーパーリアリズムの先駆者として知られる上田の世界を、作家のトレードマークである〈なま玉子〉以前、すなわち1970年の《貝殻》を起点に、1990年代のシリーズ〈流れ〉、2000年代の〈Sky〉に至る展開から捉え直し、一貫して追求されてきた独自の反映のイメージをたどった。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2017年1月28日(土)～3月26日(日)※一部展示替  
前期：1月28日～3月5日、後期：3月7日～3月26日  
休館日：月曜日(3月20日は開館)  
開催日数：51日  
出品総点数：60点  
総観覧者数：5,621人  
担当学芸員：朝木由香、萩山昌夫

関連企画  
1) アーティストトーク 3月11日(土) 講師：上田 薫  
2) 担当学芸員によるギャラリートーク 2月11日(土・祝)、3月5日(日)  
3) 先生のための特別鑑賞の時間 3月4日(土)

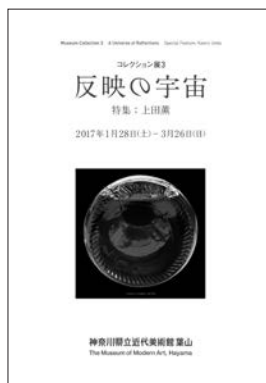
小冊子  
サイズ：21.0×14.8cm、6(本体)、II(挿込)ページ、無料配布  
執筆：上田 薫、朝木由香  
制作：株式会社 野毛印刷社  
編集・発行：神奈川県立近代美術館

目次  
上田 薫「寝ていた貝殻が 立ち上がる」  
朝木由香「上田 薫の『反映の宇宙』」  
主要文献  
展覧会歴  
出品リスト

関連記事  
▼展評・解説など  
・下野 綾「見つめ直す創造の根源 上田 薫を特集 近美葉山で『反映の宇宙』展」『神奈川新聞』2017年3月6日、6面  
▼展覧会紹介：3誌(3回)  
▼情報掲載：1紙(1回)／8誌(14回)



チラシ



小冊子



会場風景

撮影：木奥恵三



会場風景

撮影：木奥恵三

727

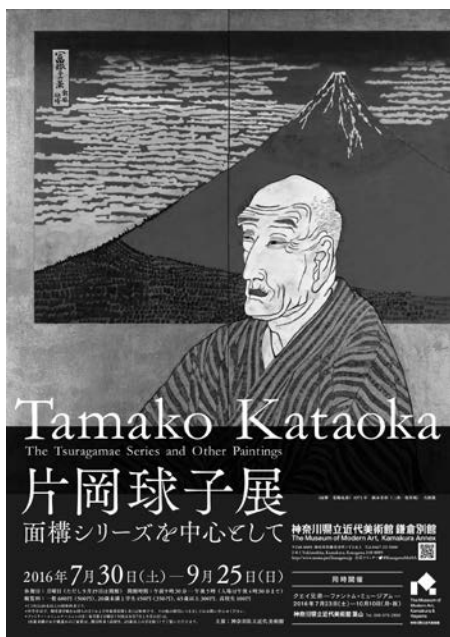
片岡球子展 面構シリーズを中心として

Tamako Kataoka : The Tsurugamae Series and Other Paintings

日本画家片岡球子(1905-2008)が亡くなって8年がたった。神奈川県立近代美術館と片岡球子との縁はとて深く、1979年には初の回顧展、2005年には100歳を記念する大規模な回顧展を開催した。片岡球子の芸術を改めて振り返る意味で、本展では所蔵作品の中から「面構シリーズ」を中心に選りすぐりの約20点を展示した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2016年7月30日(土)～9月25日(日)  
休館日：月曜日(9月19日は開館)  
開催日数：51日  
出品総点数：20点  
総観覧者数：4,053人  
担当学芸員：橋 秀文、西澤晴美、松尾子水樹

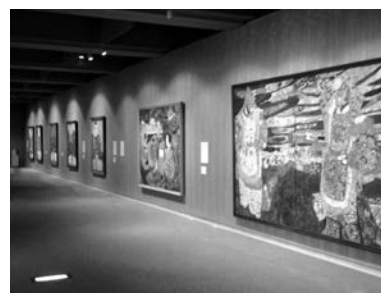
関連企画  
1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 7月30日(土)、9月11日(日)  
2) 先生のための特別鑑賞の時間 8月20日(土)



ポスター



チラシ



会場風景



会場風景

カタログ

サイズ : 29.5×21cm、55ページ、販売価格 : 1,300円 (税込)

執筆 : 水沢 勉、橋 秀文、西澤晴美、松尾子水樹

デザイン : 飯村哲也デザイン事務所、TAMURA DESIGN 田村保寿

制作 : 朝日オフセット印刷株式会社

編集・発行 : 神奈川県立近代美術館

目次

序 (水沢 勉)

神奈川県立近代美術館所蔵作品に見られる片岡球子芸術の特色 (橋 秀文)

図版 (解説 : 橋 秀文、西澤晴美、松尾子水樹)

片岡球子 略年譜

参考文献抄

所蔵作品リスト

関連記事

▼ 展覧会紹介 : 1紙 (2回) / 1誌 (1回)

▼ 情報掲載 : 4紙 (18回) / 12誌 (16回)



カタログ

728

松本竣介 創造の原点

Shunsuke Matsumoto : The Origin of His Creativity

画家・松本竣介(1912-1948)は、戦前から活動を開始し、戦中には麻生三郎、鬮光、寺田政明らと「新人画会」を結成。神奈川県立近代美術館では、1958年に公立の美術館で初めてその作品がまとめて展示された「松本竣介・島崎鶴二展」を開催したのをはじめ、1968年には旧鎌倉館の一室を「松本竣介記念室」として公開。また、1984年に鎌倉別館が開館してからしばらくの間は展示室の一部を「松本竣介コーナー」として展示替えしながら作品を紹介してきた。時代を超えて人々を魅了し続ける松本竣介の絵は、今や当館のコレクションにとって最も重要な位置を占めるばかりでなく、昭和前期の近代洋画史に欠くことのできないものとなっている。本展は、松本竣介の創造の原点を探るべく、2012年に葉山で開催された生誕100年回顧展を機に新たに発見された《聖橋風景》を含む油彩、素描のほか、竣介が残したスケッチ帖などを多数展示した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2016年10月8日(土)～12月25日(日)  
休館日：月曜日(10月10日は開館)  
開催日数：69日  
出品総点数：144点  
総観覧者数：7,012人  
担当学芸員：長門佐季、朝木由香、荒木 和

関連企画

- 1) 連続講演会(平成28年度県立社会教育施設公開講座)  
「松本竣介 その魅力をさぐる」(全5回)  
場所：鎌倉商工会議所会館 地下ホール  
第1回 10月8日(土) 講師：松本 莞(建築家/松本竣介次男)  
第2回 11月5日(土) 講師：寺田 農(俳優/寺田政明長男)  
第3回 11月12日(土) 講師：窪島誠一郎(「信濃デッサン館」「無言館」館主)  
第4回 11月26日(土) 講師：天童荒太(小説家)  
第5回 12月17日(土) 講師：歌田真介(修復家/東京藝術大学名誉教授)
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク 10月23日(日)、12月4日(日)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 12月18日(日)



ポスター



会場風景

## カタログ

サイズ：24.7×19.2cm、87ページ、販売価格：1,600円(税込)  
編集：神奈川県立近代美術館  
執筆：長門佐季、荒木 和、朝木由香  
翻訳：小川紀久子  
デザイン：馬面俊之  
制作・印刷：ニューカラー写真印刷株式会社  
発行：神奈川県立近代美術館

## 目次

あいさつ(水沢 勉)

生き続ける画家 松本竣介(長門佐季)

カタログ(解説：朝木由香、荒木 和、長門佐季)

第1章 初期作品

第2章 都会風景

第3章 生きている画家

第4章 子どもへの視線

終章 松本竣介 終わり始まり

再録

松本竣介の世界(土方定一)

松本竣介回想(麻生三郎)

先を歩いてくれた人、松本竣介(朝日 晃)

略年譜(編：荒木 和)

主要文献(編：荒木 和)

出品リスト

## 関連記事

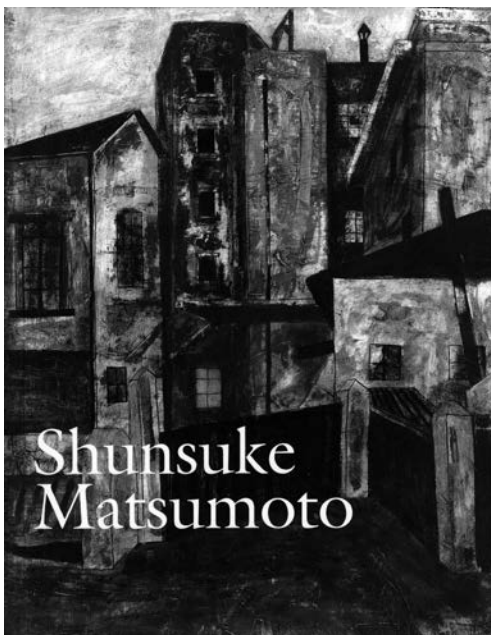
### ▼展評・解説など

- ・ 赤坂英人「pen selection ART 戦前から終戦を駆け抜けた、画家・松本竣介の創作の源。『松本竣介 創造の原点』』『Pen』2016年11月15日(No.417)、p.130
- ・ 窪田直子「青年画家とたどる65年「松本竣介」展」『日本経済新聞』2016年11月16日、44面
- ・ 下野 綾「新資料で迫る創造の原点 松本竣介展 12月25日まで、県立近美鎌倉別館」『神奈川新聞』2016年11月25日、5面
- ・ 上林 格「美の履歴書 479 宝物のように持つわけ 「りんご」 松本竣介」『朝日新聞』2016年12月13日夕刊、3面

### ▼展覧会紹介：4誌(4回)

### ▼情報掲載：4紙(25回)／12誌(24回)

- ▼テレビ番組：テレビ神奈川 目で聴くテレビ「松本竣介展」2017年1月14日午前8時～8時30分(再放送2017年1月17日午前8時30分～午前9時)出演：長門佐季



カタログ

## 教育普及活動

### 単独イベント

#### 彫刻プロジェクトin葉山2016

##### 「イサム・ノグチ《こけし》、葉山へようこそ!」

本プロジェクトは、2012年から2013年にかけて開催された「アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクトin葉山 TWO TIMES—ふたつの時間」を受けて、美術館の位置する葉山と野外彫刻作品という二つのテーマを軸に開催されたものである。

2016年度は、鎌倉館の屋内外に設置されていた彫刻作品を葉山館へ移設したことをきっかけに開催された。鎌倉から移設された9点の彫刻に、いっそう慣れ親しんでもらい、また彫刻そのものをあらためて考えるきっかけを与え、葉山の町をより深く知るために、創作を主とするワークショップを企画・開催した。講師には、彫刻家をはじめとして、葉山・鎌倉にゆかりのある作家を選出した。またすべてのワークショップが実施された後には、イサム・ノグチ《akari》の特別展示を行った。

#### 1) イサム・ノグチ《こけし》ウェルカムパーティー

日 時：7月17日(日) 午後4時～4時30分

場 所：葉山館 中庭、講堂

参加者数：70名

内 容：館長トーク 水沢 勉「《こけし》からのメッセージ」

葉山町立葉山中学校 吹奏楽部による演奏

《こけし》移設ドキュメント映像の上映

(「イサム・ノグチ《こけし》葉山へようこそ!」制作：テレビマンユニオン)

\*来場者にわくわくゆったりマップ2016「彫刻はどこにいるの?」を贈呈



イサム・ノグチ《こけし》ウェルカムパーティー

#### 2) 子ども向けワークショップ：わくわく彫刻探検

日 時：①8月5日(金) ②8月27日(土) 各日午前11時～12時

場 所：葉山館 庭

講 師：高嶋雄一郎

参加者数：①27名 ②10名



子ども向けワークショップ わくわく彫刻探検

#### 3) ワークショップ：糸と布で「彫刻」を立ち上げる

日 時：9月10日(土) 午後1時～4時

場 所：葉山館 講堂

講 師：沖 潤子(刺繍アーティスト)

参加者数：22名



ワークショップ 糸と布で「彫刻」を立ち上げる

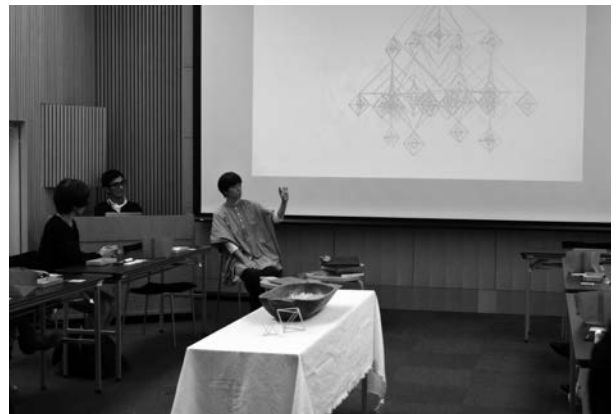
#### 4) ワークショップ：「彫刻」を「線」から考える

日 時：9月22日(木・祝) 午後1時～4時

場 所：葉山館 講堂

講 師：おおくぼともこ(造形作家)

参加者数：15名



ワークショップ 「彫刻」を「線」から考える

- 5) ワークショップ：ビジュツカンのまわりのフーケイから  
 チョウコクをみつけて、ホントーのチョウコクをつくってみよう  
 日 時：10月9日(日) 午後1時～5時  
 場 所：葉山館 庭、講堂  
 講 師：富井大裕(彫刻家)  
 参加者数：8名

\*成果物の展示を下記の日程で行った。

- 会 期：10月10日(月・祝)～10月16日(日)  
 各日午前9時30分～午後5時  
 場 所：葉山館 講堂



ワークショップ ビジュツカンのまわりのフーケイからチョウコクをみつけて、ホントーのチョウコクをつくってみよう

- 6) ワークショップ：見えない風景in葉山  
 日 時：10月29日(土) 午前10時～午後4時  
 場 所：葉山町内  
 講 師：下道基行(美術家、写真家)  
 参加者数：4名



ワークショップ 見えない風景in葉山

- 7) ワークショップ：葉山の自然をうつしとる  
 日 時：11月19日(土) 午前11時～午後4時  
 場 所：葉山館 庭、講堂  
 講 師：館鼻則孝(現代美術家、ファッションデザイナー)  
 参加者数：70名



ワークショップ 葉山の自然をうつしとる

- 8) 特別展示：《akari》  
 出 品：《akari 120A》、《akari 100D》  
 日 時：12月6日(火)～2017年1月29日(日)  
 場 所：葉山館 第3展示室ロビー  
 協 力：株式会社オゼキ



イサム・ノグチ《こけし》(中央)と《akari》2点

撮影：山本 糾

## 展覧会関連イベント

### 葉山館

#### 720 近代洋画・もうひとつの正統 原田直次郎展

##### 1) 記念講演会「直次郎と鷗外—ミュンヘンの青春」

日 時：4月9日(土) 午後1時～2時30分

場 所：葉山館 講堂

講 師：芳賀 徹(静岡県立美術館館長)

参加者数：70名



記念講演会「直次郎と鷗外—ミュンヘンの青春」 芳賀 徹

##### 2) スライドレクチャー

日 時：5月1日(日) 午後2時～3時

場 所：葉山館 講堂

講 師：安松みゆき(別府大学教授)

参加者数：40名



スライドレクチャー 安松みゆき

##### 3) 国際シンポジウム「美術の19世紀—ドイツと日本」

日 時：5月8日(日) 午後1時～4時

場 所：葉山館 講堂

パネリスト：稲賀繁美(国際日本文化研究センター教授)  
ヴォルフガング・シャモニ(ハイデルベルグ大学  
日本学研究所 教授)

田中 淳(東京文化財研究所 客員研究員)

ビルギト・ヨース(美術史家・アーキヴィスト、  
ドクメンタ・アーカイヴ所長[次期]、ベルリン)

水沢 勉

三本松倫代(司会)

参加者数：55名

助 成：公益財団法人吉野石膏美術振興財団



国際シンポジウム「美術の19世紀—ドイツと日本」

##### 4) ゲストトーク

日 時：5月14日(土) 午後2時～3時

場 所：葉山館 展示室

ゲ ス ト：河合哲夫(美術史家)

聞 き 手：三本松倫代

参加者数：44名

##### 5) 子どものためのギャラリーツアー

日 時：①5月3日(火・祝) ②5月4日(水・祝) ③5月7日(土)  
午前11時～11時30分

場 所：葉山館 展示室

講 師：土居由美、川人未来、児矢野あゆみ

参加者数：①0名 ②1名 ③3名

##### 6) 子どもの日スペシャル・ギャラリーツアー「『めいじ』ってなあに？」

日 時：5月5日(木・祝) 午後2時～3時

場 所：葉山館 講堂、展示室

講 師：土居由美、川人未来、児矢野あゆみ

参加者数：4名

\*5)、6)ともに本展と「コレクション展1：明治の美術」との関連企画

##### 7) 館長トーク

日 時：4月24日(日) 午後2時～3時

場 所：葉山館 展示室

講 師：水沢 勉

参加者数：50名

##### 8) 担当学芸員によるギャラリー・トーク

日 時：①4月10日(日) ②5月3日(火・祝)  
各日午後2時～3時

場 所：葉山館 展示室

講 師：三本松倫代

参加者数：①35名 ②46名



## 721 コレクション展1 明治の美術

### 1) 学芸員によるギャラリートーク

日 時 : ①4月23日(土) ②5月7日(土) 各日午後2時から  
場 所 : 葉山館 展示室  
講 師 : ①橋 秀文 ②土居由美  
参加者数 : ①30名 ②23名

## 722 クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—

### 1) クエイ兄弟公開制作

日 時 : 7月23日(土) 午前10時~11時30分  
場 所 : 葉山館 展示室3  
出 演 : クエイ兄弟  
参加者数 : 120名



クエイ兄弟公開制作

### 2) 特別上映会

日 時 : 8月6日(土)、7日(日)、11日(木・祝)、13日(土)、  
14日(日)、20日(土)、21日(日)、27日(土)、  
9月3日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)、  
25日(日) 各日午後2時より  
場 所 : 葉山館 講堂  
参加者総数 : 延べ578名

### 3) カリグラフィーでかいてみよう!

日 時 : 8月28日(日) 午後2時~4時  
場 所 : 葉山館 講堂  
講 師 : 土居由美、川人未来  
参加者数 : 17名

### 4) 担当学芸員によるギャラリートーク

日 時 : ①9月4日(日) ②10月1日(土)  
各日午後2時~2時30分  
場 所 : 葉山館 展示室  
講 師 : 榎山昌夫  
参加者数 : ①62名 ②40名

## 723 陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展

### 1) 谷川晃一によるアーティストトーク

「雑めく心」  
日 時 : 11月13日(日) 午後2時~3時30分  
場 所 : 葉山館 講堂  
講 師 : 谷川晃一(出品作家)  
参加者数 : 40名

### 「陽光礼讃」

日 時 : 12月3日(土) 午後2時~3時30分  
場 所 : 葉山館 講堂  
講 師 : 谷川晃一(出品作家)  
参加者数 : 40名

### 2) ワークショップ「身近にある雑貨で作るボックス・アート」

日 時 : 2017年1月7日(土) 午後1時~4時  
場 所 : 葉山館 講堂  
講 師 : 土居由美、川人未来  
参加者数 : 20名

### 3) 対談 谷川晃一×原田 光

日 時 : 2017年1月14日(土) 午後2時~3時30分  
場 所 : 葉山館 講堂  
出 演 : 谷川晃一(出品作家)×原田 光(美術評論家)  
参加者数 : 76名



対談 左:谷川晃一 右:原田光

### 4) 担当学芸員によるギャラリートーク

日 時 : ①11月20日(日) ②12月18日(日)  
各日午後2時~2時30分  
場 所 : 葉山館 展示室  
講 師 : 土居由美  
参加者数 : ①12名 ②14名

### 5) 葉山町コラボ企画ギャラリートーク

日 時 : 12月11日(日) 午後2時~2時30分  
場 所 : 葉山館 展示室  
講 師 : 水沢 勉  
参加者数 : 14名

## 724 コレクション展2 光、この場所で

### 1) 担当学芸員によるギャラリートーク

日 時：①11月6日(日) ②12月10日(土)  
各日午後2時～2時30分  
場 所：葉山館 展示室  
講 師：李 美那  
参加者数：①0名 ②9名

### 2) 葉山町コラボ企画ギャラリートーク

日 時：11月19日(土) 午後2時～2時30分  
場 所：葉山館 展示室  
講 師：李 美那  
参加者数：4名

## 725 1950年代の日本美術―戦後の出発点

### 1) オープニング・イベント

#### ①記念講演会「私の50年代、そして友人たちのこと」

日 時：2017年1月28日(土) 午後1時30分～3時  
場 所：葉山館 講堂  
講 師：池田龍雄(アーティスト)  
参加者数：78名



記念講演会「私の50年代、そして友人たちのこと」 池田龍雄

#### ②巻上公一によるパフォーマンス

日 時：1月28日(土) 午後4時～5時  
場 所：葉山館 展示室2  
出 演：巻上公一(音楽家)  
参加者数：63名



パフォーマンス 巻上公一

### 2) 壁画《女の一生》葉山移設記念イベント(記録映像上映+講演)

日 時：2月4日(土) 午後2時～3時  
場 所：葉山館 講堂  
講 師：伊藤由美  
参加者数：23名



壁画《女の一生》葉山移設記念イベント 伊藤由美

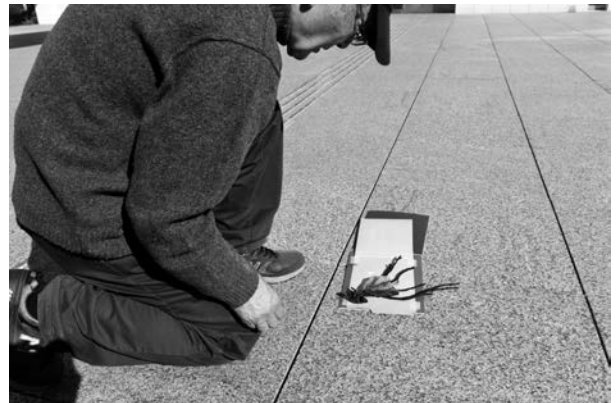
### 3) ワークショップ

#### ①「モバイルをつくる」

日 時：2月5日(日) 午後1時～4時  
場 所：葉山館 講堂  
講 師：松尾子水樹、川人未来  
参加者数：5名

#### ②「フォトグラムをつくる」

日 時：2月12日(日) 午後1時～3時  
場 所：葉山館 講堂  
講 師：松尾子水樹、川人未来  
参加者数：5名



「フォトグラムをつくる」

③「土のねんどで描く」

日 時：2月25日(土) 午後1時～3時

場 所：葉山館 講堂

講 師：松尾子水樹、川人未来

参加者数：5名



「土のねんどで描く」

4) 「音とかたち 電子音楽を聴いて図形楽譜をかいてみよう」

日 時：3月25日(土) 午後1時30分～3時30分

場 所：葉山館 講堂

講 師：檜垣智也(作曲家・アコースモニウム奏者)

参加者数：7名



「音とかたち 電子音楽を聴いて図形楽譜をかいてみよう」 檜垣智也

5) 担当学芸員によるギャラリートーク

日 時：①2月11日(土・祝) ②3月4日(土)

各日午後2時～2時30分

場 所：葉山館 展示室

講 師：①橋 秀文 ②西澤晴美

参加者数：①23名 ②13名

726 コレクション展3 反映の宇宙

1) アーティストトーク

日 時：3月11日(土) 午後2時～3時

場 所：葉山館 講堂

講 師：上田 薫(出品作家)

参加者数：68名



アーティストトーク 上田 薫

2) 担当学芸員によるギャラリートーク

日 時：①2月11日(土・祝) 午後1時～1時30分

②3月5日(日) 午後2時～2時30分

場 所：葉山館 展示室

講 師：朝木由香

参加者数：①13名 ②15名

## 鎌倉別館

### 727 片岡球子展 面構シリーズを中心として

#### 1) 担当学芸員によるギャラリートーク

日 時：①7月30日(土)②9月11日(日) 各日午後2時～3時  
場 所：鎌倉別館 展示室  
講 師：橋 秀文  
参加者数：①16名 ②25名

### 728 松本竣介 創造の原点

#### 1) 連続講演会(平成28年度県立社会教育施設公開講座)

「松本竣介 その魅力をさぐる」(全5回)  
場 所：鎌倉商工会議所会館 地下ホール

##### 第1回

日 時：10月8日(土) 午後1時30分～午後3時  
講 師：松本 莞(建築家/松本竣介次男)  
参加者数：66名



松本 莞

##### 第2回

日 時：11月5日(土) 午後1時30分～3時30分  
講 師：寺田 農(俳優/寺田政明長男)  
参加者数：56名



寺田 農

##### 第3回

日 時：11月12日(土) 午後1時30分～3時30分  
講 師：窪島誠一郎(「信濃デッサン館」「無言館」館主)  
参加者数：53名



窪島誠一郎

##### 第4回

日 時：11月26日(土) 午後1時30分～3時30分  
講 師：天童荒太(小説家)  
参加者数：45名



天童荒太

##### 第5回

日 時：12月17日(土) 午後1時30分～3時30分  
講 師：歌田眞介(修復家/東京藝術大学名誉教授)  
参加者数：52名



歌田眞介

#### 2) 担当学芸員によるギャラリートーク

日 時：①10月23日(日) ②12月4日(日)  
各日午後2時～2時30分  
場 所：鎌倉別館 展示室  
講 師：①長門佐季 ②橋 秀文  
参加者数：①16名 ②42名

## 単独イベント

### 1) ミュージアム・トラバース

日 時 : 8月11日(木・祝) 午後1時~5時  
場 所 : 鎌倉別館  
担 当 : 松尾子水樹、三本松倫代  
参加者数 : 9名



ミュージアム・トラバース

### 2) わくわく彫刻探検

日 時 : ①8月13日(土)②8月14日(日)各日午前11時~12時  
場 所 : 鎌倉別館  
担 当 : 松尾子水樹、三本松倫代  
参加者数 : ①2名 ②8名



わくわく彫刻探検

### 3) 鎌倉別館 建築トーク&ツアー

日 時 : 11月27日(日) 午後3時~4時30分  
場 所 : 鎌倉別館 展示室、庭園  
講 師 : 松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)  
参加者数 : 20名



建築トーク&ツアー 松隈 洋

### 4) 彫刻プロジェクトin鎌倉2016 「クリスマス・スペシャル

狩野志歩 映像インスタレーション 「鎌倉別館にて」

日 時 : ①12月24日(土) ②12月25日(日)  
各日午後5時~5時45分

場 所 : 鎌倉別館

出 演 : 狩野志歩(映像作家)、渡邊ゆりひと(音楽家)

参加者数 : ①50名 ②60名



彫刻プロジェクトin鎌倉2016 渡邊ゆりひと

## 学校・地域向けプログラム

### 1) 先生のための特別鑑賞の時間(全7回)

鑑賞の授業づくりを実践する教員や学校関係者を支援するプログラム。今年度は、展覧会鑑賞と解説、意見交換を行う「鑑賞編」と、鑑賞活動ツール『Museum Box 宝箱』の体験を通じて鑑賞の授業づくりを学芸員と一緒に考える「実践編」を開催した。



先生のための特別鑑賞の時間 12月18日

#### 「実践編」

日時：4月23日(土)午後1時30分～4時

場所：葉山館 講堂、展示室

担当：橋 秀文、土居由美、川人未来

参加者数：7名

#### 「鑑賞編」

日時：4月30日(土)午前10時～12時30分

場所：葉山館 講堂、展示室

担当：三本松倫代、土居由美、川人未来、児矢野あゆみ

参加者数：11名

日時：8月6日(土)午前10時～12時30分

場所：葉山館 講堂、展示室

担当：靱山昌夫、川人未来、児矢野あゆみ

参加者数：8名

日時：8月20日(土)午前10時30分～12時

場所：鎌倉別館 展示室

担当：西澤晴美、松尾子水樹

参加者数：10名

日時：12月4日(日)午前10時～12時30分

場所：葉山館 講堂、展示室

担当：土居由美、川人未来

参加者数：9名

日時：12月18日(日)午前10時30分～12時

場所：鎌倉別館 展示室

担当：長門佐季、松尾子水樹

参加者数：13名

日時：2017年3月4日(土)午前10時～12時30分

場所：葉山館 講堂、展示室

担当：西澤晴美、朝木由香、土居由美、川人未来、児矢野あゆみ

参加者数：7名

### 2) ミュージアム・トリップ(全4回)

鎌倉市立第一中学校と連携し同校の生徒が教員、学芸員とともに、美術館で展覧会鑑賞やワークショップなどの体験授業を行うプログラム。



ミュージアム・トリップ

日時：5月26日(木)午後1時30分～4時

場所：鎌倉別館 展示室ほか

担当：松尾子水樹、川人未来

参加者数：18名

日時：6月9日(木)午後1時30分～4時

場所：鎌倉別館 展示室ほか

担当：松尾子水樹、川人未来

参加者数：14名

日時：6月30日(木)午後2時30分～4時

場所：葉山館 講堂、展示室

担当：川人未来

参加者数：14名

日時：9月8日(木)午後2時30分～4時

場所：葉山館 講堂、展示室

担当：川人未来、松尾子水樹

参加者数：13名

### 3) 博物館学芸員実習

期間：8月3日(水)～9月4日(日)(内10日間)

2名を受け入れ、学芸員資格取得のための博物館実習を行った。

#### 4) 高校生インターンシップ受入れプログラム

日 時：8月4日(木)～6日(土)、20日(土)～22日(月)  
各日午前9時30分～午後4時30分

相模原女子大学高等部、県立逗葉高校、県立瀬谷西高校、県立海洋科学高校、県立高浜高校、県立大津高校の6校10名の高校生インターンを葉山館と鎌倉別館で受け入れ、鑑賞や学芸員の仕事体験などのプログラムを実施した。



高校生インターンシップ受入れプログラム

#### 5) 中学生職業体験受入れプログラム

鎌倉市立岩瀬中学校、逗子市立逗子中学校、逗子市立久木中学校、葉山町立葉山中学校、葉山町立南郷中学校、横須賀市立大楠中学校の6校の2年生16名の中学生職場体験・職業体験を葉山館と鎌倉別館で受け入れ、鑑賞や美術館で働く人の仕事体験などのプログラムを実施した。

#### 6) 教員研修プログラム

日 時：8月2日(火)午後1時～4時30分  
県立総合教育センター「図画工作・美術・工芸の授業づくり研修講座」から20名を受け入れ、教員研修を実施した。

日 時：8月5日(金)、6日(土)  
各日午前9時30分～午後4時30分  
二宮町立二宮小学校から1名を受け入れ、鑑賞学習や美術館の役割を知る体験プログラムを実施した。

日 時：8月19日(金)午前9時～10時30分  
逗子・葉山・三浦合同「小学校・中学校初任者研修会」から26名を受け入れ、教職員新任研修を実施した。

日 時：2017年2月15日(水)午後2時40分～4時40分  
場 所：相模原市立桂北小学校  
担 当：土居由美、川人未来  
参加者数：30名  
相模原市緑区内の小学校から教員30名を受け入れ、「相模原市立小学校教育研究会図工部会」研修会の講師として研修を実施した。

#### 7) 出張授業

日 時：5月20日(金)午後1時～3時  
場 所：鎌倉市立第一中学校  
担 当：松尾子水樹、川人未来  
参加者数：18名

日 時：5月31日(火)午前8時50分～12時40分  
場 所：逗子市立久木中学校  
担 当：土居由美、川人未来  
参加者数：172名

日 時：6月1日(水)午前8時50分～午後2時20分  
場 所：逗子市立久木中学校  
担 当：土居由美、児矢野あゆみ  
参加者数：187名

日 時：7月6日(水)午前8時50分～12時40分  
場 所：逗子市立逗子中学校  
担 当：土居由美、川人未来  
参加者数：124名

日 時：7月8日(金)午前10時50分～12時40分  
場 所：逗子市立逗子中学校  
担 当：川人未来、児矢野あゆみ  
参加者数：114名

日 時：12月15日(木)午前8時50分～午後2時20分  
場 所：横浜市立瀬ヶ崎小学校  
担 当：松尾子水樹、川人未来  
参加者数：152名

日 時：2017年2月15日(水)午後1時30分～2時15分  
場 所：相模原市立桂北小学校  
担 当：土居由美、川人未来  
参加者数：26名

日 時：3月10日(金)午前10時40分～12時10分  
場 所：横浜市立六浦南小学校  
担 当：土居由美、川人未来  
参加者数：65名

#### 8) 『Museum Box 宝箱』貸出

2006年に発行、2011年に再版した『Museum Box 宝箱』は、子どものための鑑賞学習教材としてだけでなく、人と美術館を結ぶコミュニケーション・ツールとして活用されている。

貸 出 先：15校1館  
貸 出 総 数：141個  
利用総人数：1,040名  
主な貸出先：小学校、中学校、大学、美術館

### 9) 団体来館受入れプログラム

団体受入れについては、観覧前に美術館ルールブックを送るなどして、美術館の紹介や、鑑賞マナーの説明をするなど、美術館に親しめるような工夫を行っている。また、申込時の希望に応じて、担当学芸員による展覧会紹介や建築についての解説、鑑賞そして制作・ものづくりを内容とした特別ワークショップを開催した。

小学校：1校／延べ4回176名  
中学校：8校／延べ11回276名  
高等学校：3校／延べ3回66名  
特別支援学校：4校／延べ2回22名  
大学：6校／延べ4回304名  
生涯学習機関：7団体／延べ7回172名  
一般団体：15団体／延べ15回428名

### 10) 小町通り・八幡宮エリア鎌倉文化ゾーン

ミュージアムめぐりスタンプラリー

鎌倉別館とその近隣3館（鎌倉市鏑木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉国宝館）で連携したスタンプラリーを実施した。

期間：2016年4月9日(土)～2017年1月15日(日)  
4館景品引替数合計：945人  
当館景品引替数：97人

### 11) 「ミュージアム×建築めぐりのススメ」

4館連携企画「ミュージアムめぐりスタンプラリー」の5周年を記念して、主催4館の学芸員がそれぞれの館の歴史と建築をテーマにトークを行い、川喜多邸の見学会を併催した。

日時：11月23日(水・祝) 午後1時30分～2時30分  
場所：鎌倉市川喜多映画記念館  
講師：今西彩子(鎌倉市鏑木清方記念美術館学芸員)  
浪川幹夫(鎌倉国宝館学芸員)  
増谷文良(鎌倉市川喜多映画記念館学芸員)  
三本松倫代(神奈川県立近代美術館学芸員)

参加人数：30名



「ミュージアム×建築めぐりのススメ」

### 12) 鎌倉市川喜多映画記念館連携企画

「二十歳の無言館」上映とトークイベント

横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校の五年生が鑑賞の授業で旧鎌倉館を訪れていた。十年後、その子ども達が二十歳になり再会、旧鎌倉館や無言館を再び訪れる様子などをとらえたドキュメント映画「二十歳の無言館」(2016年、監督：森内康博、企画：高松智行、制作協力：株式会社らくだスタジオ)の上映と、監督や出演者によるアフタートークを行った。

日時：11月12日(土)①午前10時 ②午後2時

場所：鎌倉市川喜多映画記念館

ゲスト：①森内康博(映画監督)、「二十歳の無言館」出演者  
②窪島誠一郎(「信濃デッサン館」「無言館」館主)、  
森内康博、松尾子水樹

参加人数：①15名 ②52名



## 視察受入状況

年	月日	来館者	人数	視察場所
2016年(平成28年)	7月14日(水)	大阪市経済戦略局博物館改革担当部長	1人	葉山館
	8月2日(火)	神奈川県教育委員会	7人	葉山館
	8月26日(金)	鳥取県議会総務教育常任委員会	11人	葉山館
	9月8日(木)	大阪市議会議員	3人	葉山館
2017年(平成29年)	3月17日(金)	大阪市経済戦略局大阪新美術館建設準備室	11人	葉山館

## 美術図書室

藤代知子

### 1) 資料の収集・整理

・蔵書数(システム登録2017年3月末現在)	86,666冊
・2016年度新規図書・AV・図録登録数	3,594冊

### 2) 特別コレクション

- ・青木 茂文庫の登録
- ・堀内正和文庫の受入
- ・岡田泰三コレクションの図書受入

### 3) 閲覧サービス

・年間入室者数	4,103名(開館日1日平均18名)
・年間複写枚数	1,696枚(開館日1日平均8枚)
・年間レファレンス受付件数	137件

#### ・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会別で「クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—」が1日平均24名、「近代洋画—もうひとつの正統 原田直次郎展/コレクション展1 明治の美術」が1日平均20名と多かった。展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は概ね10%前後であったが、「1950年代の日本美術 戦後の出発点/コレクション展3 反映の宇宙 特集：上田 薫」が16%と最も高かった。

#### ・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「1950年代の日本美術 戦後の出発点/コレクション展3 反映の宇宙 特集：上田 薫」開催期間中が最も多く、計59件であった。

当年度のレファレンスとして、「オットー・ディックスの画集」「原田直次郎展図録に所収されている外山正一の論文」「向井潤吉の図録」「津田信夫の資料」「ピカソ、ブラック、シュヴァンクマイエルのコラージュ作品が載っている資料」「阿部展也の資料」「小川芋銭、菱田春草、竹内栖鳳、平福百穂の資料」などがあつた。

### 4) 展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。展覧会を見る前や後に、作家や作品の情報を得たり、更に知りたい内容を深めたりできると、来室者に好評を博している。

なお、展覧会関連資料の展示は鎌倉別館での展覧会についても行っているが、スペースの関係上、葉山館での展覧会を主としているため、ここでは葉山館の展覧会のみを記す。

#### ・「近代洋画—もうひとつの正統 原田直次郎展」

原田直次郎の個展は1909年に1日限り開催されて以来107年ぶりのため、もちろん展覧会図録も単独のものはない。『フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術』(東京国立近代美術館、1977)や『名画が彩る 日本の近代洋画展』(世田谷美術館、1988)、『森鷗外と3人の画家たち 装丁本と主人公画家 原田直次郎・大下藤次郎・宮 芳平』(豊科近代美術館、1997)といった展覧会図録や、芳賀 徹『絵画の領分 近代日本比較文化史研究』(朝日新聞社、1954)、『土方定一著作集 6 近代日本の画家論I』(平凡社、1976)を展示し、新関公子『森鷗外と原田直次郎 ミュンヘンに芽生えた友情の行方』(東京藝術大学出版会、2008)などの図書、没後の1910年に刊行、2015年に復刻された『原田先生記念帖』(明治美術学会・学藝書院、2015)を展示した。

#### ・「コレクション展1 明治の美術」

コレクション展の関連資料は、青木 茂『油絵初学』(筑摩書房、1987)など明治美術研究の基本文献から、『チャールズ・ワーグマン 没後100年記念』(神奈川県立歴史博物館、1990)、『浅井忠展 没後90年記念』(京都新聞社、1998)、『五姓田のすべて 近代絵画への架け橋』(神奈川県立歴史博物館・岡山県立美術館、2008)など出品作家に関わる近年の展覧会図録を紹介した。

#### ・「クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—」

クエイ兄弟の資料が少ないため、特集コーナーは次の3つの観点から展示した。

まず、北小路隆志「ブラザーズ・クエイ ムジカ・イマジネール 映画「ベンヤメンタ学院」」「美術手帖」第726号(1996年6月)、田中 純「奇妙な天使たち 言葉なきものの都市」『都市表象分析I』(INAX出版、2000)、昼間行雄編『ユーロ・アニメーション 光と影のディープ・ファンタジー』(フィルムアート社、2002)といったクエイ兄弟の掲載資料を基本とした。次に、クエイ兄弟が影響を受け、作品タイトルにもなったヤン・シュヴァンクマイエルやフランツ・カフカの資料もあわせて展示した。葉山館で2005年に開催されたシュヴァンクマイエル展図録『シュヴァンクマイエル展 造形と映像の魔術師』や『シュヴァンクマイエルの博物館 触覚芸術・オブジェ・コラージュ集』(国書刊行会、2001)、『オールアバウト シュヴァンクマイエル』(エスクァイアマガジンジャパン、2006)、『カフカの読みかた』(ステューディオ・パラポリカ、2014)を取り上げた。また、パペット・アニメーションやアニメーション全般についての資料、おかだえみこ『人形アニメーションの魅力』(河出書房新社、2003)、五味洋子『アニメーションの宝箱』(ふゅーじょんぷろだくと、2004)、小野耕世『世界のアニメーション作家たち』(人文書院、2006)なども展示した。

・「陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展」

それぞれに多くの著述があるため、著書を中心に展示した。

谷川晃一は、『からくた桃源境 からくた・キッシュ・フォークアート 東西南北縦横無尽』（勁草書房、1988）、『戦後風景と美術 傷ついた地平線』（風媒社、1995）、『土から空へ 伊豆高原のアトリエにて』（夢譚書房、1996）、『詩画集 ペランダの月』（ネット武蔵野、2003）、『これっていいね 雑貨主義』（平凡社、2014）、絵本の『お月さまにげた』（毎日新聞社、2005）、『ニャンニャンカーニバル』（ジャパンアート、2009）などを展示した。

宮迫千鶴は、『緑の午後 Green in the afternoon』（東京書籍、1991）、『コラージュ・ブック 絵のある生活』（日本放送出版協会、2002）、没後に刊行された『楽園の歲月 宮迫千鶴遺稿集』（清流出版、2009）、『アートを通じた言語表現 美術と言葉と私の関係』（河合文化教育研究所、2009）などを展示した。

・「コレクション展2 光、この場所で 特集展示：坂倉新平」

出品作家の個展図録や図書、例えば『木村忠太画集』（アート・よみうり、1980）、川端 実『ニューヨークの川端 実 Kawabata in New York』（コージー本舗出版部、1992）、『青山義雄展 色彩の詩人』（茅ヶ崎市美術館、2006）、『小川待子 生まれたての（うつつ）』（豊田市美術館、2011）などを展示した。

特集展示を行った坂倉新平については、当館で開催した展覧会図録『坂倉新平 今日の作家たち V・93 舟越 桂・坂倉新平展』（1993）をはじめ、『坂倉新平展 光の根源 クロスアート 坂倉新平・天野裕夫 二人展』（岐阜県美術館、2003）、『ガレリアグラフィカでの個展図録（1987・1998・2000・2002・2003・2005・2007・2009）』を展示した。この展覧会で坂倉新平を知り、美術図書館で資料を熱心に関覧・複写利用し、さらに現在購入できる資料がないか尋ねる利用者が多くみられた。

・「1950年代の日本美術―戦後の出発点」

1950年代という時代に着目した資料と、出品作家の資料を展示した。時代に着目した資料として、『1950年代 その暗黒と光芒』（東京都美術館、1981）、『絵画の嵐・1950年代』（国立国際美術館、1985）、ライトアップ展実行委員会編『1953年 ライトアップ展 新しい戦後美術像が見えてきた』（目黒区美術館・多摩美術大学、1996）、尾崎信一郎編『痕跡 戦後美術における身体と思考』（京都国立近代美術館、2004）、鈴木勝雄・榊田倫広・大谷省吾編『実験場 1950s』（東京国立近代美術館、2012）などを展示した。

出品作家の資料は、『大辻清司の写真 出会いとコラボレーション』（渋谷区立松濤美術館、2007）、太田智子・佐藤玲子・川浪千鶴編『池田龍雄 アヴァンギャルドの軌跡』（池田龍雄展実行委員会、2010）、川崎市民ミュージアム編『田中 岑作品集 いろいろ、そうそう』（求龍堂、2014）などを展示した。

・「コレクション展3 反映の宇宙 特集：上田 薫」

出品作家の資料として、『南 桂子全版画作品集』（中央公論美術出版、1997）、『長谷川 潔の全版画』（玲風書房、1999）、『浜口陽三全版画作品集』（中央公論美術出版、2000）、『池田良二銅版画集』（阿部出版、2001）、『草間彌生全版画集』（阿部出版、2005）、栃木県立美術館・神奈川県立近代美術館・柄澤 齊編『柄澤 齊展 版画、オブジェ、水彩、本 1971-2006』（栃木県立美術館・神奈川県立近代美術館・日本経済新聞社、2006）などを展示した。

特集の上田 薫については、『光の方へ…』（京都市美術館・京都新聞社、1997）、『上田 薫展 流れ一時間』（坂本善三美術館、1999）、野村重存ほか編『スーパーリアリズム絵画 上田 薫展 流れ移ろう瞬間の姿』（光と緑の美術館、2000）、相模原市民ギャラリー編『上田 薫展 自然その一瞬の輝き』（相模原市教育委員会、2003）、福岡市美術館・求龍堂編『静物画にひそむ謎。物・語 近代日本の静物画』（求龍堂、2016）などを展示した。

・追悼 中西夏之

10月23日に亡くなった中西夏之を追悼し、資料を展示した。

当館で開催した『着陸と着水 舞踏空間から絵画場へ』（1995）をはじめ、『中西夏之展 白く、強い、目前、へ』（東京都現代美術館、1997）、『中西夏之新作展 絵画の鎖・光の森』（渋谷区立松濤美術館、2008）などの個展図録を中心に集め、図書は、平田 実『超芸術 前衛美術家たちの足跡 1963-1969』（三五館、2005）、林 道郎『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない5』（ART TRACE、2007）を展示した。

また、ハイレッド・センターとしての活動がまとめられた赤瀬川原平『東京ミキサー計画 ハイレッド・センター直接行動の記録』（PARCO 出版局、1984）、名古屋市美術館・渋谷区立松濤美術館編『ハイレッド・センター「直接行動」の軌跡展』（「ハイレッド・センター」展実行委員会、2013）を展示した。

1) 美術館紹介記事

五十嵐太郎「鎌倉が誕生した1950年代を振り返る」『美術手帖』2016年4月1日(No.1035)、pp.112-115  
 北澤憲昭「鎌倉近代美術館というエトス」『美術手帖』2016年4月1日(No.1035)、pp.116-119  
 矢島智子「コンパス 閉館の調べ」『東京新聞』2016年4月2日夕刊、7面  
 山本一吉「風 社会の研究室 文学に現はれたる我が国民施設の研究 さようなら“カマキン”(神奈川県立近代美術館 鎌倉)行ってみたい美術館シリーズ(番外編)」『商業施設』2016年4月5日(No.393)、pp.31-32  
 草間俊介「葉山の魅力 英語冊子に 東京五輪向け町発行」『東京新聞』2016年5月17日、24面  
 円山 史、佐藤 純、永田 大「「世界遺産へ前進」地元、高まる期待 国立西洋美術館」『朝日新聞』2016年5月18日夕刊、6面  
 山名善之「コルビュジェの建築物世界遺産へ 弟子たちの作品にも価値」『読売新聞』2016年5月19日、21面  
 下野 綾「県立近代美術館の歩みを記録」『神奈川新聞』2016年5月24日、5面  
 菊川 怜、木村尚貴「文化の扉 モダニズム建築考 四角く無国籍 世界に衝撃 随所に感じた心地よさ 菊川 怜さん」『朝日新聞』2016年6月5日、32面  
 森田 睦「近代建築と世界遺産登録 丹下作品への期待と機運」『読売新聞』2016年6月9日、21面  
 宮田徹也「世界の公共美術館の今 私が見てきた世界の美術館の動向① 美術館の役割の変容」『新かながわ』2016年7月3日、4面  
 宮田徹也「第九回プチシンポジウム どうする?どうなる? 鎌倉近代美術館」『新かながわ』2016年7月3日、4面  
 浅田晃弘「国立西洋美術館世界遺産に モダニズム建築戦後の志 生活の中の文化財価値忘れがち 国際保存組織日本代表 松隈 洋氏に聞く」『東京新聞』2016年7月18日、3面  
 文：浅田晃弘、写真：七森祐也、北田美和子、平野皓士朗、沢田将人、佐藤哲紀、紙面構成：岡本恵里子「脈々と 世界文化遺産設計者 コルビュジェDNA 日本人3大弟子 吉阪隆正(1917~80年)師の思想広めた伝道師 前川國男(1905~86年)建築に技術の視点導入 坂倉準三(1901~69年)都市のターミナル提案」『東京新聞』2016年7月20日、30面  
 山名善之「識者評論 ル・コルビュジェの建築 日本にも広がる影響」『神奈川新聞』2016年7月23日、5面  
 松隈 洋「I-House & モダニズム建築 Part 1」『I-House Quarterly』2016年Fall(No.11)、pp.10-11  
 写真・ホンマタカシ「最新版 建築家ル・コルビュジェの教科書。トーマス・マイヤーがたどるル・コルビュジェが日本に残した足跡 04 旧神奈川県立近代美術館鎌倉」『CASA BRUTUS』2016年9月5日、pp.19-33  
 写真：菅井淳子、高橋 進、イラスト：ナガイクミコ、デザイン：鹿島一寛、取材・文：別所礼子「あの日に帰る旅 ラブストーリーでたどる夏の終わりの鎌倉 大人の恋で訪れたい、時を忘れる空間 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 鎌倉の木々の中に建つ美術館」

『女性セブン』2016年9月8日(第54巻第34号)、p.19

山本昭子「近代美術館鎌倉館本館 重要文化財指定へ」『神奈川新聞』2016年10月20日、17面  
 因幡健悦「「カマキン」県重文指定 来月正式決定」『毎日新聞』2016年10月23日、28面  
 佐藤百合「世界の代表「近美」満喫」『神奈川新聞』2016年10月24日、17面  
 石本健二「近美鎌倉館本館 県重要文化財に 戦後の建造物で初」『神奈川新聞』2016年11月9日、17面  
 岩本圭剛「コルビュジェと弟子の足跡たどる 美術館探訪建物も魅力∞」『日本経済新聞』2016年11月25日夕刊、7面  
 松隈 洋「I-House & モダニズム建築 Part 2」『I-House Quarterly』2017年Winter(No.12)、pp.10-11  
 文：シェリダン・パーク、訳：編集部「特集1 ル・コルビュジェの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献— topic6 近代遺産と世界遺産」『世界遺産年報』2017年12月15日(No.22)、p.17  
 兼松紘一郎「阪田誠造さんを偲んで[「時代を考える：そして鎌倉の近美」で鎌倉館に言及あり]」『DOCOMOMO Japan News Letter』Fall/Winter Edition 2017(No.22)、p.17  
 鈴木昌紹「県立近美鎌倉館本館 鶴岡八幡宮への無償譲渡を発表」『神奈川新聞』2016年12月22日、15面  
 齊藤大起、下野 綾「回顧 '16 考えさせられる美術館の役割 建築 近美鎌倉が県重文に 美術 “カマキン”が3月閉館」『神奈川新聞』2016年12月30日、16面  
 鈴木昌紹「定置網漁法を共同研究 県と富山県連携 美術品の相互貸借も」『神奈川新聞』2017年1月28日、19面  
 齊藤大起「コルビュジェに続け 前川國男建築で全国ネット「分かりやすさ」に課題」『神奈川新聞』2017年2月18日、23面  
 ほかに計56件

2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

太田治子「太田治子の湘南の名画から紡ぐストーリー 第1回 出発 古賀春江 「窓外の化粧」から」『かまくら春秋』2016年4月1日(No.552)、pp.46-47  
 森村泰昌「ニッポンの！な自画像5 松本竣介 立てる像」『なごみ』2016年5月1日(通巻437号)、pp.56-57  
 吉岡 潤「湘南で育った日本近代洋画 平塚市美術館で「萬鉄五郎×岸田劉生」展」『東京新聞』2016年5月21日、26面  
 酒井忠康、聞き手・宮川匡司「リーダーの本棚 世田谷美術館館長 酒井忠康氏 辺境から世界を見つめる」『日本経済新聞』2016年6月19日、19面  
 岸田恵理「信州美術散歩14 火山、爆発[片岡球子《火山(浅間山)》掲載]」『地域文化』2016年7月10日(通巻117号)、pp.8-9  
 中野 稔「美の美 白樺派の青春④ 真っすぐな若き同人たち 日本に西洋美術もたらす」『日本経済新聞』2016年7月17日、16-17面  
 中野 稔「美の美 白樺派の青春⑤ 新たな美術運動の源流に自分の目信じる流儀脈々」『日本経済新聞』2016年7月31日、16-17面  
 岡崎満義「漢詩への誘い46 蓬春記念館で柏梁体」『神奈川新

聞』2016年10月2日、16面

野呂法夫「小田原の杉野さん 県立近代美術館賞 横浜で女流  
美術家協展」『東京新聞』2016年10月20日、24面

太田治子「太田治子の湘南の名画から紡ぐストーリー 第8  
回 ゾウさん 松本竣介「象」から」『かまくら春秋』2016年11月1日  
(No.559)、pp.46-47

長門佐季「巻頭特集 アートと人生 松本竣介 戦時下の東  
京で、描くことを手放さなかった画家[松本竣介《立てる像》図版]」  
『美術の窓』2016年11月20日(No.418)、pp.46-47

太田治子「太田治子の湘南の名画から紡ぐストーリー 第12回  
古い絵葉書 高橋由一 「江の島図」から」『かまくら春秋』2017  
年3月1日(No.563)、pp.90-91

堀尾真紀子「名画に会う第84回 異彩放つ面構 片岡球子  
『面構 葛飾北斎』」『クレスコ』2017年3月1日(No.192)、p.46

山崎 均「表紙作品解説 山口勝弘《ヴィトリースNo.37》 神奈川  
県立近代美術館蔵」『紫明』2017年3月25日(第40号)、pp.78-79

鍵岡正謹「原田直次郎《騎龍観音》の「モデル」[原田一三を抱く  
原田さだ 撮影：中黒 實 神奈川県立近代美術館蔵]」『岡山  
県立美術館紀要』2017年3月31日(第7号)、pp.1-9

ほか計25件

3) ホームページ閲覧数(2016年4月～2017年3月)

ホームページ訪問者数	総数	510,715
参照ページ	総数	1,199,417

刊行物

1) 彫刻プロジェクトin葉山2016

「イサム・ノグチ《こけし》  
葉山へようこそ!」チラシ  
編集発行: 神奈川県立近代美術館  
デザイン: 軸原ヨウスケ(COCHAE)  
制作: 株式会社 野毛印刷社  
19.1×8.9cm、三つ折1枚、多色  
無料配布  
2016年6月発行



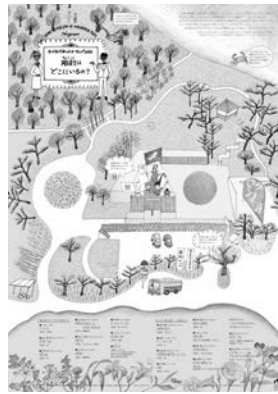
2) 夏休み企画告知チラシ

編集発行: 神奈川県立近代美術館  
デザイン・制作: 株式会社 野毛印刷社  
29.7×21cm、多色  
無料配布  
2016年7月発行



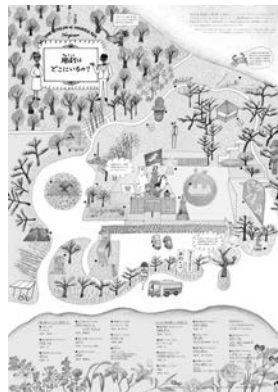
3) わくわくゆったりマップ2016:

彫刻はどこにいるの?  
発行: 神奈川県立近代美術館  
イラストレーション: 大神慶子  
デザイン: 軸原ヨウスケ(COCHAE)  
マップ59.4×42.0cm、  
シール29.7×21cm、多色  
無料配布  
2016年7月発行



4) 野外彫刻マップ:

彫刻はどこにいるの?  
発行: 神奈川県立近代美術館  
イラストレーション: 大神慶子  
デザイン: 軸原ヨウスケ(COCHAE)  
59.4×42.0cm、多色  
無料配布  
2016年9月発行



5) 美術館たより『たいせつな風景』

23号 特集: ここから、これから  
編集発行: 神奈川県立近代美術館  
協力: かなチャンTV  
制作: 朝日オフセット印刷株式会社  
デザイン: 飯村哲也デザイン事務所  
20.9×14.5cm、12ページ、  
多色13図、単色19図  
無料配布  
2016年11月発行

口絵 神奈川県立近代美術館  
2016年/Locus iste(この場所は)  
鎌倉からはじまった。そしてまた、はじめる。(水沢 勉) / 鎌倉にあることと近代美術館であること(木下直之) /  
作品解説 田中 岑《女の一生》 /  
写真構成 美術館を照らす / 鎌倉館クロージング



6) 彫刻プロジェクトin鎌倉2016

「鎌倉別館にて」チラシ  
編集発行: 神奈川県立近代美術館  
デザイン: Shin AKIYAMA /  
edition.nord  
14.4×21.0cm、二つ折1枚、多色  
無料配布  
2016年12月発行



7) 2017年度年間スケジュール

編集発行: 神奈川県立近代美術館  
制作: 株式会社 野毛印刷社  
22.5×10cm、ズラシ二つ折・  
蛇腹折3山1枚、多色10図  
無料配布  
2017年3月発行



8) 2015年度年報

編集発行: 神奈川県立近代美術館  
制作: リーヴル  
29.7×21cm、62ページ、  
多色1図、単色40図  
無料配布  
2017年3月発行  
あいさつ / 展覧会活動 / 教育普及  
活動 / 作品収集管理活動 / 調査  
研究活動 / 運営・管理報告



9) 美術館たより『たいせつな風景』

24号 特集：彫刻のある風景

編集発行：神奈川県立近代美術館

制作：朝日オフセット印刷株式会社

デザイン：飯村哲也デザイン事務所・  
迫水ヒサ

20.9×14.5cm、12ページ、多色4図、

単色3図

無料配布

2017年3月発行

イサム・ノグチの『こけし』に寄せて(岡

崎和郎)／大切な風景(関口涼子)

／あかり—ちょうちんに造型するあかり

の彫刻—(再録)(イサム・ノグチ)／

表紙作品解説 イサム・ノグチ《こけ

し》(長門佐季)



## 作品収集管理活動

### 2016年度 購入・寄贈状況

2017(平成29)年3月31日現在

(作品)

購入件数	4件
新規寄贈件数	555件
取得総件数	559件
収蔵総件数	14,787件
(2017年8月31日に二重登録を整理した加藤敏夫《浮遊する卵形(曇日)》1点を除く)	

(資料)

新規寄贈件数	323件
--------	------

### 2016年度 寄託状況

2017(平成29)年3月31日現在

(作品)

新規寄託件数	7件
合計	326件

(資料)

合計	701件
----	------

### 2016年度 新収蔵作品一覧

- [凡例] ・寸法の単位はcmである。イメージ寸法と支持体寸法は、「/」で区切り記載した。  
 ・表・裏両面に描かれている場合、タイトル、寸法、署名は、「//」で区切り記載した。  
 ・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。文字が判別できない場合は「□」で補った。

## 購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書き込み等	備考(刊行情報等)
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
上田 薫	ビンの底A	1984	油絵具、綿カンヴァス	130.3	130.3		中下：1984/ KAORU UEDA	
谷川晃一	雑木林のパレード	2016	アクリル、紙パネル	103.0	145.5			
<b>神奈川県立近代美術館賞</b>								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
杉野和子	潜	2016	油絵具、色鉛筆、パネル	162.0	388.0			第56回神奈川県 女流美術家展
<b>日本画</b>								
谷保玲奈	呼应	2016	紙本着彩	182.0	226.0			第52回神奈川県美術展

## 管理替え(文化課からの移管)

### 彫刻・インスタレーション

井上玲子	わたしと私	1978	アルミニウム	55.0	30.0	18.0		
江口 週	漂流と原形 80-2	1980	木(楠)	67.5	20.0	24.0		
砂澤ビッキ	北の王と王妃	1987	木(胡桃、セン)	138.0	76.0	66.0		
土谷 武	御供	1977	鉄(コールドレン鋼)、木	42.0	42.0	17.0		

## 寄贈

〈麻生美智子氏寄贈〉

### 油彩画・アクリル画など

麻生三郎	ファルギーエル	1938	油絵具、カンヴァス	45.5	53.0			
	男	1941	油絵具、カンヴァス	91.0	72.7			
	母子	1953	油絵具、カンヴァス	91.0	65.2			
	人	1958	油絵具、カンヴァス	130.3	162.0			

### 素描・水彩画など

麻生三郎	アルフレート・ゲース著、田中次郎訳 『不安の夜 死との語り』表紙画稿	1949頃	墨、紙	19.0	29.3		右下：ASO	出版東京 1953年2月
	芹沢光治良著『人間の運命』第1巻函原画	1958頃	鉛筆、紙	21.0	30.4		左下：ASO	新潮社 1962年7月
	ソルジェニーツィン著、木村 浩訳 『イワン・デニソフヴィチの一日』カバー原画	1959頃	墨、紙	15.5	23.8		右下：ASO	新潮文庫 1963年3月
	野間 宏著『真空地帯』口絵原画	1963頃	水彩絵具、鉛筆、紙	23.5	16.2			『日本の文学66 野間 宏』 中央公論社 1966年7月

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
麻生三郎	野間 宏著「暗い絵」挿画原画 1	1962頃	墨、紙	18.0	12.7		右中：A	同上
	野間 宏著「暗い絵」挿画原画 2	1962頃	墨、紙	17.9	12.6		左中：A	同上
	野間 宏著「暗い絵」挿画原画 3	1962頃	墨、紙	29.7	12.7		左下：ASO	同上
	野間 宏著「二つの肉体」挿画原画	1962頃	墨、紙	18.2	12.6		左下：A	同上
	野間 宏著「顔の中の赤い月」挿画原画	1962頃	墨、紙	18.2	12.6		中下：A	同上
	野間 宏著「残像」挿画原画	1962頃	墨、紙	18.0	12.4		下：A	同上
	野間 宏著「崩解感覚」挿画原画 1	1962頃	墨、紙	18.0	12.4		右中：A	同上
	野間 宏著「崩解感覚」挿画原画 2	1962頃	墨、紙	18.0	12.7		中下：A	同上
	野間 宏著「怨霊対談」挿画原画	1962頃	墨、紙	18.2	12.5		左下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 1	1962頃	墨、紙	18.0	12.5			同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 2	1962頃	墨、紙	18.2	12.4		中下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 3	1962頃	墨、紙	18.1	12.4		左下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 4	1962頃	墨、紙	18.2	12.4		左下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 5	1962頃	墨、紙	18.1	12.4		中：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 6	1962頃	墨、紙	18.0	12.5		左下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 7	1962頃	墨、紙	18.6	12.5		中下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 8	1962頃	墨、紙	18.0	12.6		左下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 9	1962頃	墨、紙	17.9	12.6		中下：A	同上
	野間 宏著「真空地帯」挿画原画 10	1962頃	墨、紙	29.7	12.7		左中央：ASO	同上
	野間 宏著「崩解感覚」口絵原画	1965頃	水彩絵具、墨、紙	33.2	22.0		右下：ASO	『日本文学全集35 野間宏』河出書房 1969年7月
	野間 宏著「青年の環」口絵原画	1965頃	水彩絵具、墨、紙	19.1	12.8		中下：ASO	『青年の環5 炎の場所』(新装版)河出書房新社 1971年1月
	野間 宏著「青年の環」(普及版)カバー原画	1969頃	墨、紙	20.2	30.0		中下：ASO	河出書房新社 1973年5月
	野間 宏著『暗い絵：第三十六号』カバー原画	1970頃	墨、紙	15.1	25.5		右下：ASO	旺文社文庫 1974年9月
	野間 宏著「暗い絵」挿画原画	1970頃	墨、紙	16.5	11.1		左下：ASO	同上
	野間 宏著「肉体は濡れて」挿画原画	1970頃	墨、紙	16.3	11.1		中下：ASO	同上
	野間 宏著「顔の中の赤い月」挿画原画	1970頃	墨、紙	16.5	11.1		右下：ASO	同上
	野間 宏著「第三十六号」挿画原画	1970頃	墨、紙	16.4	11.1		中下：ASO	同上
	椎名麟三著「永遠なる序章」口絵原画	1963頃	水彩絵具、墨、紙	23.5	16.0		右中：A	『日本の文学68 椎名麟三、梅崎春生』中央公論社 1968年1月
	椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画 1	1963頃	墨、紙	18.4	12.5		左下：A	同上
	椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画 2	1963頃	墨、紙	18.2	13.1		中下：A	同上
椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画 3	1963頃	墨、紙	18.5	12.8			同上	
椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画 4	1963頃	墨、紙	18.3	13.4		左下：A	同上	
椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画 5	1963頃	墨、紙	18.4	13.2		下：A	同上	
椎名麟三著「美しい女」挿画原画 1	1963頃	墨、紙	18.2	12.5		左上：A	同上	
椎名麟三著「美しい女」挿画原画 2	1963頃	墨、紙	18.4	12.4		中下：A	同上	
椎名麟三著「美しい女」挿画原画 3	1963頃	墨、紙	18.1	12.5		左下：A	同上	
椎名麟三著「美しい女」挿画原画 4	1963頃	墨、紙	18.3	12.8		左下：A	同上	
椎名麟三著「美しい女」挿画原画 5	1963頃	墨、紙	18.3	12.8		右下：A	同上	
太宰 治著「ダス・ゲマイネ」挿画原画	1964頃	水彩絵具、墨、紙	33.4	22.8		左下：ASO	『日本文学全集34 太宰治』河出書房 1968年5月	
太宰 治著「東京八景」挿画原画	1964頃	水彩絵具、木炭、墨、紙	33.2	22.9		右下：ASO	同上	
太宰 治著「ヴィヨンの妻」挿画原画	1964頃	水彩絵具、墨、紙	33.5	22.9		右下：ASO	同上	
太宰 治著「人間失格」挿画原画 1	1964頃	水彩絵具、墨、紙	33.0	23.6		左下：ASO	同上	
太宰 治著「人間失格」挿画原画 2	1964頃	水彩絵具、墨、紙	33.2	23.0		右下：ASO	同上	
川島屋六平著『塔雑記 式』表紙原画	1958頃	墨、紙	16.0	31.2		右下：A	帖面舎 1969年6月 私家版限定200部のうち	
『花』第6号カット原画【猫】	1940年代	鉛筆、紙	19.0	11.0		右下：ASO	1948年1月	
『新生』第4巻第3号目次原画 「オコル」	1940年代	墨、紙	15.8	11.0		右下：A	1948年4月	
『新生』第4巻第3号カット原画 「仲間ゲンカ」	1940年代	墨、紙	11.0	16.0		右下：ASO	同上	
『囲碁クラブ』第5巻第12号表紙原画	1954頃	水彩絵具、墨、紙	15.5	15.1		右下：ASO	1958年12月	
『囲碁クラブ』第6巻第3号表紙原画	1955頃	水彩絵具、墨、紙	14.7	15.0		右下：ASO	1959年3月	



作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
麻生三郎	『囲碁クラブ』第6巻第4号表紙原画	1955頃	水彩絵具、墨、紙	15.0	15.3		右下：ASO	1959年4月
	『囲碁クラブ』第6巻第5号表紙原画	1955頃	水彩絵具、墨、紙	15.5	15.5		右下：ASO	1959年5月
	『囲碁クラブ』第6巻第8号表紙原画 「日曜日」	1955頃	水彩絵具、墨、紙	15.3	15.0		右下：ASO	1959年8月
	『囲碁クラブ』第7巻第3号表紙原画 「河床を凌ぐ」	1956頃	水彩絵具、墨、紙	15.3	15.3		右下：ASO	1960年3月
	『囲碁クラブ』第7巻第4号表紙原画 「樹」	1956頃	水彩絵具、墨、紙	15.5	15.0		右下：ASO	1960年4月
	『囲碁クラブ』第7巻第9号表紙原画 「木場」	1956頃	水彩絵具、墨、紙	15.5	15.0		右下：ASO	1960年9月
	『囲碁クラブ』第7巻第10号表紙原画 「木立」	1956頃	水彩絵具、鉛筆、紙	15.6	15.0		右下：ASO	1960年10月
	『囲碁クラブ』第8巻第1号表紙原画 「日暮里駅より」	1956頃	水彩絵具、墨、紙	15.5	15.5		右下：ASO	1961年1月
	『囲碁クラブ』第8巻第11号表紙原画 「海」	1957頃	水彩絵具、鉛筆、紙	15.0	15.0		右下：ASO	1961年11月
	『囲碁クラブ』第8巻第12号表紙原画 「冬の家」	1957頃	水彩絵具、鉛筆、紙	15.5	15.2		右下：ASO	1961年12月
	『帖面』第6号カット原画 「桜の園」	1958	墨、紙	30.0	35.6		右下：ASO	1959年11月
	『帖面』第6号カット原画	1959頃	墨、紙	9.0	14.0		右下：ASO	同上
	『帖面』第9号表紙原画	1963頃	墨、紙	22.6	29.8		右下：ASO	1961年7月
	『帖面』第11号カット原画 「デッサン」	不詳 (1960年代)	墨、紙	15.2	15.2		右下：ASO	1962年8月
	『帖面』第12号カット原画 「雲」	不詳 (1960年代)	色鉛筆、紙	14.5	20.2			1963年4月
	『帖面』第15号カット原画 「當麻寺」	1953	鉛筆、パステル、 水彩絵具、紙	14.5	20.2		左上：當麻寺にて 一九五三年十月26日	1964年1月
	『帖面』第15号カット原画 「薬師如来像(法輪寺)」	不詳 (1960年代)	鉛筆、紙	19.7	14.0		右下：ASO	同上
	『帖面』第19号、20号表紙原画	1965頃	墨、紙	16.2	31.4			1965年1月、4月
	『帖面』第23号表紙原画	1966頃	墨、紙	16.1	31.2			1966年1月
	『帖面』第25号カット原画 「鬼の渋谷衛門 1」	不詳 (1960年代)	墨、紙	15.4	15.2		中下：ASO	1966年8月
	『帖面』第25号カット原画 「鬼の渋谷衛門 2」	不詳 (1960年代)	墨、紙	17.0	16.5		中下：ASO	同上
	『帖面』第25号カット原画 「わたしの心臓」	不詳 (1960年代)	墨、色鉛筆、紙	15.0	15.8		中下：ASO	同上
	『帖面』第26号表紙原画	1966頃	墨、紙	16.5	31.5			1966年10月
	『帖面』第27号表紙原画	1967頃	墨、紙	16.5	31.5			1967年1月
	『帖面』第28号表紙原画	1967頃	墨、紙	16.3	31.2			1967年4月
	『帖面』第29号表紙原画	1967頃	墨、紙	16.2	31.3			1967年7月
	『帖面』第30号表紙原画	1967頃	墨、紙	16.4	31.5			1967年10月
	『帖面』第31号表紙原画	1968頃	墨、紙	16.2	31.2			1968年1月
	『帖面』第32号目次、扉、カット、奥付原画(全6点)	不詳	墨、紙	3.2~7.0	2.7~9.0		中下：A	1968年4月
	『帖面』第33号目次、カット原画(全2点)	不詳	墨、紙	6.0; 8.0	3.6; 3.5		各右下：A	1968年7月
	『帖面』第34号表紙原画	1968頃	墨、紙	16.2	31.3		右下：A	1968年10月
	『帖面』第34号カット原画 「法起寺観音像」	不詳 (1960年代)	鉛筆、水彩絵具、紙	33.5	24.5		右下：ASO	同上
	『帖面』第34号目次、扉、カット、奥付原画(全7点)	不詳	墨、紙	4.3~7.9	2.8~9.5		右下：A	同上
	『帖面』第35号表紙原画	1969頃	墨、紙	16.2	31.3		右下：A	1969年1月
	『帖面』第35号目次、扉、カット、奥付原画(全13点)	1969頃	墨、紙	2.0~12.0	2.0~14.8		右下：A	同上
	『帖面』第36号表紙原画	1969頃	墨、紙	16.3	31.4		右下：A	1969年4月
	『帖面』第36号カット原画 「不動明王(奈良十輪院)」	不詳 (1960年代)	鉛筆、色鉛筆、紙	32	24			同上
	『帖面』第36号扉原画	不詳	墨、紙	7.7	6.2		右下：A	同上
	『帖面』第37号カット原画 「夜の八坂塔」	不詳 (1960年代)	鉛筆、紙	19.8	14.6		右下：夜の八坂塔 11/8	1969年7月
	『帖面』第37号カット原画 「魚養塚」	不詳 (1960年代)	鉛筆、紙	31.9	23.8		右下：魚養塚 ASO	同上
	『帖面』第37号目次、扉、カット原画(全3点)	不詳	墨、紙	2.8~7.5	3.3~9.0		各右下：A	同上
『帖面』第38号カット原画 「青梅市塩船観音」	不詳 (1960年代)	鉛筆、紙	17.3	14.0		右下：ASO	1969年10月	
『帖面』第38号カット原画 「野津田の薬師(脇侍)」	不詳 (1960年代)	鉛筆、紙	20.3	14.4		右下：ASO	同上	
『帖面』第39号表紙原画	1970頃	墨、紙	16.2	31.3		右中：A	1970年1月	
『帖面』第39号カット原画 「能」	不詳 (1960年代)	鉛筆、紙	24.8	32.5		左下：ASO	同上	
『帖面』第39号目次、扉、カット、奥付原画(全6点)	不詳	墨、紙	2.8~11.5	2.5~5.5		右下：A	同上	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
麻生 三郎	『帖面』第40号表紙原画	1970頃	鉛筆、紙	16.2	31.5		右下：A	1970年4月
	『帖面』第40号目次、扉、奥付原画(全3点)	不詳	墨、紙	4.0~6.0	2.5~5.5		右下：A	同上
	『帖面』第41号表紙原画	1970頃	墨、紙	16.2	31.6		右中：ASO	1970年7月
	『帖面』第43号表紙原画	1971頃	墨、紙	16.2	31.2		右下：A	1971年1月
	『帖面』第44号カット原画 「富貴寺壁画(大分・豊後高田市)I」	不詳	鉛筆、紙	23.0	16.0			1971年4月
	『帖面』第45号表紙原画	1971頃	墨、紙	16.2	31.5		右下：ASO	1971年7月
	『帖面』第45号目次、扉、カット、奥付原画(全6点)	不詳	墨、紙	3.0~11.5	3.0~6.0		右下：A	同上
	『帖面』第46号表紙原画	1971頃	墨、紙	16.1	31.5		右下：ASO	1971年12月
	『帖面』第46号カット原画	不詳	墨、紙	3.3	3.3		左上：ASO	同上
	『帖面』第47号表紙原画	1972頃	墨、紙	16.2	31.2		右下：ASO	1972年1月
	『帖面』第47号目次、扉、カット、奥付原画(全10点)	不詳	墨、紙	2.2~11.0	2.0~6.5		左下：A	同上
	『帖面』第52号表紙原画	1973頃	墨、紙	16.2	31.1		右下：A	1973年4月
	『帖面』第52号扉、奥付原画(全2点)	不詳	墨、紙	6.0: 3.5	4.0: 3.0		左下：A 中下：ASO	同上
	『帖面』第53号表紙原画	1974頃	墨、紙	16.2	31.3		右下：A	1974年4月
	『帖面』第53号目次、扉、奥付原画(全3点)	不詳	墨、紙	4.0~7.5	3.5~4.8		中下：A	同上
	『帖面』第55号表紙原画	1975頃	墨、紙	16.2	31.1		右下：ASO	1975年10月
	『帖面』第55号目次、扉、奥付原画(全3点)	不詳	墨、紙	3.0~6.5	3.0~5.5		右下：A	同上
	『帖面』第56号表紙原画	1977頃	墨、紙	16.2	31.4		右下：ASO	1977年3月
	『帖面』第57号表紙原画	1979頃	墨、紙	16.2	31.3		右下：ASO	1979年4月
	『帖面』第58号表紙原画	1982頃	墨、紙	16.2	31.4		右下：ASO	1982年2月
	『帖面』第58号目次原画	不詳	墨、紙	16.2	31.3		左下：A	同上
	『新潮』第58巻第6号目次、扉、カット原画(全22点)	1960年代	水彩絵具、墨など、紙	5.0~10.0	5.0~45.5		左下：A	1961年6月
	『新潮』第63巻第8号目次、カット原画(全7点)	1960年代	水彩絵具、墨など、紙	5.5~8.0	11.0~47.0		左下：A	1966年8月
	『新潮』第65巻第3号目次、扉、カット原画(全18点)	1960年代	水彩絵具、墨など、紙	3.0~10.5	3.0~44.0		右下：A	1968年3月
	『新潮』第66巻第9号目次、扉、カット原画(全18点)	1960年代	水彩絵具、墨、紙	3.0~8.0	3.0~44.0		右下：ASO、Aなど	1969年9月
	『小説現代』第7巻第5号挿画原画 「三人」	1958頃	水彩絵具、墨、紙	17.0	15.5		右下：ASO	1969年5月
	井上 靖著「聖者」カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		左下：A	『海』第1巻第2号 1969年7月
	椎名麟三著「危険な存在」カット原画	1960年代	墨、紙	7.2	11.5		右下：A	同上
	『海』第1巻第3号目次原画	1960年代	水彩絵具、墨、紙	7.2	47.5		左下：ASO	1969年8月
	石川 淳著「天馬賦」(完)カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		左下：A	『海』第1巻第4号 1969年9月
	辻 邦生著「背教者ユリアス」(第3回)カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		左下：A	同上
	平林たい子著「鉄の嘆き」(第3回)カット原画	1960年代	墨、紙	7.5	11.5		右下：A	同上
	武田泰淳著「富士」(第1回)カット原画	1960年代	墨、紙	7.0	11.5		左下：A	『海』第1巻第5号 1969年10月
	辻 邦生著「背教者ユリアス」(第4回)カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		左下：A	同上
	平林たい子著「鉄の嘆き」(完)カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		右下：A	同上
	深沢七郎著「土と根の記憶」カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		右下：A	同上
	舟橋聖一著「後京栄子のこと」カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		左下：A	同上
	阿部光子著「みずぎの花」カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		左下：A	『海』第1巻第6号 1969年11月
	宇野千代著「貞潔」カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		右上：A	同上
	庄野潤三著「バナマ草の親類」カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		右下：A	同上
	辻 邦生著「背教者ユリアス」(第5回)カット原画	1960年代	墨、紙	7.4	11.5		右下：A	同上
	長谷川四郎著「ボート屋」カット原画	1960年代	墨、紙	7.3	11.5		左下：A	同上
	『海』カット原画(全4点)	1960年代	墨、紙	7.3~7.5	各11.5		左下：A、右下：Aなど掲載号不詳	
『小金井』'83新年号扉原画 「太陽、鳥、木」	不詳	墨、紙	14.5	15.6		右中：A	小金井カントリー倶楽部 1983年3月	
『小金井』'83夏号扉原画 「よかお」	不詳	墨、紙	14.5	15.5		右下：A	小金井カントリー倶楽部 1983年9月	
『小金井』第77号扉原画 「日」	不詳	墨、紙	14.8	15.5		右下：A	小金井カントリー倶楽部 1986年4月	
『小金井』第101号扉原画 「蟻」	不詳	墨、紙	14.0	17.3		右下：A	小金井カントリー倶楽部 1992年6月	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
麻生三郎	『小金井』第102号扉原画 「虫」	不詳	墨、紙	13.0	10.3		右下：A	小金井カントリー倶楽部 1992年9月
	『小金井』第106号扉原画 「あつまる」	不詳	墨、紙	16.5	15.7		左下：A	小金井カントリー倶楽部 1993年9月
	『小金井』第108号扉原画 「ハト」	不詳	墨、紙	28.5	21.8		中下：ASO	小金井カントリー倶楽部 1994年3月
	カット原画(全34点)	不詳	墨、鉛筆、パステルなど、紙	2.0~25.7	4.0~35.8		下：ASO、Aなど	掲載誌紙不詳
	『お手帳』1967年カバー原画	1967	墨、紙	15.0	20.8		左下：A	蓬萊屋印刷所
	『お手帳』1967年見返し原画	1967	墨、紙	14.5	19.5			同上
	『お手帳』1968年カバー原画	1968	墨、紙	14.5	20.2		左下：A	同上
	『お手帳』1969年カバー表原画	1969	墨、紙	14.5	10.5		右下：A	同上
	『お手帳』1969年カバー裏原画	1969	墨、紙	14.5	10.3		右下：A	同上
	『お手帳』1969年見返し原画	1969	墨、紙	19.5	13.8		右下：A	同上
	『お手帳』1971年カバー原画	1971	墨、紙	14.5	20.3		左下：A	同上
	『お手帳』1975年カバー原画	1975	墨、紙	14.5	19.5			同上
	『お手帳』1977年カバー原画	1977	墨、紙	14.5	19.5			同上
	『お手帳』1978年カバー原画	1978	墨、紙	14.3	29.8		右下：A	同上
	『お手帳』1979年カバー原画	1979	墨、紙	14.5	20.2			同上
	『お手帳』1979年見返し原画	1979	墨、紙	14.5	20.2			同上
	『お手帳』1980年カバー原画	1980	墨、紙	14.5	20.2		右下：A	同上
	『お手帳』1980年見返し原画	1980	墨、紙	14.5	20.2			同上
	『お手帳』1981年カバー原画	1981	墨、紙	14.5	19.0		右下：A	同上
	『お手帳』1981年見返し原画	1981	墨、紙	14.5	18.8			同上
	『お手帳』1982年カバー原画	1982	墨、紙	14.5	18.5			同上
	『お手帳』1983年カバー原画	1983	墨、紙	15.0	18.8			同上
	『お手帳』1983年見返し原画	1983	墨、紙	14.5	19.0			同上
	『お手帳』1984年カバー原画	1984	墨、紙	14.5	18.5		右下：A	同上
	『お手帳』1984年見返し原画	1984	墨、紙	14.5	18.5			同上
	『お手帳』1985年カバー原画	1985	墨、紙	14.5	18.5		右下：A	同上
『お手帳』1985年見返し原画	1985	墨、紙	14.5	19.0			同上	
『お手帳』1986年カバー原画	1986	墨、紙	14.5	19.1		右下：A	同上	
『お手帳』1986年見返し原画	1986	墨、紙	14.5	19.0			同上	
『お手帳』1987年カバー原画	1987	墨、紙	14.5	18.8			同上	
『お手帳』1987年見返し原画	1987	墨、紙	14.5	19.0			同上	

## 日本画

高橋新吉	ねずみ	1945-1960	墨、紙	15.5	24.4		右下：高橋堂主人
	朝顔	1945-1960	墨、紙	24.0	24.3		右下：高橋堂主人
	一子像	1945-1960	墨、紙	24.6	21.7		右下：新吉
	仏画	1945-1960	墨、紙	30.8	28.5		左下：高橋堂主人
	三尊像	1945-1960	墨、紙	31.1	28.2		左下：高橋堂主人
	バンジー	1945-1960	墨、紙	33.2	24.0		左下：新吉
	栗	1945-1960	墨、紙	24.0	27.0		左下：新吉
	朝顔の花	1945-1960	墨、紙	27.0	24.0		左下：[印:新]

## 資料

麻生三郎ほか関連資料(全314点)：雑誌183点、書籍59点、新聞53点、書簡・原稿など8点、印刷物2点、その他9点

〈伊藤亜古氏寄贈〉

## 素描・水彩画など

朝倉 拱	《街頭に観る》構図//《街頭に観る》構図	1942頃	鉛筆//鉛筆、紙	38.1//38.1	29.0//29.0		
	自転車に乗る女性//荷物を持つ女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	37.1//37.1	28.0//28.0		右下：18.5.26// 右下：18.5.25
	荷物を持つ女性//座る女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		左下：18.5.25// 右上：18.5.27
	手提げ袋を持つ女性//傘をさす女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		中下：18.5.28// 右下：18.5.28

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
朝倉 拱	荷物を持つ女性//荷物を持つ女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		右下：18.5.15// 左下：18.5.15	
	荷物を持つ女性//荷物を持つ女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		右下：18.5.2// 右下：18.5.2	
	荷物を持つ女性//荷物を持つ女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		右下：18.5.15// 左下：18.5.15	
	自転車に乗る女性//座る女性	1943//1943	鉛筆//鉛筆、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		なし//右下：18.5.28	
	傘をさす女性//傘をさす女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		左下：昭和十八年 五月二十八日// 右下：18.5.29	
	傘をさす女性//傘をさす女性	1943//1943	鉛筆、水彩//鉛筆、紙	37.0//37.0	27.9//27.9		左下：18.5.29//なし	
	立つ女性	1944	鉛筆、水彩、紙	38.7	27.4		右下：昭和十九年 九月二十日	
	《歎び》スケッチ	1943	鉛筆、水彩、紙	39.4	21.7			
	《雪の径》スケッチ	1944	鉛筆、色鉛筆、紙	38.0	27.4		右下：昭和十九年 四月二十四日	
	《雪の径》構図	1944	コンテ、水彩、紙	20.9	12.3			
	座る女性//農作業をする女性	1945//1945	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	36.2//36.2	27.7//27.7		右下：20.9.21//なし	
	座る女性	1945	鉛筆、水彩、紙	36.2	27.7		右下：20.9.21	
	座る女性	1945	鉛筆、水彩、紙	36.2	27.7		左下：20.9.21	
	座る女性[響子像]	1945	鉛筆、水彩、紙	36.2	27.7		左上：昭和二十年 九月二十一日寫	
	裁縫をする女性	1945	鉛筆、水彩、紙	36.2	27.7		左下：20.9.21	
	座る女性	1945	鉛筆、水彩、紙	36.2	27.7		左下：昭和二十年 九月二十一日	
	裁縫をする女性//農作業をする女性	1945//1945	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	36.2//36.2	27.9//27.9		右下：20.9.22//なし	
	農作業をする女性//農作業をする女性	1945//1945	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	36.0//36.0	27.8//27.8		右下：20.11.27// 左下：20.12.7	
	農作業をする女性//女性の顔	1945//1945	鉛筆、水彩//鉛筆、紙	36.2//36.2	27.7//27.7		左下：20.12.7//なし	
	農作業をする女性//農作業をする女性	1945//1945	鉛筆//鉛筆、紙	27.8//36.1	36.1//27.8		左下：20.12.7//なし	
	農作業をする女性//農作業をする女性	1945//1945	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	36.3//36.3	27.8//27.8		右下：20.12.7//なし	
	農作業をする女性//農作業をする女性	1945//1945	鉛筆、水彩//鉛筆、水彩、紙	28.0//36.2	36.2//28.0		右下：20.12.7//なし	
	農作業をする女性//女性の顔、子供の顔	1945//1945	コンテ、水彩//鉛筆、紙	28.0//28.0	36.2//36.2		右下：20.12.7// 右下：20.12.7	
	農作業をする女性//農作業をする女性	1945//1945	鉛筆、水彩//コンテ、水彩、紙	36.3//36.3	27.7//27.7		右下：20.12.7// 右下：20.11.27	
	農作業をする女性	1945	鉛筆、水彩、紙	38.3	29.7		右下：昭和二十年 十二月二十二日	
	農作業をする女性//女性、顔と足	1945// 1945頃	鉛筆、色鉛筆//鉛筆、紙	38.3//38.3	29.6//29.6		左下：20.12.26// なし	
	農作業をする女性	1945頃	鉛筆、紙	38.2	29.5			
	農作業をする女性	1945頃	色鉛筆、紙	27.1	38.0			
	大根	1945頃	鉛筆、水彩、紙	27.2	37.8			
	農作業をする女性	1945頃	鉛筆、紙	37.8	27.1			
	農作業をする女性	1945頃	色鉛筆、紙	37.8	27.1			
	人、野菜	1945頃	鉛筆、水彩、紙	38.0	27.0			
	農作業をする女性	1946頃	鉛筆、紙	37.9	27.0		右下：21.1.4	
	農作業をする女性	1946頃	鉛筆、紙	37.8	27.0		右下：昭和二十一年 一月四日	
	農作業をする女性	1946頃	鉛筆、水彩、紙	37.8	29.2		右下：21.1.5	
	農作業をする女性//農作業をする女性	1946// 1946頃	鉛筆、水彩//水彩、紙	38.0//38.0	27.0//27.0		左下：21.1.5//なし	
	農作業をする女性//構図	1946// 1946頃	鉛筆、水彩//水彩、紙	37.8//37.8	29.0//29.0		左下：21.1.5//なし	
	農作業をする女性	1946	鉛筆、水彩、紙	37.9	27.0			
	農作業をする女性	1946	鉛筆、水彩、紙	37.9	27.0			
	農作業をする女性	1946	鉛筆、紙	37.8	29.2			
《黄衣》構図	1948	鉛筆、紙	19.7	19.2				
《黄衣》構図	1948	クレヨン、紙	26.3	27.1				
《黄衣》構図 他//本を読む女性	1948// 1948頃	鉛筆//色鉛筆、紙	27.1	37.9				

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
朝倉 拱	女性//女性	1940-1950	鉛筆//鉛筆、水彩、紙	40.0//40.0	27.2//27.0		□.10.25//なし	
	かつく女性	1940-1950	鉛筆、紙	36.5	26.7			
	座る男性//女性、裸婦	1940-1950	鉛筆//鉛筆、水彩、紙	27.0//27.0	37.8//37.8			
	裸婦	1951	コンテ、紙	35.5	24.8			右下:1951.8.9
	裸婦	1951	コンテ、紙	35.5	24.8			
	裸婦	1951	鉛筆、紙	35.5	24.8			
	裸婦	1951	鉛筆、紙	35.5	24.8			
	裸婦	1951	色鉛筆、紙	35.5	24.8			
	裸婦	1951	コンテ、紙	35.4	24.7			右下:1951.8.6
	裸婦	1951	コンテ、紙	35.4	24.7			右下:1951.8.6
	裸婦	1951	鉛筆、紙	35.5	24.7			
	裸婦	1951	鉛筆、紙	35.5	24.7			
	裸婦	1951	鉛筆、紙	35.5	24.7			
	裸婦	1951	コンテ、紙	38.7	27.0			
	裸婦	1951	コンテ、紙	35.4	24.7			
	《夫婦》構図	1953	鉛筆、紙	21.6	31.2			
	夫婦	1953	鉛筆、紙	38.0	25.7			
	夫婦	1953	鉛筆、紙	38.0	25.7			
	カット[たんぼぼ]	1945-1960	インク、紙	10.6	12.2			右下:SETsu
	カット[花]	1945-1960	インク、紙	12.6	16.2			中下:sa
	カット[横顔]	1945-1960	インク、紙	13.0	11.7			右下:SETsu
	カット[横顔]	1945-1960	インク、紙	13.0	11.7			
	スケッチブック	1951	インク、コンテ、鉛筆、紙	18.0	13.4			

#### 彫刻・インスタレーション

朝倉響子	Mary	1978	ブロンズ	37.0(含 台座53.0)	19.0	28.0	
	Nike	1981	ブロンズ	138.0(含 台座140.0)	47.5	69.0	
	Magda	1982	ブロンズ	49.0(含 台座155.0)	42.0	51.0	

#### 資料

朝倉 拱関連資料(全98点):写真65点/作品絵葉書7点/雑誌類6点/封書・葉書2点/展覧会案内状5点/展覧会招待券2点/切り抜き資料11点

〈岡田泰三氏寄贈〉

#### 版画

有 生夫[挿画]	小川国夫著『闇の人』	1971	エッチング、印刷、紙	21.5	14.7		湯川書房 1971年2月 限定70部のうち43 エッチング1葉
	福永幸弘編『湯川書房・湯川成一の肖像』	2009	エッチング、印刷、紙	21.5	15.3		伊東康雄 2009年9月 限定60部のうち59 エッチング2葉
大谷一良[挿画]	田中清光著『山の月』	1997	木版、印刷、紙	22.0	16.0		湯川書房 1997年12月 限定100部のうち30 木版3葉
大谷一良・ 串田孫一[挿画]	田中清光著『空峠』	1994	木版、色鉛筆、印刷、紙	24.0	18.5		湯川書房 1994年11月 限定50部のうち30 木版5葉;色鉛筆4葉
岡田露愁 [表紙、挿画]	岡田露愁著『魔笛』	1980	木版、印刷、紙	63.4	52.9		湯川書房 1980年10月 限定99部のうち30 木版53葉
岡田露愁[挿画]	杉本秀太郎訳詩『モーリス・メーテルランクの詩による エルネスト・ショーソンの歌曲 温室』	1982	木版、印刷、紙	24.0	22.5		湯川72俱樂部 1982年4月 限定108部のうち樽 木版5葉
貝原六一[挿画]	中村 隆著『向日葵』挿画	1972	シルクスクリーン、印刷、紙	21.3	20.0		湯川書房 1972年7月 限定55部のうち10 シルクスクリーン1葉
加藤清美[挿画]	吉行理恵著『道化の鳥』挿画	1971	エッチング、印刷、紙	18.0	18.0		湯川書房 1971年8月 限定50部のうち28 エッチング1葉
柄澤 齊[挿画]	モーリス・メーテルランク著、 杉本秀太郎訳『ペレアスとメリザンド』	1978	木口木版、印刷、紙	25.5	17.5		湯川書房 1978年4月 限定100部のうち30 木口木版10葉

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
柄澤 齊[表紙]	高柳 誠著『高柳誠詩集 卵宇宙／水晶宮／博物誌』	1983	木口木版(表紙)、印刷、 紙	18.0	18.0			湯川書房 1983年8月 第33回H氏賞受賞記念に よる著者私家版限定50部 のうち30
柄澤 齊[挿画]	柄澤 齊著『雅歌』	1985	木口木版、印刷、紙	19.0	13.5			湯川書房 1985年6月 限定70部のうち30 木口木版9葉
	柄澤 齊、高柳 誠、時里二郎著 『柄澤齊 肖像画展 詩朗読会テキスト』	1985	木口木版、印刷、紙	19.0	10.0			湯川書房 1985年3月 限定60部のうち29 私家版 木口木版1葉
	堀田善衛著『聖者の行進』	1986	木口木版、印刷、紙	21.0	14.6			湯川書房 1986年12月 著者私家版限定100部の うち30 筑摩書房『聖者 の行進』を改装 木口木版7葉
	高柳 誠著『綾取り人』	1987	木口木版、水彩、印刷、 紙	18.2	16.2			湯川成一 1987年9月 特装限定30部のうち26 木口木版1葉、水彩2葉
	富士川英郎著『讀書點心』	1993	木口木版、印刷、紙	17.0	13.5			湯川書房 1993年12月 限定100部のうち30 木口木版2葉
柄澤 齊・ 北川健次[挿画]	柄澤 齊、北川健次、高柳 誠、時里二郎著 『容器I』	1984	木口木版、エッチング、 印刷、紙	26.0	18.0			湯川書房 1984年9月 限定100部のうち30 木口木版3葉、エッチング1葉
	柄澤 齊、北川健次、高柳 誠、時里二郎著 『容器II』	1985	木口木版、リトグラフ、 印刷、紙	18.5	18.0			湯川書房 1985年12月 限定100部のうち30 木口木版・リトグラフ各2葉
	柄澤 齊、北川健次、高柳 誠、時里二郎著 『容器III』	1987	木口木版、エッチング、 印刷、紙	22.0	28.0			湯川書房 1987年7月 限定100部のうち30 木口木版2葉、エッチング1葉
北川健次[挿画]	時里二郎著『胚種譚』	1983	エッチング、印刷、紙	24.0	15.0			湯川書房 1983年7月 特装本限定30部のうち30 エッチング1葉
木村一生[挿画]	小川国夫著『燃える馬』	1981	エッチング、印刷、紙	23.5	17.5			日辰画廊 1981年11月 限定131部のうち103 エッチング5葉
木村 茂[挿画]	辻 邦生著『風塵』	1970	エッチング、印刷、紙	25.0	18.0			湯川書房 1970年4月 限定100部のうち24 エッチング1葉
木村 茂[表紙]	辻 邦生著『神さまの四人の娘』	1972	エッチング、印刷、紙	15.5	11.0			湯川書房 1972年12月 限定200部のうち64
黒崎 彰[表紙]	吉岡 実著『神秘的な時代の詩』	1975	木版、印刷、紙	23.8	18.0			湯川書房 1975年6月 限定150部のうち96
齊藤 修[挿画]	有田佐市著『針ノ木雪渓行』	1985	木口木版、印刷、紙	17.0	12.0			湯川書房 1985年7月 限定70部のうち15 木口木版1葉
下村 宏[挿画]	小川国夫著『逸民』	1987	木版、印刷、紙	21.0	17.0			湯川72倶楽部 1987年7月 限定105のうち樽 木版1葉
津高和一[挿画]	津高和一著『断簡集』	1976	シルクスクリーン、印刷、 紙	21.5	12.0			湯川書房 1976年10月 限定500部のうち無番 シルクスクリーン1葉
戸田勝久[挿画]	加藤一雄著『無名の南画家』	1997	木版、印刷、紙	20.0	17.0			湯川書房 1997年6月 限定100部のうち30 木版1葉
富長敦也[挿画]	加藤周一著『失われた指輪』	2000	エッチング、印刷、紙	16.5	12.0			湯川書房 2000年10月 限定100部のうち30 エッチング1葉
根本 啓[挿画]	長谷川 敬著『青の儀式』	1977	エッチング、印刷、紙	19.5	14.0			湯川書房 1977年7月 特装本限定100部のうち83 エッチング1葉
坂東壮一[挿画]	鶴岡善久著 『詩集 すでに行き過ぎたものにとって』	1971	エッチング、印刷、紙	22.5	19.5			湯川書房 1971年10月 限定150部のうち123 エッチング2葉
坂東壮一[挿画]	小川国夫著『血と匂』	1979	エッチング、印刷、紙	21.8	16.0			韻文叢書 1979年4月 限定55部のうち44 エッチング4葉
	辻 邦生著『ある転換期の芸術家の肖像 ギョーム・デュファイをめぐって』	1986	エッチング、印刷、紙	20.0	15.0			湯川書房 1986年5月 限定88部のうち30 エッチング5葉
レオノール・ フィニ[挿画]	辻 邦生著『円形劇場から』	1977	エッチング、印刷、紙	28.0	21.0			吾八ぶれす 1977年2月 限定350部のうち256 エッチング2葉
二見彰一[挿画]	三浦淳史著『レコードのある部屋』	1979	エッチング、印刷、紙	21.5	16.0			湯川書房 1979年7月 1979年刊本を改装50部の うち30 エッチング1葉
二見彰一・ 望月通陽 [挿画・表紙]	辻 邦生著『黄昏の古都物語』	1990	エッチング、型染(表紙)、 印刷、紙	21.0	17.0			湯川書房 1990年4月 限定60部のうち30 エッチング1葉
山田喜代春 [挿画]	山田喜代春著『人物抄』	1983	木版、印刷、紙	28.0	23.0			湯川書房 1983年4月 限定30部のうち16 木版12葉

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
山田喜代春 [表紙・挿画]	山田喜代春著 『山田喜代春木版画書票集』	1993	木版、印刷、その他、紙	26.0	18.3			湯川書房(頒布協力)私家版 1993年10月 限定40部のうち24 木版18葉
山本六三[挿画]	山本六三著 『夢の破片 ポストカードによる作品集』	1992	エッチング、印刷、紙	23.0	12.0			湯川書房 限定100部のうち30 エッチング1葉
山室眞二[挿画]	伊藤海彦著『微風抄』	1984	芋版、印刷、紙	19.0	10.0			湯川書房 1984年9月 限定200部のうち30 芋版31葉
	山室眞二著 『山の絵と文叢書II 奇妙な地図』	1986	多色木版、印刷、紙	18.0	15.0			湯川書房 1986年10月 限定70部のうち30 自刻自刷多色木版1葉
	伊藤海彦著『午後の牧歌』	1993	芋版、印刷、紙	21.5	15.0			湯川書房 1993年10月 特装本限定50部のうち30 芋版4葉
若山八十氏 [挿画]	小川国夫著『姉弟』	1975	印刷、紙	29.0	29.5			鶴声居 1975年10月 限定58部のうち28
不詳[挿画]	大岡 信著『彼女の薫る肉体』	1971	木版、印刷、紙	23.8	14.2			湯川書房 叢書「溶ける魚」 1971年5月 限定300部のうち9 木版1葉
<b>素描・水彩画など</b>								
加藤静允[挿画]	加藤静允著『窯庭遊話』	1996	水彩、印刷、紙	24.0	19.0			湯川書房 1996年10月 特装50部のうち30 水彩1葉
	加藤静允著『細石翁釣漁自傳』	2002	水彩、印刷、紙	25.0	21.0			湯川書房 2002年11月 限定500部のうち別装本20部のうちの9 水彩2葉
	加藤静允著 『景德鎮古窯・越州古窯・南宋官窯址訪記』	2007	水彩、印刷、その他、紙	20.0	27.0			湯川書房 2007年2月 特装限定20部のうち3 2006年刊本を改装 水彩1葉 留緒玉
加藤静允・杉本立夫 [挿画]	加藤静允・杉本立夫著 『遊泥二人集 其ノ二』	2000	水彩、印刷、紙	25.7	19.0			湯川書房 2000年3月 特装本限定13部のうち1 水彩各1葉
柄澤 齊[表紙]	加藤周一著『薔薇譜』	1976	水彩(表紙)、印刷、紙	18.0	16.0			湯川書房 1976年12月 異装私家本15部のうち非売品
杉本立夫 [表紙・挿画]	杉本立夫著『泥牛杉本立夫』	1998	墨、水彩、印刷、紙	25.5	21.5			湯川書房 1998年11月 限定530部のうち特装30のうち30 墨彩1葉
杉本立夫[表紙]	杉本立夫著『大吉』	1998	墨、水彩(表紙)、印刷、紙	24.0	16.8			湯川書房 1998年6月 限定20部のうち18 Verlag Fred Japan刊本(1998年)を改装
瀬戸 照[挿画]	塚本邦雄著『歌集 波瀾』	1992	水彩、印刷、紙	22.0	16.0			湯川書房 1992年8月 装本・装函改訂限定25部のうち20 花曜社刊本(1989年)を改装 水彩1葉
塚本邦雄	塚本邦雄著『青帝集』	1973	墨、印刷、紙	22.0	16.0			湯川書房 1973年5月 限定20部のうち1 自作歌16首を墨書
塚本邦雄	塚本邦雄著『星漢帖』	1992	墨、印刷、紙	23.0	31.0			湯川書房 1992年12月 限定20部のうち無番自作歌12首を墨書
戸田勝久[函]	加藤一雄著『京都書壇周邊』	2006	水彩(函)、印刷、紙	21.5	16.0			京都書壇周邊二十部刊行会 2006年7月 限定20部のうち3 用美社刊本(1984年)を改装
永田耕衣[挿画]	永田耕衣著『物質』	1984	墨、水彩、印刷、紙	19.0	13.5			湯川書房 1984年1月 特装本限定50部のうち30 墨彩1葉
	永田耕衣著『自入』	1995	墨、水彩、印刷、紙	21.0	14.0			湯川書房 1995年6月 特装本限定50部のうち30 普及本を改装 墨彩1葉
	永田耕衣著『愛虚集』	1995	墨、水彩、印刷、紙	31.5	21.0			湯川書房 1995年12月 限定20部他番外2部のうちのひとつ 墨彩1葉
	永田耕衣著『只今 永田耕衣続俳句集成』	1996	墨、水彩、印刷、紙	21.5	15.5			湯川書房 1996年10月 特装本限定30部のうち30 墨彩1葉
<b>工芸</b>								
加藤静允[挿画]	加藤静允著『細石微風帖』	1999	印刷、その他、紙	25.7	15.0			湯川書房 1999年5月 限定530部 1から30の特装のうちの30 水滴筆置
高梨一男[表紙]	高梨一男著『羊腸詩集』	1984	型染(表紙)、印刷、紙	14.0	15.0			湯川書房 1984年10月
田島隆夫[挿画]	田島道子著『田島隆夫の織と繪』	2002	織布、印刷、紙	27.6	22.6			田島道子 2002年10月(再版) 織布1葉
松原邦秀[表紙]	高橋啓介著『菟書三味 限定本彷徨 上』	1987	型染(表紙)、印刷、紙	15.5	21.5			湯川書房 1987年12月 A版200部のうち30
	高橋啓介著『菟書三味 限定本彷徨 下』	1989	型染(表紙)、印刷、紙	15.5	21.5			湯川書房 1989年6月 A版200部のうち30

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
目黒順三郎・高橋三作〔表紙〕	辻 邦生著『遠い園生』	1974	漆塗、彫漆(表紙)、印刷、紙	220	160			鶴声居 1974年9月 限定150部のうち35 漆塗表紙(目黒順三郎・彫、高橋三作・漆)
望月通陽〔函〕	加藤周一著『美しい時間』	1980	型染(函)、印刷、紙	14.0	14.0			湯川書房 1980年6月 限定150部のうち30
望月通陽〔挿画〕	塚本邦雄著『出埃及記』	1980	型染、その他、紙	38.5	33.0			湯川72倶楽部 1980年11月 限定108部のうち榑
望月通陽	望月通陽著『oedipus』	1981	型染、その他、紙	42.5	34.0			湯川書房 1981年10月 限定70部のうち無番
望月通陽〔表紙〕	高橋啓介著『菟書三昧 山の限定本』	1981	染布・型染(表紙)、印刷、紙	15.5	21.5			湯川書房 1981年6月 限定500部ほか異装本 100のうちの30
望月通陽〔函〕	岩城宏之著『屋上の牡牛』	1985	染布・型染(函)、印刷、紙	20.0	12.5			湯川書房 1985年2月 限定160部のうち30
望月通陽〔表紙・函〕	富士川英郎著『本とわたし』	1989	型染(表紙・函)、印刷、紙	22.5	14.0			湯川72倶楽部 1989年1月 限定100部のうち榑
望月通陽〔表紙・挿画〕	以倉紘平著『地球の水辺：詩集』	1993	型染(表紙)、ペン、印刷、その他、紙	18.0	20.0			湯川書房 1993年5月 特装本限定30部のうち20 ペン1葉
	白洲正子著『比叡山回峯行』	1994	型染、印刷、その他、紙	22.5	16.0			湯川書房 1994年6月 限定100部のうちの30 型染1葉
	白洲正子著『比叡山回峯行』(異装版)	1994	型染、印刷、その他、紙	22.5	16.0			湯川書房 1994年6月 限定100部のうちのさらに 異装15のうちの8 型染1葉

※その他、普及版図書など170点

〈丸山正隆氏寄贈〉

## 版画

ブリジット・クードラン	砂糖壺と松かさ	不詳	カラー・エッチング、紙	33.5/50.3	38.5/65.2		左下：E.A. 右下：Coudrain
	Chardon du Cantal	1961	カラー・エッチング、紙	37.6/50.4	39.5/66.0		左下：8/50 右下：Coudrain
	エリンギウム	1964	カラー・エッチング、紙	29.8/50.2	39.4/65.8		左下：E.A. 右下：Coudrain
ジョニー・フリードランド	四月	1954	カラー・エッチング、紙	48.5/65.8	34.6/50.5		左下：Epreuve d'artiste 右下：Friedlaender
	海の花	1955	カラー・エッチング、紙	41.0/50.2	53.4/66.0		左下：Epreuve d'artiste 右下：Friedlaender
	朝の鳥	1958	カラー・エッチング、紙	54.0/65.8	40.1/50.3		左下：Epreuve d'artiste 右下：Friedlaender
	暁	1960	カラー・エッチング、紙	48.2/75.8	38.2/56.5		左下：72/95 右下：Friedlaender
	赤い鳥	1960	カラー・エッチング、紙	49.6/65.7	43.7/50.4		左下：67/95 右下：Friedlaender
	青赤	1961	カラー・エッチング、紙	51.4/76.3	42.5/57.3		左下：46/60 右下：Friedlaender
	鳥	1961	カラー・エッチング、紙	52.0/76.0	44.6/56.6		左下：7/95 右下：Friedlaender
	牧草地	1958-59	カラー・エッチング、紙	54.2/66.0	45.8/50.2		左下：80/95 右下：Friedlaender
	黒い点のあるコンポジション	1960-61	カラー・エッチング、紙	49.8/76.3	39.7/56.9		左下：26/95 右下：Friedlaender
	三つの赤	1960-61	カラー・エッチング、紙	52.5/76.4	38.5/56.5		左下：45/95 右下：Friedlaender
	デイルイト	1961-62	カラー・エッチング、紙	51.9/76.0	41.5/56.7		左下：20/95 右下：Friedlaender
	黒の上の黄色	1962-63	カラー・エッチング、紙	54.8/75.8	42.6/57.0		左下：20/95 右下：Friedlaender
	三つの垂直	1962-63	カラー・エッチング、紙	57.8/76.1	43.5/57.2		左下：30/95 右下：Friedlaender
	灰黄土	1962-63	カラー・エッチング、紙	55.8/76.1	38.5/56.9		左下：60/95 右下：Friedlaender
	赤青黒	1962-63	カラー・エッチング、紙	57.6/76.1	44.4/57.0		左下：26/65 右下：Friedlaender
	第3の合意	1963-64	カラー・エッチング、紙	54.8/76.0	40.8/56.8		左下：85/95 右下：Friedlaender
	朝	1964-65	カラー・エッチング、紙	49.4/75.9	38.5/50.8		左下：70/95 右下：Friedlaender
	不詳	不詳	カラー・エッチング、紙	44.7/66.4	35.0/50.5		左下：65/220 右下：Friedlaender
	不詳	不詳	カラー・エッチング、紙	50.5/66.7	40.0/50.3		左下：83/95 右下：Friedlaender
	不詳	不詳	カラー・エッチング、紙	49.5/65.8	39.9/50.3		左下：94/95 右下：Friedlaender



作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
ジョニー・フリードランド	不詳	不詳	カラー・エッチング、紙	50.0/56.0	66.1/77.0		左下：56/95 右下：Friedlaender	
	装備した馬	不詳	カラー・エッチング、紙	55.5/65.7	52.7/50.3		左下：35/40 右下：Friedlaender	
	風景	不詳	カラー・エッチング、紙	59.6/76.4	42.3/56.5		左下：34/95 右下：Friedlaender	
	二頭の馬	不詳	カラー・エッチング、紙	50.9/65.3	39.3/50.6		左下：15/50 右下：Friedlaender	
	星にいる鳥	不詳	カラー・エッチング、紙	47.0/65.5	31.8/50.3		左下：20/50 右下：Friedlaender	
	不詳	不詳	カラー・エッチング、紙	44.8/57.3	24.1/28.6		左下：140/200 右下：Johnny Friedlaender	
ヤネス・ベルニク	Terre marquées	1960-61	カラー・エッチング、紙	29.8/50.5	49.5/65.4		左下：31/120 右下：J.BERNIK	
	[Beli Odmev]	1963	カラー・エッチング、紙	50.2	65.5		左下：2/6 1963 中下：BELI ODMEV 右下：J.BERNIK	
	[Zapis□XI]	1963	カラー・エッチング、紙	50.3	76.0		左下：1/8 1963 中下：ZAPIS□XI 右下：J.BERNIK	
	ZAPIS	1963	カラー・エッチング、紙	79.1	56.1		左下：2/8 1963 中下：ZAPIS 右下：J.BERNIK	

〈谷川晃一氏寄贈〉

### 油彩画・アクリル画など

谷川晃一	赤い夜	1992	アクリル、カンヴァス	131.0	163.0			
	黄色い家とひまわり	2015	アクリル、紙パネル	73.0	103.0			
	大室山と大島	2016	アクリル、紙パネル	73.0	103.0			
宮迫千鶴	月と花束	2002	アクリル、紙	50.0	39.0			

### 素描・水彩画など

谷川晃一〔挿画〕	渡澤龍彦著 『絵次元 展翅箱 谷川晃一画集』	1971	色鉛筆、印刷、紙	27.3/41.7	20.0/29.4		右下：coichi	大門出版美術出版部 1971年 限定200部のうちNo.1 色鉛筆1葉
宮迫千鶴	星空の動物園	1992	コラージュ、グアッシュ、紙パネル	141.0	103.0			
	フィンランドの夏	1995	コラージュ、グアッシュ、紙パネル	146.0	103.0			
	新しい月	1999	水彩、紙	38.3	51.7			

### 工芸

宮迫千鶴	太陽の物語	1987	コラージュ、布	117.0	91.0			
------	-------	------	---------	-------	------	--	--	--

〈木下 晋氏寄贈〉

### 素描・水彩画など

木下 晋	起つ	1963	クレヨン、ベニヤ板	114.0	88.0			
	火葬場の花	1965	油絵具、ベニヤ板	170.0	151.0			
	光の合掌(桜井哲夫)	2008	鉛筆、ケント紙	190.0	100.0			
	闇の微笑(桜井哲夫)	2009	鉛筆、ケント紙	190.0	100.0			

〈門田秀雄氏寄贈〉

### 彫刻・インスタレーション

入江比呂	ヒューマン・ドキュメントB	1970	白セメント、焼木、金属製部品、陶製部品、釘、骨片、金属プレート他	65.0	25.0	23.0		
	毛の犬	1975	石膏、金属製部品、鉄棒、陶製容器、電気部品、釘、紙、スプリング、留め金、毛皮、ビー玉他	44.0	20.0	24.0		
	鉄の乙女	1984	白セメント、金属製部品、合板、パイプ付き鉄板、ステンレス板、ブリキ、針金、釘、鉄製ブローチ、プザー、ホタテ貝、常節、小石、瓶破片他	92.5	40.0	34.0		
	ベトナムの犬	1991	白セメント、星条旗の印刷されたブリキ板(シール付)、銅線、針金、スチール部品、プラスチック部品、ゴム管、着色ゴム球、アルミシート、コード、ライター、ガラス容器、瓶の口他	54.0	77.0	15.0		

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
〈山本隆志氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
広幡 憲	39×QG	1939	油絵具、カンヴァス、板	31.5	40.3			
柳瀬正夢[推定]	山景	不詳	油絵具、板	22.0	31.0			
横山潤之助	風景	1923	油絵具、カンヴァス	39.7	44.8			
<b>素描・水彩画など</b>								
柳瀬正夢	工場	1935	水彩、紙	11.1 / 28.8	29.8 / 49.9		台紙左上： maçame Y 35.9.9.	
〈香月婦美子氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
香月泰男	冬の川	1962	油絵具、カンヴァス	72.7	50.0		中下：Y.Kazuki	
	聖堂	1973	油絵具、カンヴァス	91.0	47.0		左下：Y.Kazuki	
	ニュース	1973-74	油絵具、カンヴァス	91.0	47.0		右下：à Mont BoRon Y.Kazuki 裏面：NICE (MONT BORON)	
〈粟田政裕氏寄贈〉								
<b>版画</b>								
粟田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第45号	2016	木口木版、紙	22.0	18.0			ボックスウッドクリエーション 2016年 限定99部のうち36 木口木版2葉(古都・鎌倉幻 視)、《鎌倉・ヒグラシ文庫にて》
	『イマジオ&ポエティカ』第46号	2016	木口木版、紙	22.0	18.0			ボックスウッドクリエーション 2016年 限定99部のうち36 木口木版2葉(ヒマラヤに降 る)、《ヒマラヤ水晶》
	『イマジオ&ポエティカ』第47号	2017	木口木版、紙	22.0	18.0			ボックスウッドクリエーション 2017年 限定99部のうち36 木口木版2葉(天竺花)、 《バーミアン幻視》
〈玉村宏方氏寄贈〉								
<b>素描・水彩画など</b>								
玉村方久斗	五十歳の自画像(下図)	1943	鉛筆、紙	27.7	22.7			
	五十歳の自画像(デッサン)	1943	鉛筆、紙	27.7	22.7			
<b>日本画</b>								
玉村方久斗	五十歳の自画像	1943	紙本着彩	57.5	32.5			
〈せんたあ画廊株式会社寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
島崎鶏二	承德暮山	1939	油絵具、板	37.5	45.3		左下：1939 Keiji Shimazaki 裏面：承德暮山 島崎鶏二	
<b>素描・水彩画など</b>								
チャールズ・ワグマン	川舟にて	1876頃	水彩絵具、鉛筆、紙	21.0	33.6		右下：□□□□	
〈横尾嘉子氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
横尾龍彦	黎明	1983	油絵具、カンヴァス	96.4	127.5		右下：T. Yoko 83	
	アボカリプス	2001	油絵具など、カンヴァス	200.0	200.0		右下：2001 T. Yoko	
〈クエイ兄弟寄贈〉								
<b>彫刻・インスタレーション</b>								
クエイ兄弟	鹿(デコール《粉末化した鹿の精液の匂いを嗅いで ください》の背景画)	2016	鹿の角、白チョーク、黒板	123.5(黒 板)/127.5 (全体)	183.5/ 183.5	25.0/49.5		

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考(刊行情報等)
〈澤田朋子氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
有島生馬	英夫像	1922	油絵具、カンヴァス	45.0	37.0			
〈中原伸之氏寄贈〉								
<b>工芸</b>								
長谷川路可	名誉と繁栄と祝福の象徴	1961	モザイク(石、モルタル、鉄棒)	1600	1300	3.0	裏面：長谷川路可 下図、共同制作者： 本間洋一、古川清吉、中山竹史	
<b>資料</b>								
〈福井一氏寄贈〉野間 宏ほか帖面舎関連書簡、原稿(6点)								
〈塚本量子氏寄贈〉片岡球子差出望月富助宛書簡(1963年6月28日消印)(1点)								
〈窪島誠一郎氏寄贈〉「第7回 NOVA美術協会展」ポスター(1点)								

## 館外貸出作品一覧

開催初日が2016年4月1日から2017年3月31日までの展覧会に限る  
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場(会期)
1	1	今西中通《真珠》	「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱—1930年協会から独立へ」鳥取県立博物館(4月2日～5月22日)、田辺市立美術館(7月9日～8月28日)、河口湖美術館(10月29日～12月23日)、北海道立函館美術館(2017年4月8日～5月28日)、酒田市美術館(6月3日～7月9日)、北九州市立美術館分館(7月14日～8月27日)、八王子市夢美術館(9月15日～11月5日)
	2	里見勝蔵《花のある静物》	
2	3	脇田 和《慈鳥》	「棟方志功とその時代展：森羅万象：オドロイテモ、おどろききれない」青森県立美術館開館10周年記念「青森県立美術館(4月16日～6月5日)
	4～5	岸田劉生《初夏の麦畑と石垣》《童女図(麗子立像)》	
	6	島海青児《平塚風景》	
	7	中川一政《静物(びん・白布)》	「アーティストin湘南1 萬鉄五郎×岸田劉生 その仲間たち」平塚市美術館(4月16日～6月12日)
3	8	森田 勝《裸婦》	
	9～15	ウィリアム・ブレイク《神曲》(7点)	
4	16～17	柄澤 齊《この星は底なき穴の鍵を與へられたり》《クロノスの壺》 (いずれも美浦康重版画コレクション)	「森羅万象を刻む：デューラーから柄澤齊へ」町田市立国際版画美術館(4月29日～6月19日)
	18～19	藤田嗣治《二人裸婦(名古屋会場のみ)》《ちんどんや 職人と女中》	「藤田嗣治展：東と西を結ぶ絵画 生誕130年記念」名古屋美術館(4月29日～7月3日)、兵庫県立美術館(7月16日～9月22日)、府中市美術館(10月1日～12月11日)
5	20	永野芳光《静物》	
	21	吉原治良《帆柱》	「静物画にひそむ謎・物語(ものかげり)：近代日本の静物画」福岡市美術館(5月14日～7月3日)
6	22	阿部展也《飢え》(兵庫会場のみ)	
	23	松本竣介《工場》(兵庫会場のみ)	「1945±5年 激動と復興の時代 時代を生きぬいた作品」兵庫県立美術館(5月21日～7月3日)、広島市現代美術館(7月30日～10月10日)
	24～26	山下菊二《敗戦風景(国会議事堂付近)》 《敗戦風景(国会議事堂付近-部分)》《カマボコ兵舎のある風景》	
7	27	寄託作品(油彩1点)	「遙かなる山：発見された風景美 山の日制定記念」山口県立美術館(5月26日～7月5日)
8	28	高村光太郎《大倉喜八郎像》	「再発見! ニッポンの立体」群馬県立館林美術館(7月16日～9月19日)、静岡県立美術館(11月15日～2017年1月9日)、三重県立美術館(1月24日～4月9日)
9	29	安齋重男《宇佐見英治の手の上のアルベルト・ジャコメッティ》	「見立ての手法：岡崎和郎 Who's who」千葉市美術館(9月7日～10月30日)、北九州市立美術館分館(11月19日～2017年1月15日)
	30	アルベルト・ジャコメッティ《裸婦小立像》	
10	31	江口 週《鐵形の碑》	
	32	堀内正和《D氏の骨ぬきサイコロ》	「近代美術の至宝—明治・大正・昭和の巨匠」石川県立美術館(9月10日～10月23日)
11	33～34	棟方志功《花矢の欄》《同向へ進む佛者達》	「棟方志功—平藪田中を「先醒」と呼んだ板画家」井原市立田中美術館(9月16日～11月6日)
12	35	川口起美雄《故郷を喪失したものたち》	「川口起美雄 野又 獲 ふたつのアナザー・ワールド」東京オペラシティアートギャラリー(9月17日～11月23日)
13	36	川上邦世《三味線弾き》	
	37	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	「動き出す! 絵画：ペール北山の夢：モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち」東京ステーションギャラリー(9月17日～11月6日)、和歌山県立近代美術館(11月19日～2017年1月15日)、下関市立美術館(1月28日～3月12日)
	38～39	萬鉄五郎《日傘の裸婦》《田園風景》	
	40～41	寄託作品(油彩2点)	
14	42～50	朝井閣右衛門《丘の上》《ロルの踊り》《電線風景》《ガラス鉢のある静物》 《祭1 お狐》《祭2 巫女さん》《祭3 鶴ヶ岡》《薔薇(法華壺)》 《過去現在因果経》	「朝井閣右衛門展：空想の饗宴」練馬区立美術館(9月18日～11月13日)
15	51～55	山下菊二《安岡章太郎「私説 聊齋志異」挿画原画》(5点)	「安岡章太郎展：〈私〉から〈歴史〉へ」神奈川近代文学館(10月1日～11月27日)
16	56～63	堀口大學編《時世粧》1～8号(青木文庫)	「前田藤四郎と川上澄生：モダニズム版画の実験室」鹿沼市立川上澄生美術館(10月1日～11月27日)
17	64	久米民十郎《Off England》	
	65	永野芳光《静物》	「日本におけるキュビズム：ピカソ・インパクト」鳥取県立博物館(10月1日～11月13日)、埼玉県立近代美術館(11月23日～2017年1月29日)、高知県立美術館(2月12日～3月26日)
	66	渡辺豊重《習作59-11》	
	67	寄託作品(彫刻1点)	
18	68	寄託作品(油彩1点)	「第20回東美特別展 島海青児展」東京美術倶楽部(10月14日～10月16日)
19	69	アルブレヒト・デューラー《『ヨハネ黙示録』龍と闘う大天使ミカエル》	「クラナハ展：500年後の誘惑」国立西洋美術館(10月15日～2017年1月15日)、国立国際美術館(1月28日～4月16日)
	70	村山知義《ヘルタ・ハインツェ像》	
20	71～72	速水御舟《昆虫二題 粧蛾舞戯》《昆虫二題 葉陰魔手》	「蜘蛛の糸：クモがつむぐ美の系譜—江戸から現代へ」豊田市美術館(10月15日～12月25日)
	73	近藤弘明《浄夜》	
21	74	高山辰雄《夜》	「Nihon画：新たな地平を求めて」豊橋市美術博物館(10月29日～12月11日)
	75	三上 誠《湿地A》	
22	76～79	坂口寛敏《暖かいイメージのために 95-1》《暖かいイメージのために 95-2》 《暖かいイメージのために 95-3》《暖かいイメージのために 95-4》	「退任記念 坂口寛敏展『パスカル 庭・海・光』」東京藝術大学大学美術館(2017年1月6日～1月19日)
	80～83	吉岡堅二《太陽と不死鳥》《高原白夜》《飛翔》《群鶴》	「生誕110年記念：吉岡堅二展」田辺市立美術館(2017年2月11日～3月26日)
23	84～86	ピーテル・ブリューゲル《「七つの大罪」より「傲慢」》《同「食欲」》《同「貪食」》	「ベルギー奇想の系譜：ボスからマグリット、ヤン・ファン・ブールまで」宇都宮美術館(2017年3月19日～5月7日)、兵庫県立美術館(5月20日～7月9日)、Bunkamura ザ・ミュージアム(7月15日～9月24日)
	87～89	ピーテル・ブリューゲル《「七つの徳」より「希望」》《同「剛毅」》《同「正義」》	

## 当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
		ポーランド・ポスター8点	
1	1	フランチシェク・スタロヴィエイスキ《ヴロツワフ現代劇場、ベルトルト・ブレヒト『肝っ玉おっ母とその子どもたち』》	
2	2	ロマン・チェンレーヴィチ《ワルシャワ国立オペラ劇場、ダッラピッコラ『四人』》	
1	3	ヘンリク・トマシェフスキ《ポーランドー民衆芸術が魅力のポーランドに行こう》 《スタジオ劇場(テアトル・スタジオ)、ヴィトカツイ》 《ドラマ劇場(テアトル・ドラマティチュニ)、W. ゴンブローヴィチ『結婚』》	「クエイ兄弟ーファントム・ミュージアムー」 神奈川県立近代美術館 葉山(7月23日～10月10日)、 三菱地所アルティアム(2017年3月25日～5月7日)
4～6	4～6	レジェク・ホウダノーヴィチ《デサ・ワルシャワとプラハ・アート・センター主催の 展示・販売会『チェコスロヴァキアの芸術家の絵画、ガラス細工、陶器』》	
7	7	ユゼフ・ムロシュチャク《ワルシャワ・オペレッタ劇場『乞食学生』》	
8	8	ヤン・レニーツァ《大劇場(テアトル・ヴィエルキ)、アルバン・ベルク『ヴォツェック』》	

## 修復報告1

伊藤由美

作 者 : 長谷川路可(1897~1967)

作 品 名 : 名誉と繁栄と祝福の象徴

制 作 年 : 1961年

素 材 : 石、モルタル(支持体)、鉄(支持枠)

寸法(mm) : 1600×1300×30

### 処置前の所見

本作品は1cm程のサイコロ状の角片に切り出した天然石を、敷き詰めたモルタルに色を選びながら埋め込んで図柄を表現するモザイク画である。画面の状態は数か所の白色大理石片の欠損を除いて全体的に良好であった。構造としては外周部の鉄枠の中を、さらに鉄枠で縦5段、横3列、計15個に分割しているのが裏面から確認できる。外周の鉄枠の外側には5mm厚の木片が枠状に取り付けられており、当初はこの木片のうち上下辺のみに、木片をステンレス薄板で包むような構造の額が装着されていた(図1、2)。本作品は、かなり重量のある壁画であるため、モザイク画面の修復と同時に、壁面への固定金具の取り付けと壁面設置方法の工夫と施工を、一連の修復作業とらえて進行した。また、それぞれの作業が専門の経験と技術を要するため一部の作業を除いてそれぞれの専門業者に委託し、主な作業は美術館内で行った。

### 処置

#### 〈壁面への固定金具の取り付け〉

100kgを超える重量をポイントで支えられる箇所を検討した結果、裏面に露出している鉄枠(外周枠とその対角に取り付けた2本の補強用L字鋼)を利用し、本体との締結用アングルを溶接したステンレスのフラットバーを新調し、鉄枠にボルトとナットで固定した(図4、5、6)。水平方向に上下2本取り付け付けたフラットバーの先端にビス穴をあけ、4か所で壁にねじ止めする固定方法とした。当作業に際しては、振動による石片剥落防止のため、和紙とメチルセルロースで画面の養生を行い、金具取り付け後に養生を除去した(図7)。

#### 〈モザイク画面の修復〉

- 石片(テッセラ)の固着状態の調査 : すべてのテッセラを検査用の小槌でたたき、音で固着状態を確認した(図8)。
- 汚れ、付着物の除去、洗浄 : ワイヤブラシで表面の汚れを除去した。水を含ませた刷毛で表面および目地をこすり、汚れを浮かせながら、幅広の刷毛で汚れた水を吸い取るようにして洗浄した(図9)。
- テッセラを埋める接着剤(モルタル)の準備 : アクリル系エマルジョンの接着剤と骨材(炭酸カルシウム、硅砂)を混合し、強度および乾燥時の色味を調整した。
- テッセラの準備 : 欠損部の石材の種類、色味に合った石材を選び、欠損部の大きさに石を割った(図10)。
- テッセラ欠損部の充填 : 準備したモルタルを、欠損部に合わせて割ったテッセラの片面に塗布して欠損部にはめ、金槌でたたいて固定させた(図11、12)。
- 外周部のモルタル充填 : 外周の鉄支持枠とモザイク画面周辺との間に幅5mm程の隙間がありモルタルで埋めているが、モルタルが浅く周辺部のテッセラの埋め込み具合が不安定であった。端のテッセラに力が加わった場合、剥落の恐れがあるため、外周部の隙間にモルタルを充填して深くし、安定させた(図13)。

### 〈壁面への設置〉

重量があることと、移動時の作品にかかる歪みなどの負担を考慮し、壁画として長期展示の方針のもと、広く光を受けて鑑賞できる第3展示室ロビーのガラス壁脇に設置した。壁面の強度を確認し、床置きのお台座にて作品の重量を受け、新規に作品裏面に取り付けたフラットバー先端部を壁にビス止めして固定した。作品周辺部を、作品厚み程度に浮かせた額状の枠で被った。枠の開口部は、モザイクの石材部分が隠れないようにし、わずかに鉄枠とモルタルの構造も観察できるように施工した(図14、15)。

### 修復後の所見

本作品修復に当たり調査を進める中、裏面に記載された制作者4名(長谷川路可、本間洋一、古川清右、中山竹史)のうち、本間洋一氏が現役作家としてモザイク制作を続けていることが分かり修復を依頼した。また、長谷川路可は下図制作を行い、本間氏を中心とする3名が実際の製作に当たったことが分った。また、当時使用された石材は現在も本間氏の下にあり、今回のテッセラ欠損部の補填もその石材を使用した。

モザイク画面は15個の象徴的なイメージが並んでいるが、本間氏によると、技法的にはテッセラは石材の割り肌を生かし、モルタルに埋め込んで固定し、並べ方はイメージの周辺を輪郭で囲い、背景部は水平方向に並べるという古典的な手法が用いられているということであった。また並べられた個々のイメージがお互いにリズムカルな曲線で繋がり、路可の優れたデザイン性が感じられるという(図3、16)。

尚、本修復の実施は裏面固定金具取り付けは有限会社ブロンズスタジオ、モザイク壁面修復は本間洋一氏、作品及び展示枠壁面設置は株式会社精美堂が行った。裏面作業時の画面養生、画面洗浄の一部、壁設置の立案は館の修復担当者が行った。



図1 修復前 表



図2 修復前 裏面 (テープは作業用の目印)



図3 修復後 表

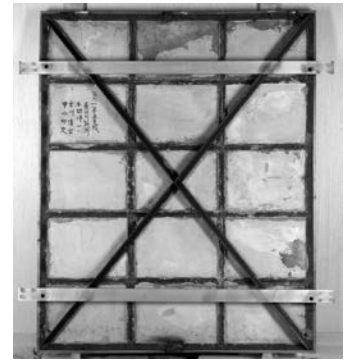


図4 修復後 裏面



図5 仮素材での設置金具の事前確認

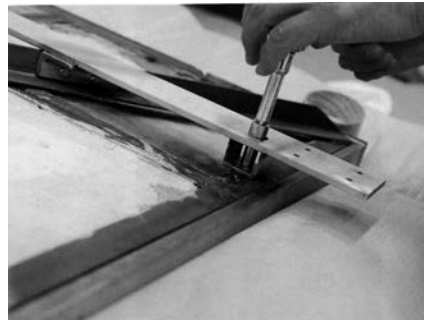


図6 設置金具の取り付け



図7 裏面作業時の養生除去



図8 テッセラの固着状態調査



図9 ワイヤブラシによる汚れ除去



図10 充填用テッセラの石割り



図11 テッセラの充填



図12 テッセラ充填後



図13 外周部のモルタル充填



図14 壁面への固定

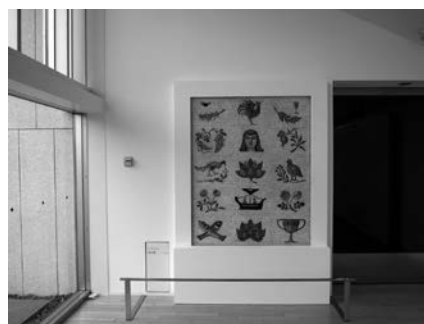


図15 台座と枠装着での展示



図16 長谷川路可との制作当時の語る本間氏

## 修復報告2

有限会社 修復研究所二十一 桐生 諭

作 者 : 田中 岑(1921-2014)  
作 品 名 : 女の一生  
制 作 年 : 1957年  
材 料 : パーティクルボード、油絵具、水性塗料、墨汁、  
          パステル  
寸法(mm) : 修復前 4510×3598(最大寸)  
              修復後 4510×3613(最大寸)

神奈川県立近代美術館の鎌倉館閉館に伴い、同館二階の喫茶室にあった壁画を、葉山館講堂前ホワイエに移設した。移設に際しては壁画の取り外しや養生、修復、取り付け方法を様々な角度から検討した。

### 修復前の所見

壁画は、300mm四方のパーティクルボード179枚をタイル状に並べて支持体とし、地塗り層、絵具層という重層構造で出来ている。絵具層には、<sup>①</sup>を混ぜた油絵具や水性絵具、墨汁、パステルなど複数の材料が使用され、光沢を抑えたフレスコ画風に仕上げられている(図1)。

壁画の壁への設置構造は、先に30mm厚の角材を壁にネジ留めして格子状の骨組みを作り、その上にパーティクルボードを接着して、さらに画面側から真鍮釘を打って固定している。パーティクルボード間の継ぎ目には目地剤が詰められている。壁画は喫茶室の壁の寸法に合わせて設置され、壁との隙間にはモルタルやコーキング剤が詰められていた(図2)。

画面には、全体に塵埃が付着し、白色の描画部分には虫糞が点在していた。周縁部には広範囲におよぶ冠水の輪じみが数ヶ所に見られ鑑賞の妨げとなっていた。絵具層は劣化による剥落や固着不良が生じていた。支持体であるパーティクルボードには、破損や棧との接着不良が確認された。目地部分には彩色が及んでいるが、その大半に亀裂が入っていた。

壁画は取り外すことを想定して作られていなかったため、全体を作品の大きさのまま取り外せる構造ではなかった。そのため移設作業では画面を分割して取り外し、再設置する壁面で組み合わせる方法を選択した。今回の移設作業によって壁画のオリジナリティが損なわれぬよう様々な工夫を施した。作業は、(1)喫茶室の壁からの取り外し、(2)壁画の修復と補強、(3)再設置という3つの工程から成る。いずれの工程も美術館と連携を取りながら計画、実施した。



図1 移設前



図2 移設前 周囲部分

### 絵画材料及び技法調査

剥落片からクロスセクションを作成し、光学顕微鏡で観察した後、X線マイクロアナライザー(EPMA)で観察し、元素を確認する。さらに微小部X線回折装置(MDG)により試料片を測定して化合物を確認する方法で行った。

【地塗り層】 全体に炭酸カルシウムが主成分として使用されている。白色の塗料を塗布後、酸化鉄系赤褐色顔料と白色顔料を混ぜて得られる淡い赤褐色を塗布している。

【絵具層】 人物像を描いた白色は鉛白を主成分としている。この鉛白の中に亜鉛華、透明で角張った炭酸カルシウムの粒子、同様に透明で角張ったケイ素塩化合物の粒子も少量成分として含まれている。亜鉛華は使用した鉛白にもともと入っていた可能性が高いと考えられる。透明で角張った粒子は、凸凹の肌合いを意識して、作者が鉛白に混合したと推測する(図3)。

画面下の黒色は、淡い赤褐色の地塗りの上に、カーボンブラックが塗布されている。その上には雲母で描画された部分があり、独特の光沢を放っている。雲母には油性メディウムが使用されている(図4)。



図3 試料片 人物像  
鉛白に方解石とケイ素塩化合物の  
粒子が混在している。

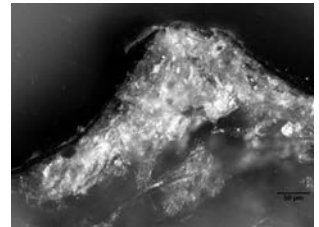


図4 試料片 黒色絵具  
カーボンブラックの上に薄い雲母が  
部分的に描画されている。

### 修復処置

#### (1) 喫茶室の壁からの取り外し

##### 1. 事前調査

デジタルカメラで撮影後、壁画の状態を調査し記録した。

##### 2. 絵具層の固着強化

油絵具による白色の描画部の固着不良箇所に接着剤(パラロイド B72 5%キシレン溶液)を塗布した。

##### 3. 乾式洗浄

柔らかい刷毛を用いて、画面の塵埃を除去した。

##### 4. 絵具層・目地の養生

壁からの取り外しに際しては振動が伴うため、脆弱な白色の描画部分とパーティクルボードの目地部分を、典具帖と接着剤(メチルセルロース2%水溶液)で表打ちをした。

##### 5. 壁からの取り外し

①画面の分割区分は、白色の描画部を出来るだけ分割しないように分けし、7分割と決めた。それぞれの区分を取り外す際は、分割線に接しているパーティクルボードを鉗子やヘラを用いて取り外し、現れた棧を切断した(図5、図7、図8)。

②壁画周囲のモルタルやコーキング剤をヘラで徐々に除去した。

③分割した壁画と壁との隙間にパールを差し入れて壁画を棧ごと取り外した(図6)。





図5 壁からの取り外し



図6 壁からの取り外し

## (2) 壁画の修復と補強

### 1. 裏面清掃と殺菌

壁画裏面を清掃後、エタノール水を噴霧して殺菌した。

### 2. 棧の修理と補強

棧と棧との接合が不安定な箇所は、角材やL字金具で補填・補強した。

### 3. パーティクルボードの取り付け

壁画から個別に取り外したパーティクルボードを、接着剤（膠30%水溶液1：生麩糊1）を用いて、棧の元の位置に接着し、元の釘穴に真鍮釘で留めた。また、隣り合ったパーティクルボード同士の厚みを合わせる場合は、木屑を混ぜ合わせてかさ増した接着剤を使用し、調整しながら取り付けした（図7-10）。

### 4. パーティクルボードの破損部接着

パーティクルボードの破損部と棧との接着不良箇所に、接着剤（膠30%水溶液1：生麩糊1又は膠30%水溶液1：生麩糊1に木屑を混ぜ合わせたもの）を用いて接着した。

### 5. パーティクルボードの目地補強

目地に接着剤（パラロイドB72 3%キシレン溶液）を含浸させ補強とした。

### 6. 湿式洗浄

湿式洗浄処置が可能な白色描画部を、希アンモニア水溶液で洗浄し、汚れと虫糞を除去した。

### 7. 補強パネルの取り付け

分割した各壁画裏面に、同じ寸法の補強パネルをネジ留めした。各パネルの組み合わせは、接合を安定させるため、パネル側面に雇い核平矧ぎ<sup>※2</sup>を施した（図10）。

### 8. 固定用金属プレートの取り付け

再設置する壁に壁画を固定するため、各壁画パネル裏面の周縁に金属プレートをネジ留めした（図9、10）。

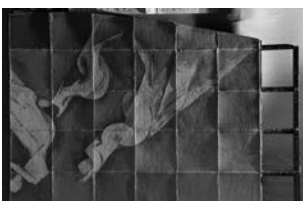


図7 一部のパーティクルボードを外した(表)



図8 一部のパーティクルボードを外した(裏)



図9 取り外したパーティクルボードを元に戻した



図10 裏面に補強パネルと固定用金属プレートを取り付けした

## (3) 再設置

### 1. 壁画の取り付け

①壁画と再設置する壁の中心を計測し目印をつけた。

②レーザー墨出し器を用いて中心線を確認しながら、最下段の1枚目の壁画パネルを定位置まで吊り上げて壁に密着させ、固定用金属プレートでネジ留めした。

③次に隣接する壁画パネルを定位置まで吊り上げて、先に壁に固定した壁画パネルに接合し、壁にネジ留めした。この作業を全ての壁画パネルで行った（図11）。

### 2. 充填整形

パーティクルボードの目地の剥落部分に、膠30%水溶液1：生麩糊1に木屑を混ぜ合わせた補填材料を詰めて予め土台をつくり、その上に溶剤型アクリルメディウムと炭酸カルシウムを混ぜ合わせた充填剤を詰めて整形した。

### 3. 補彩

充填整形箇所と冠水の輪じみに対して補彩を行った。光沢を抑えた画面に合わせるため、メチルセルロース4%水溶液に顔料を混ぜ合わせた絵具を選択し補彩した（図12、13）。



図11 壁画の取り付け



図12 補彩作業

## 修復後の所見

今回、使用した修復材料、作品の構造的な補強方法については、作品の安定した状態が長く維持できるように、事前に材料試験を行い、作品に適した材料や方法の検討を重ねた。事前調査では、地塗りの塗り重ねや顔料の選択、描画材料に雲母を使用するなど技法に関する新たな知見が得られた。

鎌倉館の喫茶室から壁画を取り外したところ、奥の壁から油絵具や木炭などを用いて直接描かれた作品と同寸の下絵が現れた（図14）。わずかに2日間で描いたと記録が残る壁画だが、作者は事前にスケッチや下絵で構図を確認し、様々な描画材料を試しながら独自の表現を探り、制作に臨んだことがわかった。



図13 葉山館ホワイエ移設後



図14 鎌倉館の下絵

※1：壁土にひび割れを防ぐために混ぜられる藁や麻などの繊維状材料

※2：雇い核平矧ぎ<sup>※2</sup>：直線な矧ぎ代に堅木を入れて、接合を強めた接ぎ方法

## 2016年度 修復作品一覧

\*表記のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員、伊藤由美が行った。

作者	作品名	寸法(mm) 縦・奥行×横・幅×h.高さ	制作年	種別	修復担当*
田中 岑	女の一生	4510×3613	1957	油彩画・ アクリル画など	有限会社 修復研究所二十一
清水九兵衛	BELT	1200×2400×h.4800	1978	彫刻	文化財修復工房 明舎
アントニー・ ゴームリー	Insider VII	275×535×h.1910	1998	彫刻	文化財修復工房 明舎
柳原義達	裸婦 座る	645×410×h.1370	1958	彫刻	有限会社 ブロンズスタジオ
長谷川路可	名誉と繁栄と祝福の象徴	1600×1300×30	1961	工芸	本間洋一 有限会社 ブロンズスタジオ 株式会社 精美堂
朝倉 摂	雪の径	1680×950	1944	日本画	増田絵画修復工房
朝倉 摂	裸婦C	1175×810	1950	日本画	増田絵画修復工房
クエイ兄弟	鹿 (デコール《「粉末化した鹿の精液の 匂いを嗅いでください」》)	1275×1835×495	2016	彫刻・ インスタレーション	
朝井閑右衛門	過去現在因果経	505×4240	不詳	日本画	
熊沢 叔	玄2	1645×1323	1973	油彩画	
坂倉新平	パトモス	503×731	1983以降	油彩画	
坂倉新平	東方一白の音—遠い音	725×597	1995頃	油彩画	
上田 薫	Sky F	1818×1137,1818×1138,1820×1134	2001	油彩画	
末松正樹	プロヴァンスにて	912×729	1955	油彩画	
本多錦吉郎	相州鎌倉由井濱	253×355	1896	水彩画	
鳥海青児	顔に彩色のある埴輪	315×250	1959	水彩画	
菅井 汲	サムライ	545×460	1958	版画	

# 調査研究活動

## 調査・研究報告

### 香月泰男による新収蔵作品の3点と 北川原コレクションの2点について

橋 秀文

#### はじめに

神奈川県立近代美術館は、2016年度に香月泰男(1911-1974)のご遺族から香月の油彩画3点の寄贈を受けた。それらは《冬の川》(1962年、図3)と晩年の《聖堂》(1973年、図4)、そして《ニース》(1973-4年、図5)の計3点であった。《冬の川》はおそらく香月の故郷を流れる三隅川をモデルに制作した作品であろう。《聖堂》と《ニース》は、晩年に渡欧しての成果といえる。これだけ見れば、香月の日常生活や旅行の中で創作意欲を掻き立てられ制作されたものといえようが、これらの作品には個々の風景画にとどまらず、それ以上の意味を見出すことが出来るのではないのかと思われる。彼は1950年代からシベリア抑留体験を反芻しつつ、「シベリア・シリーズ」を長きに亘って制作していったと同時に、生活の身近にみられる風景や生き物といった別の主題を絵に描いていった。この小論ではこれら3点の香月泰男の画業の中での位置づけを再度考えてみたい。それに際して、北川原氏から寄贈を受けた《牛》(1962年、図1、2009年寄贈)と《運ぶ人》(1962年、図2、2012年度寄贈)2点の香月作品も併せて見てみよう。そして、考察するにあたり、ここでは新収蔵作品3点を含め既存の2点と合わせて所蔵作品5点を時系列で見ていくこととする。

#### 1. 《牛》 1962年



図1 《牛》 1962年 油彩、ボード 18.8×13.8cm(北川原コレクション)

この作品の魅力は、油彩画でありながら墨を使ったような黒のマチエールの持ち味である。

香月は住んでいる故郷山口県三隅町周辺の生き物を多く描いた。この牛もそうしたモチーフの一つである。ほかに墨色で描いた牛の作品として、1969年のものが存在する。これら黒を主調とした牛の作品以前に

は、1954年の《牡牛》のように清澄な画風の作品がある<sup>(註1)</sup>。また「シベリア・シリーズ」の中には《雨(牛)》(1947年)のような赤茶色の牛も見られる。軍事郵便はがきにも牛が描かれ、生活の中になじんだ動物であったといつてよい<sup>(註2)</sup>。いずれにせよ、北川原コレクションの作品のように墨絵のような黒を主体にした香月の《牛》は、俵屋宗達の墨絵による動物画の牛を思い起こす。香月の東洋画への憧憬から油彩画を墨絵の世界に導いていこうとする意志を感じとることができるであろう。また、黒い牛の輪郭を取るのに引っ掻いた線を用いているのも興味深い。牛に限らず、香月が1950年代後半から始めた、対象物を黒いシルエットでとらえ引っ掻いた線で輪郭を取っていく手法は、木版画の白黒の対比で表現する手法から着想を得ているように思われる。さらに、黒陶の引っ掻き技法をも思い起こさせるかもしれない。このモノクロの表現は、1956年から本格的に始まった、岩絵の具である方解末をイエローオーカーなどの絵の具に混ぜて平坦な地肌を作り、さらに、メディウムを溶いた木炭の粉で描く手法でできている。このようにして、マットな質感の黒をうまく導き出した香月独特の黒の表現が確立されたのである。

#### 2. 《運ぶ人》 1962年



図2 《運ぶ人》 1962年 油彩、カンヴァス 44.0×25.8cm(北川原コレクション)

本作の制作年は1962年となっている。一方で、かの「シベリア・シリーズ」(全57点、山口県立美術館蔵)の《運ぶ人》は1960年に制作された。当館のヴァージョンは、大きさが小さいのみならず、1960年の作品が横長(72.3×116.9cm)なのに比べて、当館のものは縦長で、運ぶ荷物はほぼ正方形で、動きのある歩みがみられる。ちなみに1960年の作品に寄せた作家の言葉は次の通り。

黒河の対岸の町、ブラゴヴェシチェンスクで、本格的な抑留生活の第一歩が始まったといつてもよい。ここで三日間にわたって、荷役作業に従事させられた。／麻袋につめられたコーリヤンや豆カスを、船着場から六キロばかり離れたシベリア鉄道の貨車の引込線のところまで運搬させられたのである。一つの麻袋は、米俵一俵分の大きさも重さもある。

これを背中にかついで、<sup>ふりよ</sup>俘虜たちは背中をこごめ、アリのように行列を作って歩いた<sup>(註3)</sup>。

「シベリア・シリーズ」の「捕囚」に区分されている《運ぶ人》は、同シリーズの中でも強制労働を取り上げた数少ないモチーフの一つである。当館のものは麻袋を運ぶ人物をシルエットとしてとらえており、一方「シベリア・シリーズ」のものは、一つの大きな麻袋の中に苦痛の表情をした顔が描かれている。そして、香月のこの表現には、麻袋に浮かんだ顔のように見受けられ、また、顔は正面から捉えられていてその背後に麻袋があるという遠近感を示唆した表現としてもとらえられ、不思議な曖昧さが認められる。

「シベリア・シリーズ」の中には、なぜか「強制労働」をテーマにした作品がかなり少ない。絵描きとしてシベリア抑留中、多くの兵士が肉体労働をしていた間に、香月自身も肉体労働をしていたにせよ、絵を描く間は肉体労働を免れたという後ろめたさもあったからであろう<sup>(註4)</sup>。

### 3. 《冬の川》 1962年



図3 《冬の川》 1962年 油彩、カンヴァス 72.7×50.0cm(新収蔵作品)

この作品は、1962年6月15日から7月7日にかけてパリのノードラー画廊で開催された個展に出品された<sup>(註5)</sup>。香月本人のパリ滞在は1956年から1957年にかけてのことで、個展が開かれたときは作品のみを送り、香月自身はこの時はパリに行かなかった。そして、この川は、自宅の前を流れる三隅川がモデルとなっていたと思われる。

《冬の川》は複数描かれており、1950年代後半から描き始められた香月泰男の黒による特徴的な画面作りによる作品群の一角を形成している。

では、香月はこの川によって何を描き出そうとしているのか。セーヌ河にせよ故郷の三隅町の川にせよ、シベリアの川にせよ、当然ながらその川の表面、つまり川面の流れを描写しようとしているのだろう。しかし、そこには立体感や写実的な表現効果を狙った形跡は見られない<sup>(註6)</sup>。1959年から始められたこの黒い画面を用いた描写は、香月が絵画に求めたある目的が表されているに違いない。それは美術学校時代から続けたものであり、1956年のヨーロッパ旅行でより鮮明に感得したもので、使命感に似たものとなっていた「油彩画で東洋画の持つ精神を追求する」こと

である。岸田劉生や萬鐵五郎をはじめ多くの近代日本の洋画家たちが試みたように、「東洋画と西洋画の融合」を実行に移すことであった<sup>(註7)</sup>。

一見すると抽象画にも似た、1961年ころに制作された《冬の川》の表現は、当時フランスで流行していたアンフォルメル<sup>(註8)</sup>の抽象的表現と関係があるのではないかと考えられる。

欧州の香月への影響という「シベリア・シリーズ」で描かれた死者の顔がロマネスク・ゴシック彫刻のキリスト像などから影響を受けたと指摘されている<sup>(註8)</sup>が、アンフォルメルはどうであろうか。特にフランスで1940年代後半から流行し「不定形」を意味する「アンフォルメル」と称された抽象絵画の動向が、日本でも1956年の「世界・今日の美術展」で紹介されて旋風を巻き起こした<sup>(註9)</sup>。1956年に渡欧した香月は、フランスでそれらの作品に接することができたであろうし、帰国してからもそれらの存在を意識していたことであろう。ただ、香月の残した言葉からは、アンフォルメルに関するものは見出せない。

さらに《冬の川》に見られる奥行きのない表現。空間の処理の問題。それは香月にとっての東洋画と西洋画の融合の試みのひとつと思われる。

もしかしたら、この1960年代の《冬の川》などの暗い画風で抽象的な表現を試みようとしたところが、香月にとって一番魅惑的であり且つ、絵画について悩み考え抜いた時期だったと言える。

同時進行していた「シベリア・シリーズ」では、主題や訴えようとしていたテーマがしっかりとしていたので、そのメッセージが具体的なイメージとなってあらわれ、見る側に直截的に訴えかけてきた。それゆえ単なる《冬の川》というタイトルを頭に入れ、その抽象的なイメージを見たとしても、見る側は、そこに抒情的な雰囲気を見出すことはできる。しかし、そこにそれ以上の強いメッセージを読み取るのは困難かもしれない。ところが、この作品に、仮に《シベリアの冬の川》というタイトルが付けられたとしたら、見る側は、香月がこの絵にシベリア抑留の厳しい体験を感じ取ってほしいと思って描いたのではないかと思ひ、そのイメージを忖度しての鑑賞を行うかもしれない。このようなことは、香月の芸術を考えるときに避けては通れない問題だと思われる。

香月は「シベリア・シリーズ」について以下のように述べている。

私の「シベリア(原文ママ)・シリーズ」は、純粹絵画の見地からは邪道といえるかもしれない。私はこれらの絵を単なるフォルムと色を表現手段とする芸術作品という視点から鑑賞されてほしくない。いかに写実からほど遠い作品であろうと、そこに描かれた一本一本の線、一つ一つの色面は、それぞれに現実にあった情景がもとになって生まれたものである。<sup>(註10)</sup>

では、繰り返しになるが川面を描いた《冬の川》はどのように鑑賞すればいいのか。画家である以上、「フォルムや色」が重要な手段であることは百も承知のはずだ。そうしたことを踏まえて上述した作家の言葉を信ずるならば、やはり香月の場合、対象物に対する思いは必ずやこの《冬の川》にも表現したいと思っていたに違いない。あくまで香月は自身の絵画に意味を持たせることを望んだようだ。

#### 4. 《聖堂》 1973年



図4 《聖堂》 1973年 油彩、カンヴァス 91.0×47.0cm(新収蔵作品)

香月は、1972年10月から11月にかけて夫婦同伴でヨーロッパに取材旅行している。この時、スペインのトレドの大聖堂に寄っている。そこで10月31日に描いたスケッチをもとに翌年制作されたのが、この《聖堂》(図4)である<sup>(註11)</sup>。この作品は、暗い聖堂の空間の奥でステンドグラスが光を浴びて輝いている情景をとらえたものである。この暗い空間は、香月の得意とした木炭の粉をメディウムで溶かして描く手法で出来ている。この聖堂内のステンドグラスの絵を描いたことで香月をキリスト教と結びつけて考えるのはあまりに短絡的であろうが、同時期に彼が《十字架のキリスト》のオブジェを制作したときに背後にステンドグラスを描いたことを考えると、香月はその頭の隅にシベリア抑留で苦みの体験を浮かべ、キリストの苦悩と重ね合わせてみたのではなかったかと思わざるを得ない。

キリスト教の大聖堂内のステンドグラスの美しさを、黒と鮮やかな色彩の対比としてとらえ表現するのは決して珍しいこととは思わないとしても、香月が、人が生きていくうえでやはり精神的に崇高な空間に身をおくことの喜びや生きがいをおこの聖堂内に見出し、絵にしたいくなったとしても不思議ではない。

香月は1960年代後半から、徐々に暗い画風から明るい表現へと移行していく。そのような折、1971年11月29日、30歳足らずで長女・慶子が亡くなっている。当時、香月は60歳。その出来事は、香月に大きな衝撃を与え、酒量が急激に増えたという<sup>(註12)</sup>。長女の死から1年後に香月がヨーロッパ旅行をしたのは、おそらくその悲しみを忘れるためであったと推察できる。香月は、どのような画面も黒で表現したわけではない。1960年前後であっても、色とりどりの風船を手にした《風船売り》(1960年、愛知県立美術館蔵・木村定三コレクション)を描いていたし、同年にマルセル・マルソーを描いた《挨拶》も暗いバックの中で浮かび上がり、色とりどりの花束を手にしたパントマイムの巨匠の姿を鮮やかに描き出している。香月は、闇の中の美しい色彩の輝きを画面にとらえる喜びを若い時から十分認識していた。そして、この《聖堂》にみられるステンドグラスの美しい情景では、きらめくステンドグラスの色彩とくすんだ黒を見事に対比させて崇高な効果をうまく引き出している。

#### 5. 《ニース》 1973年-1974年



図5 《ニース》 1973-1974年 油彩、カンヴァス 91.0×47.0cm(新収蔵作品)

窓の枠組みが印象的な絵であるが、それは香月にとって何を意味するのか。この作品自体は、1973年10月から12月にかけて夫人とニースなどを取材旅行した時に立ち寄った古城の窓からみた景色をスケッチしたものを、帰国後油彩画にしたものであった。静寂で神聖な雰囲気を表した《聖堂》(図4)と比べて、この《ニース》(図5)では、石壁に穿たれた窓から外の光景が美しく眺められる。窓からは、左側にコート・ダジュールの海がみられ、その右側には、海岸やニースの街並みが広がっている。おそらく香月は心と風景を求め、ニースで幸福な雰囲気に満ちた光景を確かに認め、その情景を絵にしたのであった。香月の心の中には、シベリア抑留という不条理な経験をもとに鬱屈した光景を描こうとする画家がいるのと同時に、タヒチやセイシェルなどの南の小島、さらに、南仏のリゾート地などの地球の楽園といわれる場所を心地よい場所として描くことを望む絵描きがいちたのだった。

#### まとめ

香月泰男は、1942年に31歳で召集を受け、翌年に戦地に赴き、終戦直後から1947年5月に36歳で自宅に帰着するまでシベリア抑留を体験した。この戦中戦後まもない時代に絵を描くことの難しさは、その時代を経た多くの芸術家の記録や言葉によって知られるところである。香月といえば「シベリア・シリーズ」で知られた画家だが、反戦画家としてのみとらえるのは性急なのかもしれない。もちろん、戦争など二度と経験したくないという気持ちは抑留体験をモチーフにしたどの作品からも感じ取ることができる。しかし、彼の作品群は、ただの反戦を訴えるだけのものではなく、より深く戦争で傷ついた心を通して、当然のごとく人間性の回復を画面に訴えようとするものであったと思われる。絵画作品の制作を続けていくうえで、油彩画という西洋で生まれた技法を使って、日本人ないし東洋人に馴染んだ芸術表現を追求していった。今まで誰も成し遂げなかった独自の表現に辿り着いたところに芸術家・香月泰男の矜持が見取れるのである。

とはいえ、《ニース》の窓から覗いた美しい光景には、シベリア抑留の拘置所の窓から見える兵士たちの苦悩に満ちた顔の表情とは全くかけ離れた楽園の喜びが見出せる。

【註】

- (註1) 図版は、『香月泰男 一瞬一生の画業』小学館、2004年、114頁に掲載。画風が異なる《牡牛》(1954年、第28回国画会出品)は、『香月泰男画集 生命の讃歌』小学館、2004年、32頁に掲載。
- (註2) 《雨(牛)》の図版は、安井雄一郎『香月泰男 凍土の断層』東京美術、2017年、26頁に掲載。香月が家族に送ったハイラル通信と呼ばれる旧満州からの軍事郵便はがきに複数の牛の姿が見られる。『香月泰男展』図録、東京ステーションギャラリーほか、2004年、163頁を参照。
- (註3) 香月泰男『私のシベリア』文藝春秋、1970年、110頁を参照。同書は、後日、香月が語ったところを評論家の立花隆が文章化したものと判明し、立花は自著『シベリア鎮魂歌—香月泰男の世界』文藝春秋、2004年を発表した折に、第一部としてその『私のシベリア』を再録した(同書、82頁)。なお、「シベリア・シリーズ」の《運ぶ人》(1960年、山口県立美術館蔵、『香月泰男 凍土の断層』110頁に掲載)の寸法は、72.3×116.9cm。この作品のための下図と思われる画稿を見ると、香月は、荷を運ぶ人を正面から立体的にとらえている。リトグラフによる《運ぶ人》(1969年、『三隅町立香月美術館開館記念図録 私の地球』1993年、81頁に掲載)を参照すれば、麻袋を背負った男の顔として認識するのが自然だろう。1968年には、香月が得意としていたブリキや、木、麻などで作ったおもちゃの《運ぶ人》(『香月泰男 一瞬一生の画業』19頁に掲載)も残している。ちなみに、荷を運んだブラゴヴェシチェンスクは、アムール川沿いの旧ソビエト現ロシアの町である。対岸には中国黒竜江省黒河市がある。
- (註4) 安井雄一郎は、やはり強制労働をモチーフにした作品が少ない理由として、香月が、ほかの兵士が強制労働をしていた時に彼が絵を描いていたことに後ろめたさを感じていたと推測している。『香月泰男 凍土の断層』108-111頁を参照。
- (註5) この作品は、ノードラー画廊の『香月泰男展カタログ』収録のNo.29《Rivière L'Hiver (B)》であろう。あわせて『香月泰男画集 生命の讃歌』97頁、No.226も参照。
- (註6) この《冬の川》(『香月泰男画集 生命の讃歌』97頁、No.226)や同時期の《せせらぎ》(同書、97頁、No.225)では、立体感や写実的な効果は見受けられない。それに対して、香月独特の黒が確立される時期の前の段階では、《武具》(1954年、同書、55頁、No.123)や、《蝸牛》(1955年、同書、35頁、No.29)などの方形の書割の構図にジョルジュ・ブラックの影響は見られないか。香月にとって1950年代のフランス画壇の影響は大きく、最初はジョルジュ・ブラックやパブロ・ピカソに始まり、そのちアンフォルメルへと視野が広がっていったと思われる。香月において、この時期の抽象へと向かう傾向とアンフォルメルとの係わりを全く無視するべきではない。
- (註7) 『私のシベリア』(註3)49-52頁を参照。
- (註8) 『私のシベリア』(註3)200-203頁を参照。
- (註9) アンフォルメルと日本の美術の関係を考察した『あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術』展(2016年、京都国立近代美術館)図録を参照。
- (註10) 『私のシベリア』(註3)35頁を参照。なお、香月が体験したことを具体的に描くのではなく、抽象的に表現することで意味の広がりや表そうとしたことや象徴的に描こうとしたことに関しての解釈は、同書、356-357頁を参照。
- (註11) 『香月泰男画集 生命の讃歌』221頁、No.698では、この作品の制作年を1974年としている。
- (註12) 岩田 礼『香月泰男』日動出版、1976年、315-325頁を参照。

\*本稿執筆に際して、香月婦美子氏、香月理樹氏、今津浩太氏、北川原京子氏にお世話になりました。記して感謝申し上げます。

## 調査研究の発表・執筆等

### 1) 当館開催展覧会にともなう調査研究・発表

展覧会図録への発表：計11件(「展覧会活動」pp.5-19参照)

外部媒体への発表

- ・渡邊美喜 「ヨース博士講演抄録——研究会参加報告記に代えて」『アートドキュメンテーション通信』2016年8月10日(110号)、pp.26-27
- ・榎山昌夫 「EVENT：代表作の2K修復版公開を機に聞く、ノルシュテイン監督の作品への果てしない・拘り」『美術手帖』、2017年1月(No.1048)、p.188  
ほか計8件

### 2) 所蔵作品及び館内活動に関する調査研究・発表

- ・榎山昌夫 「イリヤ・レーピン《ザポロージャのコサック》のふたつの複製画の文化学的考察と《夕べの宴》関連作品の再発見について——「レーピン展」(2012-2013年)後の国内調査研究報告」  
『神奈川県立近代美術館年報2015』神奈川県立近代美術館、2017年3月、pp.49-52
- ・橋 秀文 「新収蔵作品：玉村方久斗の板絵連作について」『神奈川県立近代美術館年報2015』神奈川県立近代美術館、2017年3月、pp.53-55

### 3) そのほかの調査研究・発表

外部媒体への発表

- ・水沢 勉 「くつがえされた光の欠片「サイトゥオンブリーの写真—変奏のリズム」展」『美術手帖』2016年7月1日(No.1038)、p.182
  - ・水沢 勉 「ほどかれ、手わたされる、ほつれた、いのちのかたち」『SHINJI OHMAKI』現代企画室、2016年10月、pp.6-7
  - ・榎山昌夫 「熊沢 淑の「カンヴァス・レリーフ」、熊沢 淑『風—異次元』榎山昌夫監修、求龍堂、2016年11月、pp.124-127
  - ・橋 秀文 「金沢文庫所蔵 本多錦吉郎の水彩画《鎌倉小坪村海岸》について[本多錦吉郎《相州鎌倉由井濱》]」  
『金澤文庫研究』2016年11月1日(第337号)、pp.21-31
  - ・水沢 勉 「“歴史”に光をあてた国立現代美術館果川館の30年[本文韓国語]」  
『월간미술(月刊美術：The monthly art magazine wolgan misool)』2017年1月1日(384)、pp.123-125
  - ・橋 秀文 「現代日本美術の刺激剤としてのアンフォルメル 『あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術』」  
『視る 京都国立近代美術館ニュース』2017年2月28日(486号)、pp.5-7
- ほか計14件

## 外部資金の活用

### 1) 外部資金を活用した調査研究

「シュルレアリスムの受容と発信：瀧口修造による共同制作の実践」平成28年度科学研究費助成事業(基盤研究C：研究分担者 朝木由香)

### 2) 外部資金を活用した展覧会・事業

「原田直次郎展」公益財団法人ポーラ美術振興財団

「原田直次郎展国際シンポジウム 美術の19世紀—ドイツと日本」公益財団法人吉野石膏美術振興財団

「クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—」株式会社 資生堂

## 「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備

2014(平成26)年7月、神奈川県は橋川雄一氏より、神奈川県立近代美術館における彫刻作品の整備を目的とした3,000万円の寄附を受け、神奈川県教育委員会の管理する「神奈川県まなびや基金」に組み入れた。この彫刻整備は寄附受入から5年間のうちに行うことが条件となっており、計画的な活用を目指し、2016年度は鎌倉館の常設彫刻作品の撤去と、その一部の葉山館への移設を行った。

「神奈川県まなびや基金」は、神奈川の県立学校などの教育環境向上のための自主財源確保を目指して2009年度に創設された基金で、寄附金やその運用益金を財源としている。

### ・ 鎌倉館 野外彫刻の撤去と、葉山館への輸送、組立設置等

2016年1月の鎌倉館の活動終了を機に、その敷地内に設置されていた作品14点を撤去し、そのうち9点を葉山館に移設した。

さらに、うち清水九兵衛、アントニー・ゴームリーの2作品は移設後に修復を行っている。

鎌倉館からの作品撤去 2016年2月29日、3月3日、5月10日～13日

葉山館への作品設置 2016年3月8日、6月11日～18日、27日、28日

施工業者：株式会社 東京美術工芸社

### 鎌倉館から撤去後、葉山館に移設した作品

作者	作品名	寸法(mm) 縦×横 / 奥行×幅×h.高さ	制作年	種別
イサム・ノグチ	こけし	右：295×335×h.1040 左：305×510×h.1255	1951	彫刻
木村賢太郎	作品-55	410×430×h.940	1961	彫刻
中島幹夫	軌 09	540×1160×h.1200	1966	彫刻
不詳(井上武吉によるレプリカ制作)	石人	300×680×h.1270	1966	彫刻
山口牧生	棒状の石あるいはCosmic Nucleus	800×2700×h.800	1976	彫刻
清水九兵衛	BELT	1200×2400×h.4800	1978	彫刻
空 充秋	揺藻	415×415×h.3320	1985	彫刻
西 雅秋	イノセンスー火	1270×1270×h.1900	1991	彫刻
アントニー・ゴームリー	Insider VII	275×535×h.1910	1998	彫刻

### 鎌倉館から撤去した作品

作者	作品名	寸法(mm) 縦×横 / 奥行×幅×h.高さ	制作年	種別
	古備前大壺	730×730×h.990	桃山時代	工芸
高橋 清	人	595×875×h.2120	1966	彫刻
李 禹煥	項	1400×1620×h.300	1982 ; 2004	彫刻
海老塚耕一	水と風の体積	1800×1500×h.515	2001	彫刻
内藤 礼	恩寵	1.5×5500×h.2600	2009(1999-)	彫刻

### 修復を行なった作品

作者	作品名	寸法(mm) 縦×横 / 奥行×幅×h.高さ	制作年	種別	修復担当
清水九兵衛	BELT	1200×2400×h.4800	1978	彫刻	文化財修復工房 明舎
アントニー・ゴームリー	Insider VII	275×535×h.1910	1998	彫刻	文化財修復工房 明舎





高橋 清《人》の撤去



高橋 清《人》の土台



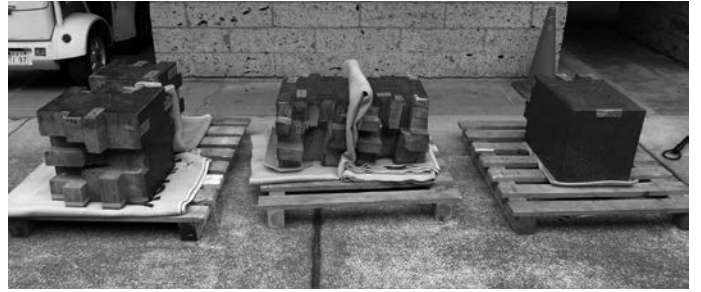
《石人》の撤去



李 禹煥《頂》の撤去



中島幹夫《軌 09》の撤去



空 充秋《揺蕩》の撤去



イサム・ノグチ《こけし》の撤去



西 雅秋《イノセンス-火》の撤去



アントニー・ゴームリー《Insider VII》の撤去



山口牧生《棒状の石あるいはCosmic Nucleus》の撤去



鎌倉館から葉山館への搬送



清水九兵衛《BELT》の基礎工事



山口牧生《棒状の石あるいはCosmic Nucleus》の基礎工事



木村賢太郎《作品-55》の設置



イサム・ノグチ《こけし》の設置



中島幹夫《軌 09》の設置



葉山館の中庭に置かれた《こけし》



葉山館に設置された《石人》(左奥)と《こけし》

撮影：山本 糾

## 講師派遣・外部委員等就任

### 1) 講演会講師等派遣(当館主催の学校連携プログラム以外の講師派遣)

実施日	会場	内容	主催	派遣者
2016年7月24日(日)	トーキョーワンダーサイトレジデンス	「オープン・スタジオ2016-2017／ ダダ誕生100周年 対談」(やなぎみわ氏と)	公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト	三本松倫代
2016年8月11日(木)	鎌倉市川喜多映画記念館	『ふたつの祖国、ひとつの愛——イ・ジュンソプの妻』の 上映に合わせたトークイベント	鎌倉市川喜多映画記念館	李 美那
2017年3月25日(土)	天神イムズ セミナールーム	三菱地所アルティウム企画展覧会 「クエイ兄弟 ファントムミュージアム」開催記念講演会	三菱地所、三菱地所アルティウム、 西日本新聞社	榎山昌夫

### 2) 外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	岡山県立美術館	岡山県立美術館美術品評価委員会委員
	鎌倉市	鎌倉市教育委員会美術工芸作品収集選定委員会委員
	京都国立近代美術館	美術作品購入等選考委員会委員
	熊本市	熊本市美術品等収集審査委員会委員
	群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	公益財団法人かながわ国際交流財団	理事
	公益財団法人ポーラ美術振興財団	助成事業選考委員
	東京藝術大学	客員教授
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会委員
	長野市	長野市野外彫刻賞選考委員
	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	広島県立美術館	広島県立美術館評価委員会委員
	福岡市	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
橋 秀文	神奈川県	第52回神奈川県美術展平面立体部門審査員
	世田谷区	世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	平塚市	平塚市美術品選定評価委員会
	横浜市	横浜市美術資料価額評価委員会委員
榎山昌夫	公益財団法人かながわ国際交流財団	みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業作業部会委員
	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
	鳥取県美術展覧会運営委員会	鳥取県美術展覧会審査員
	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会委員
李 美那	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員
長門佐季	一般社団法人照明学会	美術館・博物館照明技術指針作成委員会委員
	公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館ほか	VOCA展2017推薦委員
伊藤由美	愛知県立芸術大学	客員教授
	(株)丹青研究所	「美術工芸品の公開活用の現状調査事業」ワーキングチーム委員
	東京藝術大学	非常勤講師
	文化庁	「美術工芸品の公開活用の現状調査事業」の一般競争入札(総合評価落札方式)における技術審査専門員
三本松倫代	神奈川県女流美術家協会	第56回神奈川県女流美術家協会展審査員
高嶋雄一郎	神奈川県	第45回文化財保護ポスター展審査員
	公益財団法人かながわ国際交流財団	みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業作業部会委員
西澤晴美	神奈川県	第52回神奈川県美術展生徒部門審査員

# 運営・管理報告

## 概況

### 1) 沿革

昭和26年11月17日 神奈川県立近代美術館として開館  
 昭和41年3月31日 収蔵庫及び常設展示室並びに  
 附属棟を増設  
 昭和44年3月31日 学芸員室を増設  
 昭和49年8月1日 神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年  
 神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理  
 課、学芸課の2課を置く  
 昭和59年7月28日 別館を開館  
 平成3年10月30日 本館の改修工事完了  
 平成13年7月5日 PFI事業契約の締結  
 平成15年6月1日 神奈川県立近代美術館組織規則の改正に  
 より、管理課、企画課、普及課の3課体制となる  
 平成15年10月11日 葉山館を開館  
 平成28年1月31日 鎌倉館の一般公開を終了  
 平成28年3月31日 鎌倉館を閉館  
 平成28年12月22日 鎌倉館の建物を(宗)鶴岡八幡宮に譲渡

### 2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

### 3) 施設の状況

平成28年4月1日現在

ア 土地	面積
県有	(葉山館分)※生涯学習課管理 15,034.8㎡ (鎌倉別館分) 4,937.0㎡ 4,243.1㎡
借用	(鎌倉館分) (うち有償分)1,547.2㎡ (うち無償分)2,695.8㎡
イ 建物	延床面積
県有	(鎌倉館分) 2,435.0㎡ (鎌倉別館分) 1,599.0㎡
借用	(葉山館分) (有償分)7,111.51㎡

## 収入・支出の状況

収入		
科目	金額(千円)	内訳
行政財産使用料	6	鎌倉別館電柱等土地使用料
使用料	30,560	観覧料収入
立替収入	1,839	レストラン他光熱水費
雑入	9,934	図録販売等
教育受講料収入	247	県立機関活用講座
計	42,586	

## PFI事業の概要

### 1) 事業内容

PFI法に基づいて、PFI事業者が葉山館建設やその後の維持管理業務などを実施し、県は提供されたサービスの対価を30年間で事業者に支払う。PFI事業者が実施する主な業務は次のとおりである。

ア 葉山館建設業務：葉山館新築工事、  
 バスベイ・歩道整備工事など

イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など  
 鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理(修理を含まない)、  
 清掃、警備、受付・監視など  
 ※鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。

ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、  
 独立採算による付帯施設  
 (レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営

エ 備品等整備業務：葉山館備品整備、美術作品等移転など

### 2) 事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ  
 所在地：横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2  
 (落札した企業グループが設立した事業会社)

支出(人件費含まず)		
科目	金額(千円)	内訳
維持運営費	48,304	維持管理
美術館事業費	52,408	展覧会開催費
調査研究事業費	360	調査研究資料購入
教育普及事業費	1,737	教育普及事業
美術作品整備費	62,603	美術作品購入・修復・鎌倉別館改修に係る関連業務
特定事業費	386,651	PFI事業費
県立機関活用講座開催事業費	425	
教育施設維持修繕費	1,762	施設・設備修繕
計	554,250	

## 関係法規

### 神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日  
条例第6号

- (趣旨)
- 第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。
- (設置)
- 第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。
- (職員)
- 第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。
- (観覧料の納付)
- 第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。
- 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。
  - 前2項の観覧料は、前納とする。
- (観覧料の減免)
- 第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。
- 教育委員会が開催する行事に参加する者
  - 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者
  - その他教育委員会が適当と認めたる者
- (観覧料の不還付)
- 第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めるときは、この限りでない。
- (資料の特別利用)
- 第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。
- (利用の制限)
- 第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。
- この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
  - 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
  - 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
  - その他教育委員会が必要と認めるとき。
- (委任)
- 第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 附則

- この条例は、昭和42年4月1日から施行する。
- 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

#### 附則(昭和50年12月27日条例第58号抄)

- この条例は、昭和51年4月1日から施行する。(後略)

#### 附則(昭和55年12月23日条例第60号抄)

- この条例は、昭和56年4月1日から施行する。(後略)

#### 附則(昭和58年12月21日条例第41号抄)

#### (施行期日)

- この条例は、昭和59年1月1日から施行する。ただし、(中略)第8条の規定は公布の日から起算して8月を超えない範囲内で神奈川県教育委員会規則で定める日から施行する。

#### 附則(平成4年12月22日条例第62号)

#### (施行期日)

- この条例は、平成5年1月1日から施行する。ただし、第2条及び第5条から第9条までの規定は、同年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第1条、第3条、第4条及び第10条から第12条までの規定の施行の際現に申込みを受理しているものに係る神奈川県立音楽堂、神奈川県立相模湖漕艇場、神奈川県立体育センター、神奈川県立県央地区体育センター、神奈川県立西湘地区体育センター、神奈川県立武道館、神奈川県立スポーツ会館若しくは神奈川県立相模原球場(以下「神奈川県立音楽堂等」という。)の利用又は平成5年1月1日から同年3月31日までの間の神奈川県立音楽堂等の利用(相模湖漕艇場の艇庫の利用については、平成5年1月1日から同年3月31日までの間にその利用を開始し、かつ、その引き続き利用期間が平成5年4月1日以降にまたがる場合の当該平成5年4月1日以降の期間における利用を含む。)に係る使用料については、これらの規定に規定する各条例のこれらの規定による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則(平成13年3月27日条例第22号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附則(平成15年3月20日条例第43号)

この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成15年5月教育委員会規則第10号で、同15年6月1日から施行)

附則(平成19年1月30日条例第3号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附則(平成20年1月25日条例第1号)

この条例は、公布の日から施行する。

附則(平成21年3月27日条例第25号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

別表(第4条関係)

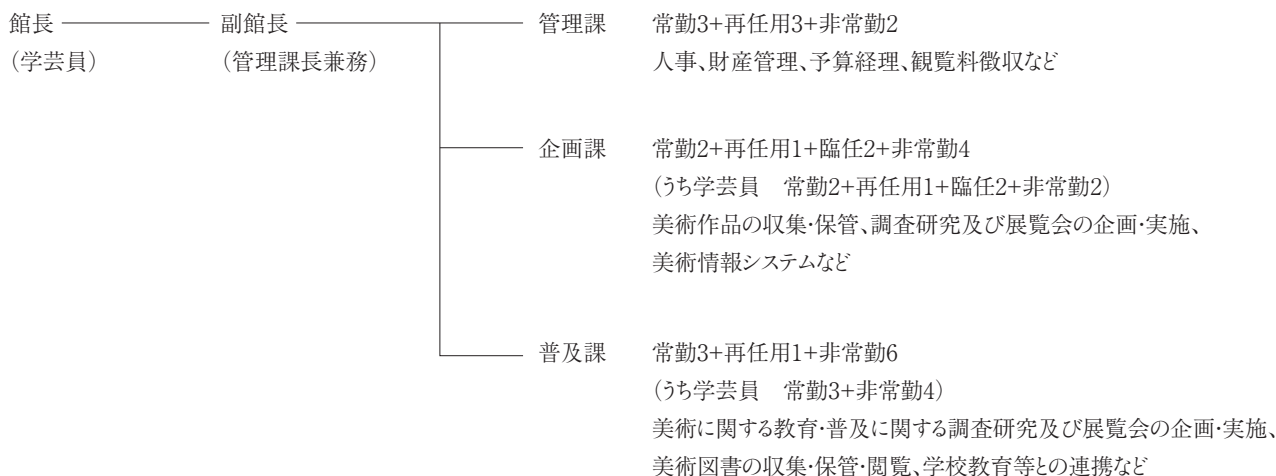
区分	個人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者	同 100円	同 100円
高校生		

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成28年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 29人

常勤9人(うち学芸員5人)、再任用5人(うち学芸員1)、臨任2人(うち学芸員2人)、非常勤13人(うち学芸員7人))

施設別配置状況

葉山館 21人(常勤7人(うち学芸員3人)、再任用4人(うち学芸員1人)、臨任1人(うち学芸員1人)、非常勤9人(うち学芸員4人))

鎌倉別館 8人(常勤2人(うち学芸員2人)、再任用1人、臨任1人(うち学芸員1人)非常勤4人(うち学芸員3人))

## 職員一覧

館長(非常勤)	水沢 勉		
副館長	井上 宏一		
管理課	課長(兼)	井上 宏一	
	主査	奈良部 康則	
	主査	松島 隆志	平成28年4月1日から
	主査	沼田 洋子	
	管理業務主任専門員	石井 渉	
	管理業務専門員	山崎 崇	
	管理業務専門員	小野 和子	
	非常勤事務補助員	渡邊 伸子	
	非常勤事務補助員	二藤部 映	
企画課	課長(兼)	橋 秀文	
	主任学芸員	李 美那	
	主任学芸員	長門 佐季	
	学芸員	西澤 晴美	
	臨時学芸員	朝木 由香	
	臨時学芸員	彦根 延代	平成28年4月29日まで
	非常勤研究員	伊藤 由美	
	非常勤学芸員	荒木 和	
	非常勤学芸員	渡邊 美喜	平成28年4月1日から
	非常勤事務嘱託	平戸 誠一郎	
普及課	課長(兼)	橋 秀文	
	主任学芸員	榎山 昌夫	
	主任学芸員	三本松 倫代	
	主任学芸員	高嶋 雄一郎	
	非常勤学芸員	土居 由美	平成28年4月1日から
	非常勤学芸員	松尾 子水樹	
	非常勤学芸員	川人 未来	
	非常勤学芸員	兄矢野 あゆみ	
	[美術図書室]		
	図書業務専門員	山中 久美子	
	非常勤司書	藤代 知子	
	非常勤司書	小川 さよ子	
	非常勤司書	大野 寿子	
	非常勤司書	山中 潤	平成28年5月15日から7月31日まで

**年報 2016(平成28)年度**

発行日：2018年3月22日

編集発行：神奈川県立近代美術館

葉山 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-5000

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

印刷：朝日オフセット印刷株式会社

**ANNUAL REPORT 2016**

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2018

Printed by Asahi Offset Printing Co.Ltd.

©The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2018

